LEXUS

# CT200h

取扱説明書

イラスト目次　**イラスト**から検索

1 安全・安心のために　お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

2 メーターの見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転　運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能　室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた　車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報　車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
- **症状**から検索
- **音**から検索
- **アルファベット**で検索
- **五十音**で検索

知っておいていただきたいこと ..... 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

## 1 安全・安心のために

### 1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に ..... 24
安全なドライブのために ..... 26
シートベルト ..... 28
SRS エアバッグ..... 33
排気ガスに対する注意 ..... 41

### 1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは ..... 42
チャイルドシート..... 43

### 1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 .... 63
ハイブリッドシステムの注意 .... 67

### 1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム ..... 73
オートアラーム..... 74

## 2 メーターの見方

### 2. メーターの見方
警告灯／表示灯..... 82
計器類 ..... 86
マルチインフォメーション
ディスプレイ ..... 92
エネルギーモニター／
Harmonious Driving
Navi. 画面／燃費画面..... 96

## 3 各部の操作

### 3-1. キーの取り扱い
キー ..... 108

### 3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア ..... 113
バックドア..... 118
スマートエントリー＆
スタートシステム ..... 123

### 3-3. シートの調整
フロントシート ..... 128
リヤシート..... 130
運転席ポジションメモリー／
メモリーコール機能 ..... 132
ヘッドレスト ..... 136

### 3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 138
インナーミラー ..... 140
ドアミラー..... 142

### 3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ ..... 146
ムーンルーフ..... 149

## 4 運転

### 4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 154
荷物を積むときの注意..... 163

### 4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ ..... 164
EV ドライブモード ..... 169
トランスミッション..... 171
方向指示レバー..... 176
パーキングブレーキ..... 177

### 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 178
オートマチックハイビーム ..... 183
フォグランプスイッチ..... 187
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 190
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 194
ヘッドランプクリーナー..... 196

### 4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 197

### 4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+..... 200
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 206
LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）..... 215
レーダークルーズコントロール..... 225
PKSA（パーキングサポートアラート）..... 238
クリアランスソナー ..... 239
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 248
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 254
ドライブモードセレクトスイッチ ..... 262
運転を補助する装置 ..... 263

### 4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 268
寒冷時の運転..... 270

## 5 室内装備・機能


### 5-1. リモートタッチ

リモートタッチ..... 274
10.3 インチディスプレイ..... 277

### 5-2. エアコンの使い方

オートエアコン..... 279
ステアリングヒーター／
シートヒーター..... 289

### 5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 ..... 291
・フロントインテリアランプ・
パーソナルランプ
メインスイッチ ..... 291
・パーソナルランプ..... 292
・リヤインテリアランプ..... 292

### 5-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧 ..... 293
・グローブボックス..... 294
・コンソールボックス..... 294
・カップホルダー／
ボトルホルダー／
ドアポケット ..... 295
・小物入れ ..... 296
ラゲージルーム内装備..... 297

### 5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 301
・サンバイザー ..... 301
・バニティミラー ..... 301
・アクセサリーソケット..... 302
・アクセサリーコンセント.... 303
・アシストグリップ..... 309


## 6 お手入れのしかた


### 6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 312
内装の手入れ..... 316

### 6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 322
ガレージジャッキ ..... 325
エンジンルームカバー ..... 326
エアコンフィルターの交換 ..... 327
ウォッシャー液の補充 ..... 329
タイヤについて ..... 330
タイヤ空気圧について ..... 334
電子キーの電池交換 ..... 336
ヒューズの点検、交換 ..... 339
電球（バルブ）の交換 ..... 342

## 7 万一の場合には


### 7-1. まず初めに

故障したときは..... 356
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 357
発炎筒 ..... 358
車両を緊急停止するには ..... 360
水没したときは..... 361

### 7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 362
警告灯がついたときは..... 368
警告メッセージが表示されたときは ..... 372
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 393
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 407
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 417
電子キーが正常に働かないときは..... 419
補機バッテリーがあがったときは..... 421
オーバーヒートしたときは ..... 426
スタックしたときは..... 430


## 8 車両情報


### 8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）... 434

### 8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 ..... 439

### 8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 ..... 447


## さくいん


こんなときは（症状別さくいん）..... 450
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 453
アルファベット順さくいん..... 455
五十音順さくいん ..... 456




次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- G-Link

# 知っておいていただきたいこと

## 本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

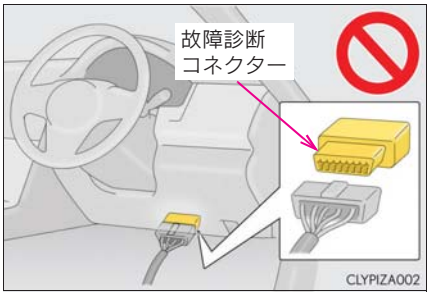
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

## 不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF送信機の取り付けについては、P. 9も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

## 故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーが上がったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。




## 車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・前方カメラの画像情報

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

## イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者･車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

## RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System+
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

## 保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

# 本書の見方

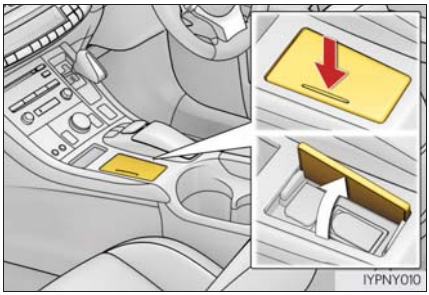
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

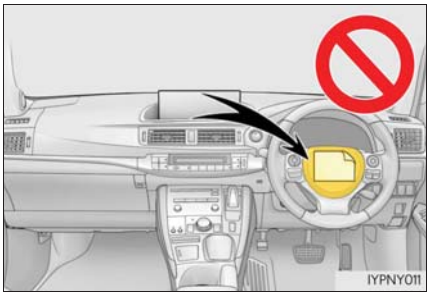
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。




説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”　“このようにしないでください”　“このようなことを起こさないでください”　という意味です。

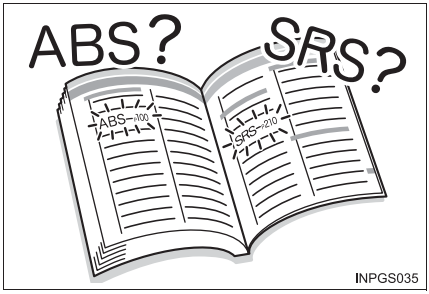



知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

# 検索のしかた

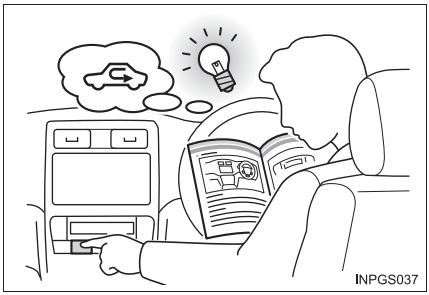
■ **名称から探す**

・五十音順さくいん.....456
・アルファベット順
さくいん .....455



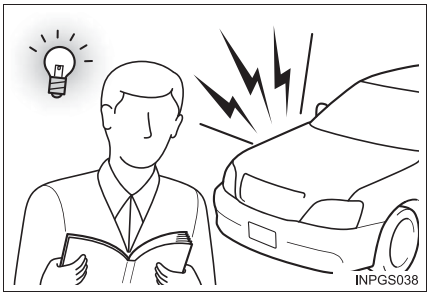

■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12



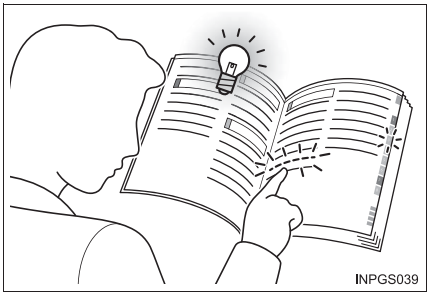

■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....450
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....453



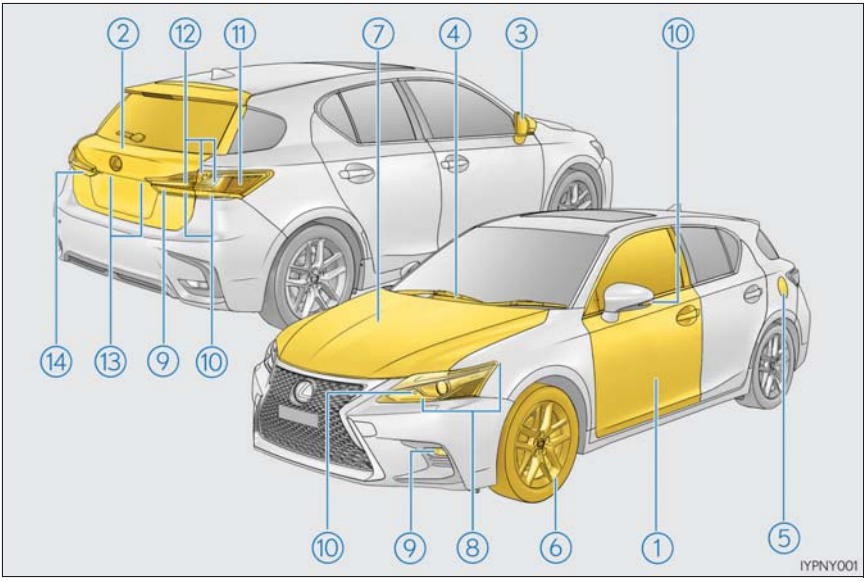

■ **タイトルから探す**

・目次 .....2



# イラスト目次

## ■外観




外観はグレード等により異なります。


① **ドア . . . . . .P. 113**

施錠／解錠 . . . . . .P. 113, 114

ドアガラスの開閉 . . . . . .P. 146

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . .P. 419

警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 370, 374

② **バックドア . . . . . .P. 118**

車外から開ける . . . . . .P. 118

警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 370, 375

③ **ドアミラー . . . . . .P. 142**

鏡面の角度調整 . . . . . .P. 142

ミラーの格納 . . . . . .P. 143

調整位置の登録★ . . . . . .P. 132

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . .P. 283

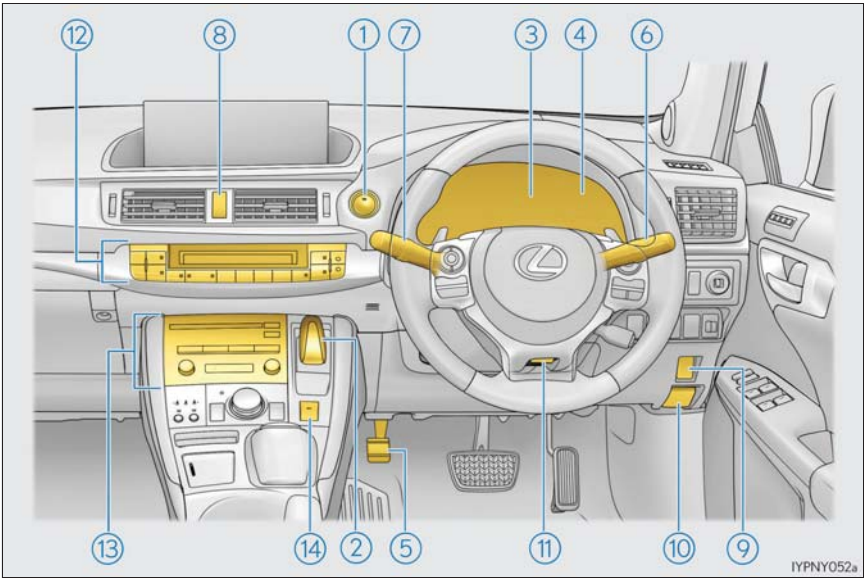
④ **ワイパー** . . . . . **P. 190**
冬季の注意 . . . . . P. 270
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ . . . . . P. 284
洗車時の注意 . . . . . P. 314
⑤ **給油口** . . . . . **P. 197**
給油方法 . . . . . P. 197
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 434
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 330**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 437
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 270
点検・ローテーション . . . . . P. 330
パンク時の対処 . . . . . P. 393, 407
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 322**
開け方 . . . . . P. 322
エンジンルームカバー . . . . . P. 326
エンジンオイル . . . . . P. 434
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 426
警告メッセージ . . . . . P. 375

**走行に関わる外装のランプバルブ**
（交換要領：P. 342, ワット数：P. 438）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★** . . . . . **P. 178**
⑨ **フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 187**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 176**
⑪ **リヤサイドマーカーランプ** . . . . . **P. 178**
⑫ **尾灯・制動灯**
緊急ブレーキシグナル . . . . . P. 263
⑬ **番号灯** . . . . . **P. 178**
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 171

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■インストルメントパネル





① **パワースイッチ . . . . . .P. 164**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . .P. 164, 165

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . .P. 360

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . .P. 417

警告メッセージ . . . . . .P. 389

② **シフトレバー . . . . . .P. 171**

シフトポジションの切りかえ . . . . . .P. 171

けん引時の注意 . . . . . .P. 362

③ **メーター . . . . . .P. 86**

見方・明るさの調整 . . . . . .P. 86, 88

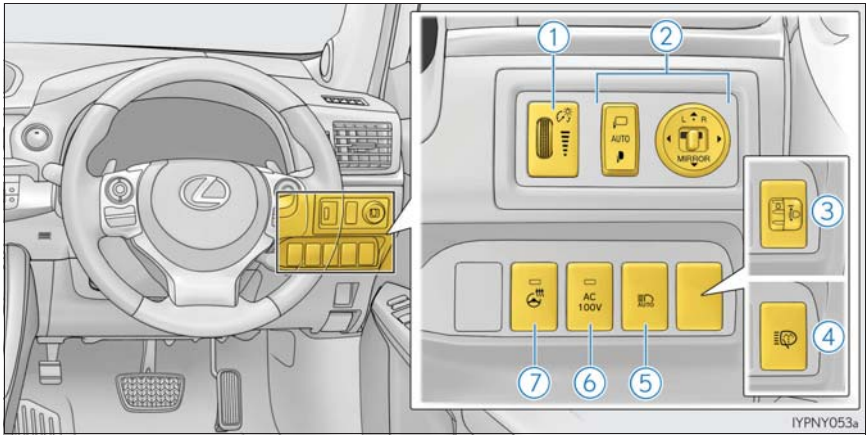
警告灯／表示灯 . . . . . .P. 82

警告灯点灯時の対処 . . . . . .P. 368

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 92**
表示内容 . . . . . .P. 92
エネルギーモニター . . . . . .P. 96
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . .P. 372
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . .P. 177**
かける・解除する . . . . . .P. 177
冬季の注意 . . . . . .P. 271
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . .P. 368, 377
⑥ **方向指示レバー . . . . . .P. 176**
**ランプスイッチ . . . . . .P. 178**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・リヤサイドマーカーランプ・
LED デイライト★ . . . . . .P. 178
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★. . . . . .P. 187
⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 190**
**リヤワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 194**
使い方. . . . . .P. 190, 194
ウォッシャー液の補充 . . . . . .P. 329
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 357**
⑨ **給油口オープナー . . . . . .P. 197**
⑩ **ボンネット解除レバー . . . . . .P. 322**
⑪ **ハンドル位置調整レバー . . . . . .P. 138**
⑫ **オートエアコン . . . . . .P. 279**
操作方法 . . . . . .P. 279
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー). . . . . .P. 283
⑬ **オーディオ ※**
⑭ **P ポジションスイッチ. . . . . .P. 172**

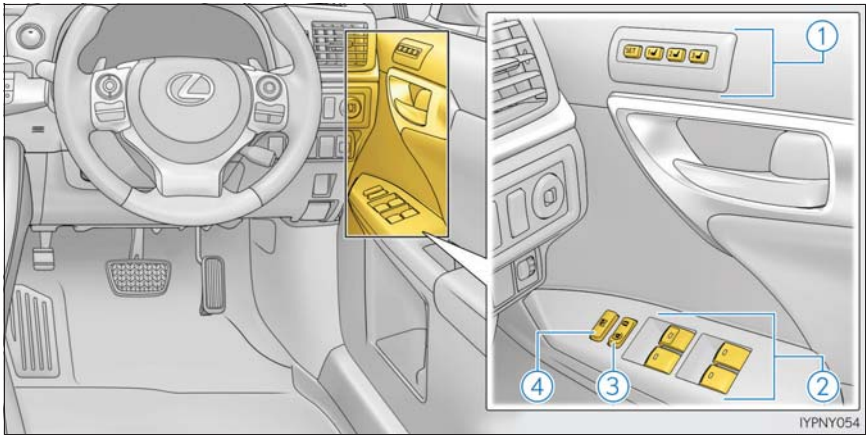
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ■スイッチ類



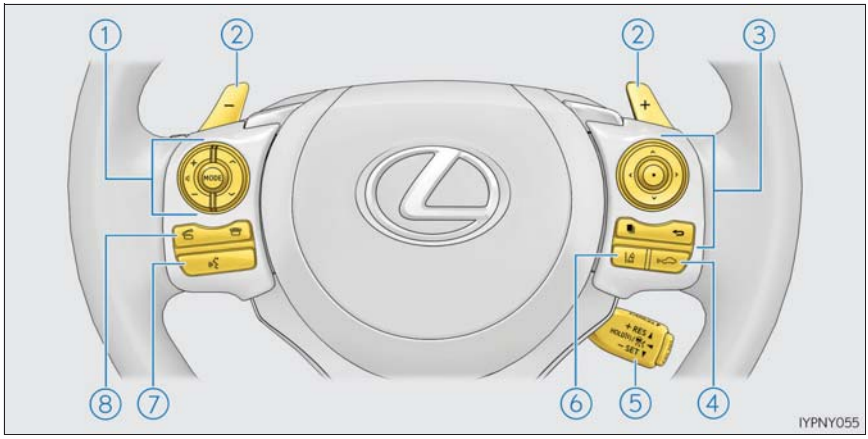


① インストルメントパネル照度調整ダイヤル . . . . . .P. 88
② ドアミラースイッチ . . . . . .P. 142
③ 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . .P. 180
④ ヘッドランプクリーナースイッチ★ . . . . . .P. 196
⑤ オートマチックハイビームスイッチ . . . . . .P. 184
⑥ アクセサリーコンセントメインスイッチ★. . . . . .P. 303
⑦ ステアリングヒータースイッチ★ . . . . . .P. 289

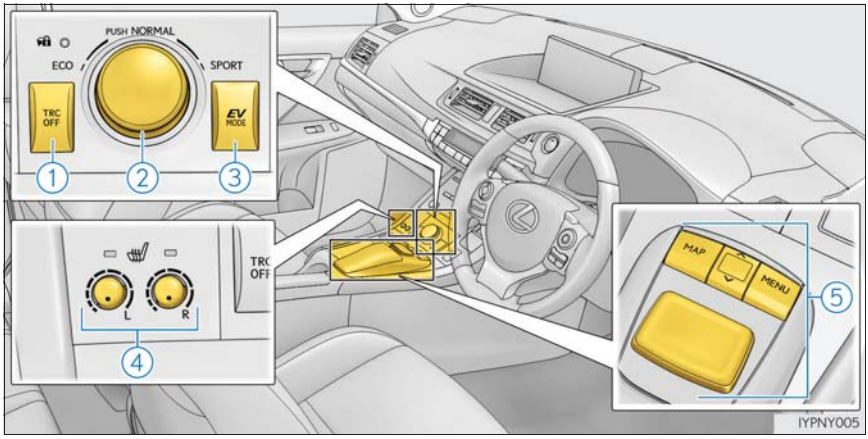



① 運転席ポジションメモリーボタン★ . . . . . .P. 132
② パワーウインドウスイッチ. . . . . .P. 146
③ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 114
④ ウインドウロックスイッチ. . . . . .P. 146

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



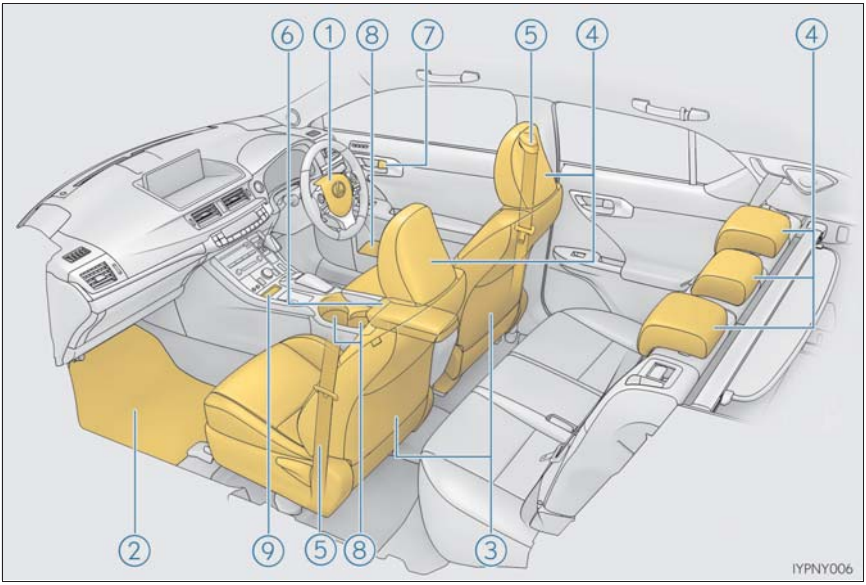

① オーディオスイッチ ※
② パドルシフトスイッチ . . . . . .P. 173
③ メーター操作スイッチ . . . . . .P. 93
④ 車間距離切りかえスイッチ. . . . . .P. 230
⑤ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール. . . . . .P. 225
⑥ LDA（レーンディパーチャーアラート
[ ステアリング制御機能付き ]）スイッチ . . . . . .P. 219
⑦ トークスイッチ ※
⑧ 電話スイッチ ※



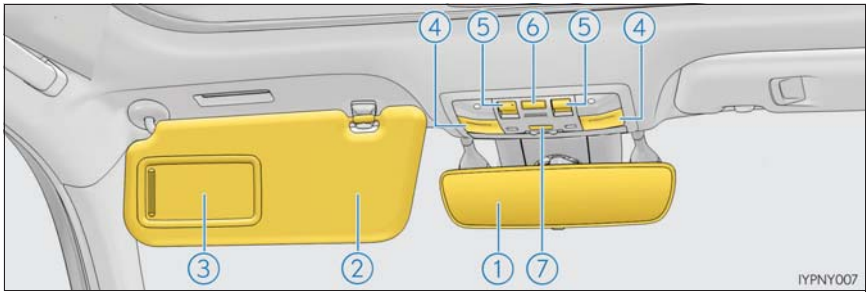

① TRC OFF スイッチ . . . . . .P. 264
② ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 262
③ EV ドライブモードスイッチ. . . . . .P. 169
④ シートヒータースイッチ . . . . . .P. 289
⑤ リモートタッチ ※ . . . . . .P. 96, 274

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## 室内




① SRS エアバッグ . . . . . .P. 33
② フロアマット . . . . . .P. 24
③ フロントシート . . . . . .P. 128
④ ヘッドレスト . . . . . .P. 136
⑤ シートベルト . . . . . .P. 28
⑥ コンソールボックス . . . . . .P. 294
⑦ ロックレバー . . . . . .P. 115
⑧ カップホルダー／ボトルホルダー . . . . . .P. 295
⑨ 小物入れ . . . . . .P. 296




① インナーミラー . . . . . .P. 140
② サンバイザー ※1 . . . . . .P. 301
③ バニティミラー . . . . . .P. 301
④ インテリアランプ ※2 . . . . . .P. 291
パーソナルランプ . . . . . .P. 291
⑤ ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 149
⑥ 侵入センサー OFF スイッチ . . . . . .P. 77
⑦ ヘルプネットスイッチパネル ※3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 46）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。
※3：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

# 安全・安心のために

～必ずお読みください～

1


## 1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に .....24
安全なドライブのために.....26
シートベルト .....28
SRS エアバッグ.....33
排気ガスに対する注意.....41

## 1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは.....42
チャイルドシート .....43

## 1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴.....63
ハイブリッドシステムの注意.....67

## 1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム.....73
オートアラーム .....74

# 運転する前に

## 点検整備

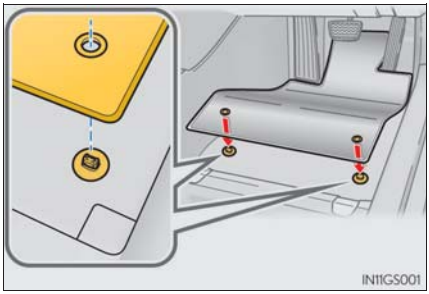
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

## フロアマット

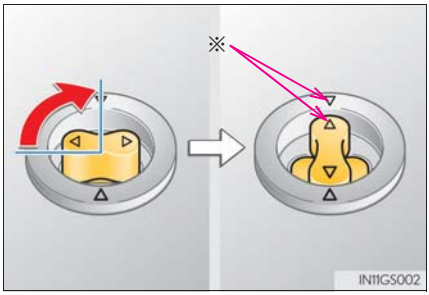
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む




2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。




固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■運転席にフロアマットを敷くとき**

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

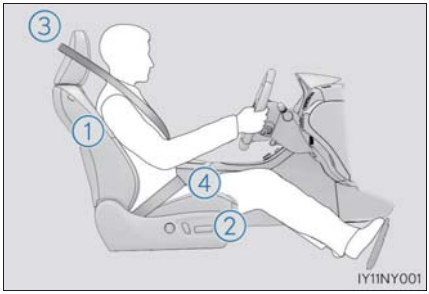
**■運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

# 安全なドライブのために

**安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。**

## 正しい運転姿勢について




① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 128）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 128）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 136）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

## シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）

## ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 140, 142）

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

# シートベルト

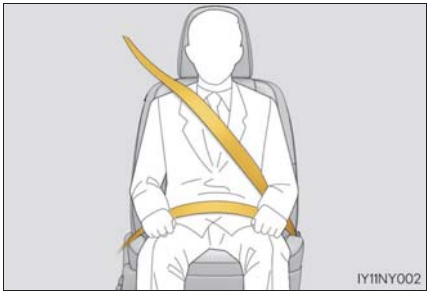
**走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。**

## 正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

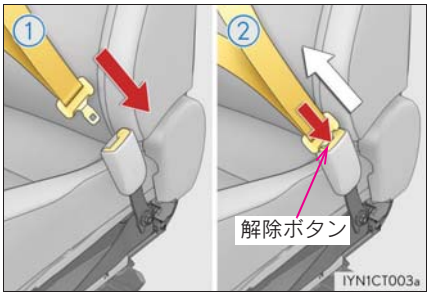
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする




## 着け方、はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

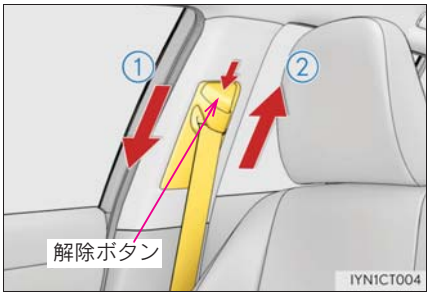



## シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

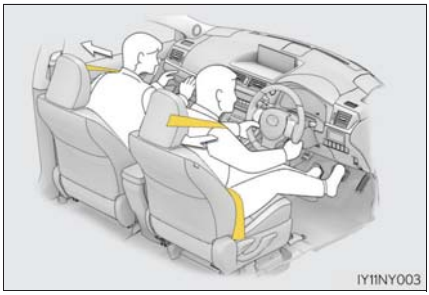
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



## シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。




## リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルをシートクッションの穴に格納してください。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 43)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 28)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる

●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

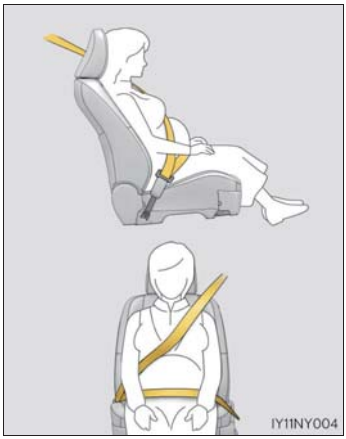
●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

**警告**

■**妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。




■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 58

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

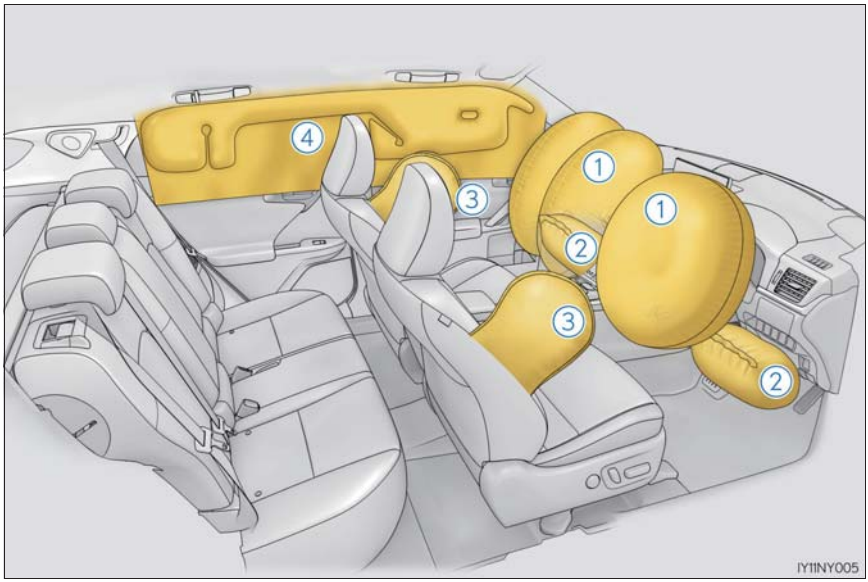
**警告**

■ **シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

# SRS エアバッグ

**SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。**




▶ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

**警告**

■SRS エアバッグについて

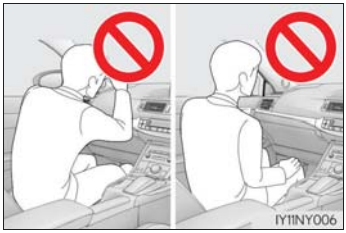
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 43)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない




●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

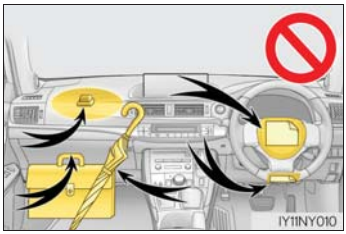
**警告**

■SRS エアバッグについて

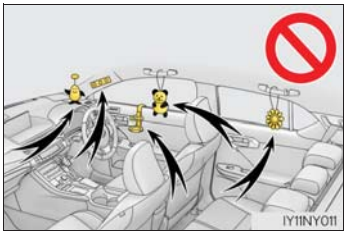
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない




●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P. 403）




●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

**警告**

■**SRS エアバッグについて**

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

■**改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなどの周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造

●グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
・ SRS エアバッグが作動した
・ シートベルトプリテンショナーが作動した
・ 後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

### ■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

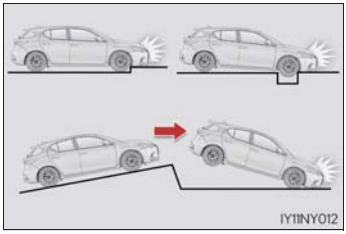
### ■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



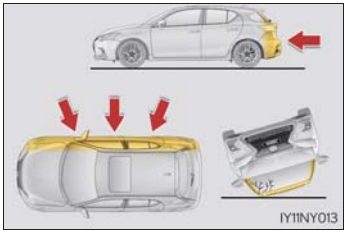

### ■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

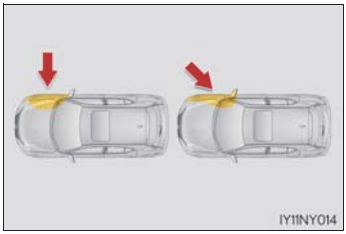


### ■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

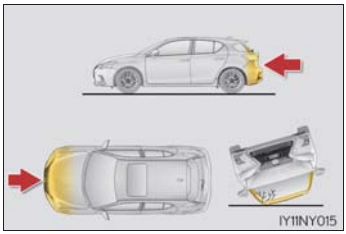



SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

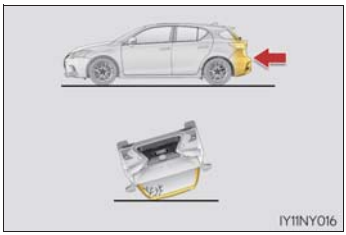
●横転




SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

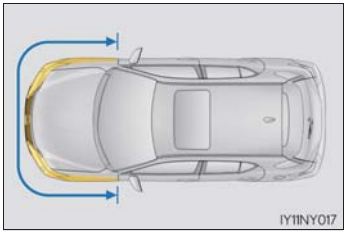


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

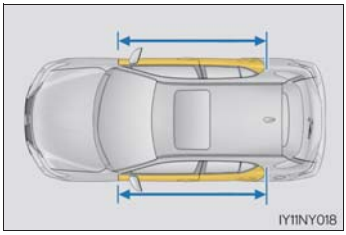
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

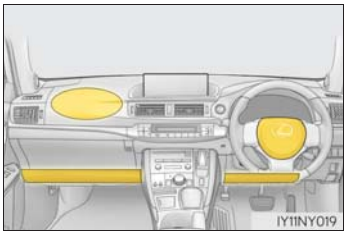
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



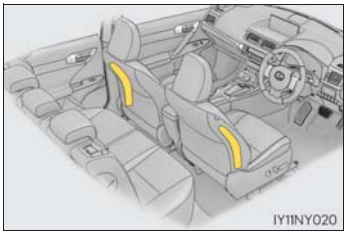

●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



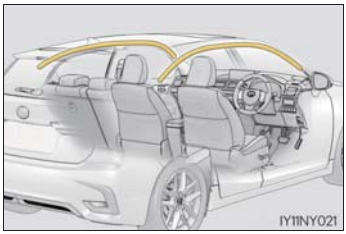

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近･インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき




●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき




●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



# 排気ガスに対する注意

**排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。**

**警告**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■走行中の留意事項**

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

**■駐車するとき**

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**■排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

# お子さまを乗せるときは

**お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。**

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 115）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 146）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

**警告**

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け方法」を参照してください。（→ P. 56）

# チャイルドシート

**ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。**

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

## 目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 43
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 45
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・・・P. 48
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 56
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 57
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・P. 59
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 61

## 知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 48）

**警告**

■**お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■**チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→ P. 48)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

## チャイルドシートを使用するときは

### ■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす

  背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
  取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**警告**

■**チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

## シート位置別チャイルドシートの適合性について

### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 50）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 54）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

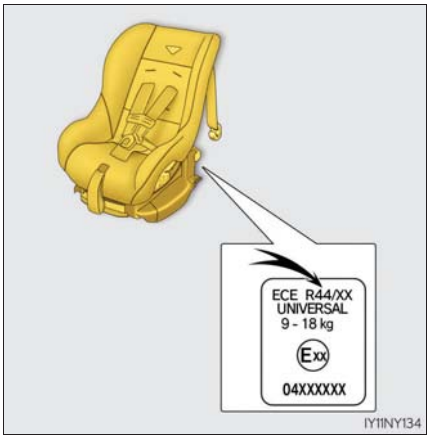
### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

**1** チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44[※1] に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク[※2]
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。




※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

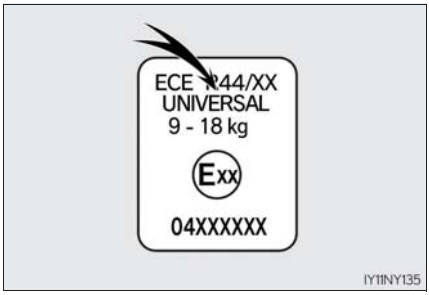
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

**2** チャイルドシートのカテゴリーを確認する

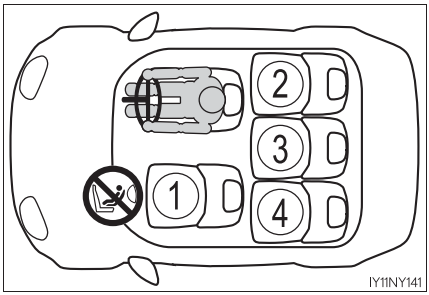
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



## ■ シート位置別チャイルドシートの適合性




| | |
|---|---|
| 1 ※1, 2, 3 | U ※4 L |
| 2 ※3 | U L |
| 3 ※3 | L |
| 4 ※3 | U L |

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 54）に記載されたチャイルドシートに適しています。

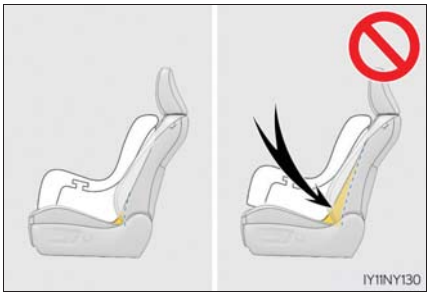
ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。




※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

## ■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

| 着座位置 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| シート位置の番号 | ① | ② | ③ | ④ |
| ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無） | 有<br>前向きのみ | 有 | 無 | 有 |
| アイサイズ着座位置（有／無） | 無 | 無 | 無 | 無 |
| 搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2） | × | × | × | × |
| 搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3） | × | × | × | × |
| 搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3） | × | F2X,<br>F2, F3 | × | F2X,<br>F2, F3 |
| 搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3） | × | × | × | × |

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

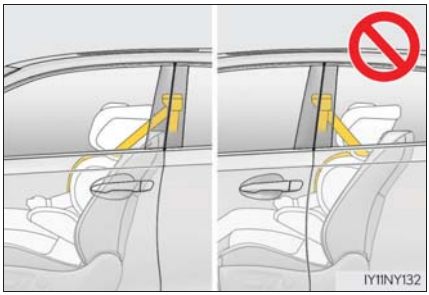
| 治具 | 使用の向き・形状・大きさ |
|---|---|
| F3 | 全高前向きチャイルドシート |
| F2 | 低型前向きチャイルドシート |
| F2X | 低型前向きチャイルドシート |
| R3 | 大型うしろ向きチャイルドシート |
| R2 | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R2X | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R1 | うしろ向きチャイルドシート |
| L1 | 左向き寝台式チャイルドシート |
| L2 | 右向き寝台式チャイルドシート |
| B2 | ジュニアシート |
| B3 | ジュニアシート |

## ■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

| 質量グループ | 推奨チャイルドシート | 着座位置 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ① | ② | ③ | ④ |
| 0、0+（13kg まで） | レクサス純正 NEO G-Child baby | × | ○ | ○ | ○ |
| | レクサス純正 NEO G-Child ISO leg | × | ○ | × | ○ |
| Ⅰ（9 ～ 18kg） | レクサス純正 NEO G-Child baby | ○ 前向きのみ | ○ | ○ | ○ |
| | レクサス純正 NEO G-Child ISO leg | × | ○ | × | ○ |
| Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg） | レクサス純正ジュニアシート | ○ | ○ | × | ○ |

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

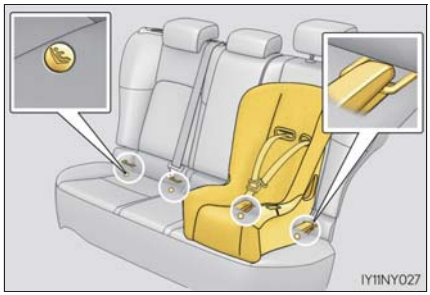
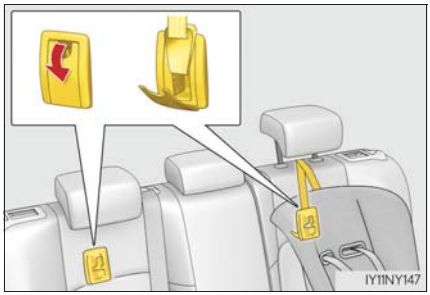
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。




- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

## チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

| 固定方法 | | ページ |
|---|---|---|
| シートベルトで固定する | | P. 57 |
| ISOFIX ロアアンカレッジで固定する |  | P. 59 |
| テザーベルトを固定する |  | P. 61 |

## チャイルドシートをシートベルトで固定する

### ■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49, 50）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 45）

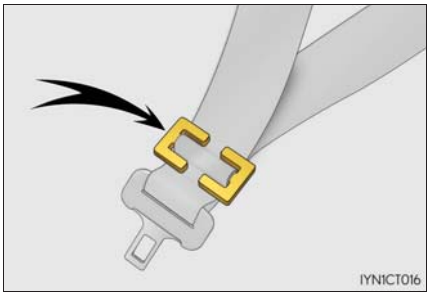
2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 136）

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）




5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 58）

## ■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

**警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

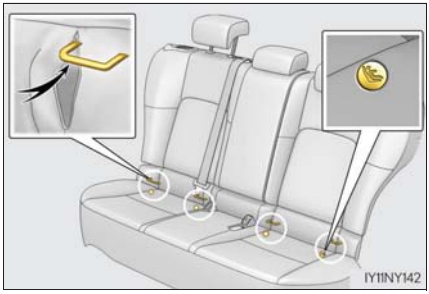
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

### ■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にISOFIXロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）

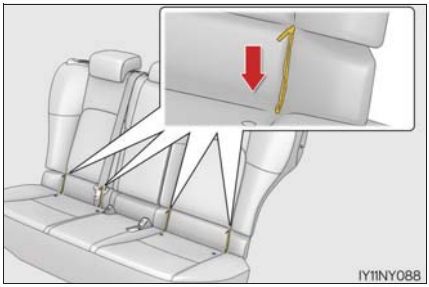



### ■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49, 50）

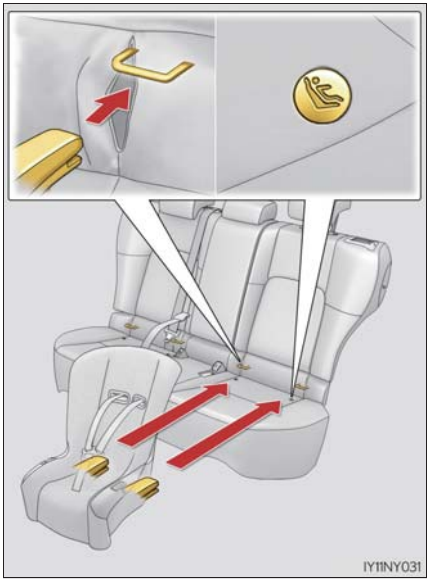
**1** 背もたれ下部にあるファスナーを下げる




**2** ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 136）

**3** ロアアンカレッジの位置を確認し、チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。




**4** 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 58）

**警告**

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

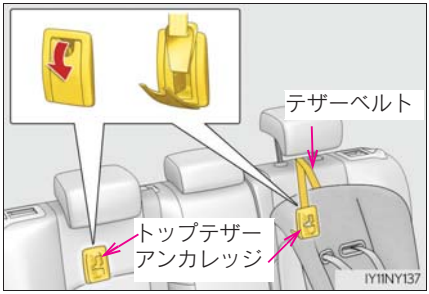
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## トップテザーアンカレッジを使用する

### ■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

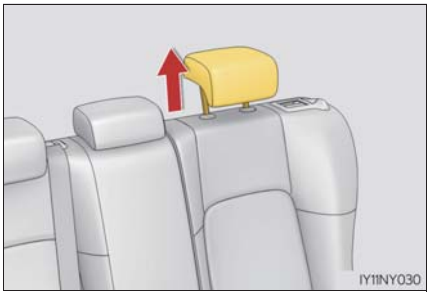



### ■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

**1** ヘッドレストを上げる

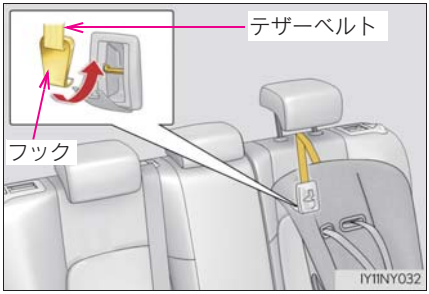
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 136）




**2** トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 58）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



**警告**

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

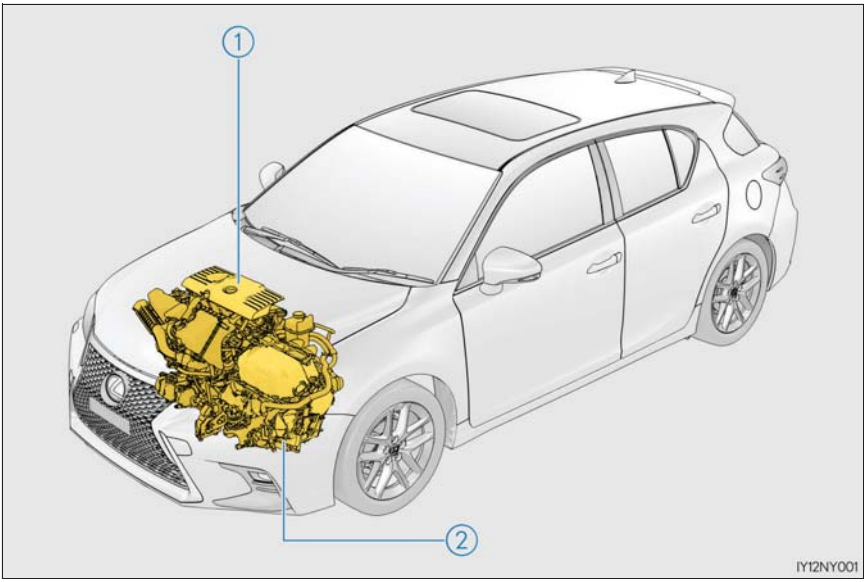
**注意**

■**トップテザーアンカレッジについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

# ハイブリッドシステムの特徴

**ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。**




イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

### ◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→ P. 65)

### ◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

### ◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

### ◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

## 車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトポジションが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトポジションが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●駆動用電池充電時

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 424

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート横（運転席側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

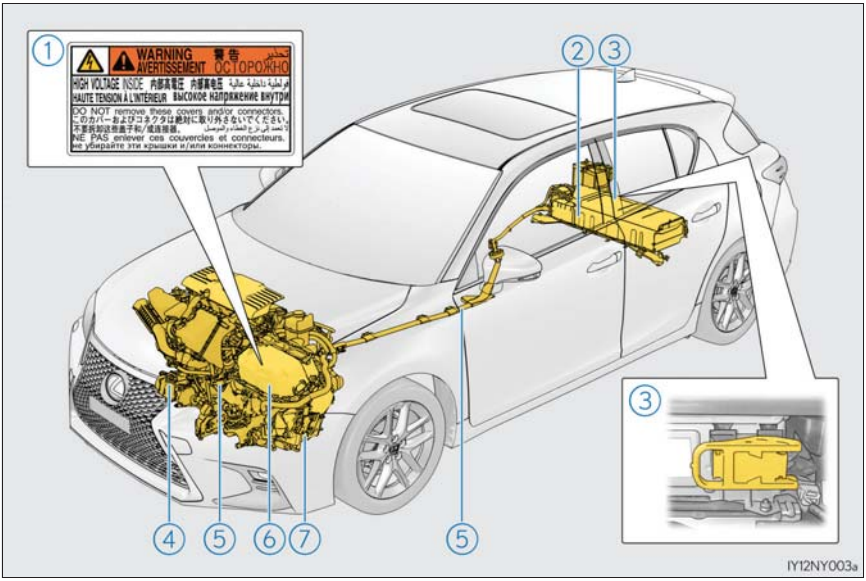
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないように変更できます。（カスタマイズ一覧:→ P. 439）

# ハイブリッドシステムの注意

**ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。**

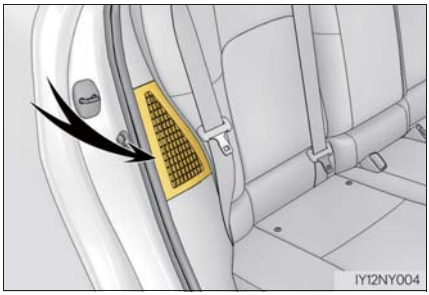



※ イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① コーションラベル
② 駆動用電池
③ サービスプラグ
④ エアコンコンプレッサー
⑤ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑥ パワーコントロールユニット
⑦ 電気モーター

## 駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横（運転席側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力が制限され、燃費悪化の原因となります。




## 緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

## 警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 372）

知識

■ **警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 370）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 11.8L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください。）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

**警告**

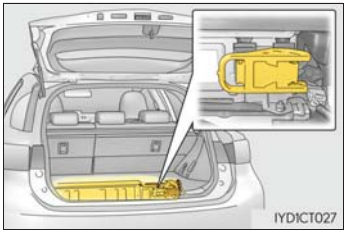
■高電圧、高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



## 警告

### ■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する。

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。（→ P. 362）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

### ■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口をふさいだりすると駆動用電池の入出力が制限され、燃費悪化の原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をおすすめします。フィルターの清掃・交換については、レクサス販売店にご相談ください。
「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターの目づまりが考えられます。吸入口の清掃をしてください。(→ P. 317)
吸入口を清掃しても表示が消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

# イモビライザーシステム

**キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。**
**車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。**

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ **メンテナンスについて**

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

# オートアラーム

## オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

## オートアラームを設定する

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

侵入センサーを停止してからオートアラームを設定するには（→ P. 77）

## オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

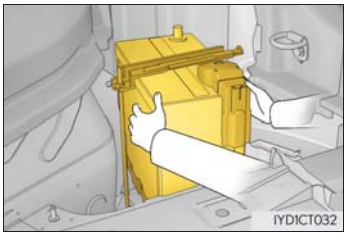
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき

- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき（→ P. 421）




★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のようなときに自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動した。

●アラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠した

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラス・ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

### ■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 74)

### ■ 侵入センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサーOFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF ／ ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

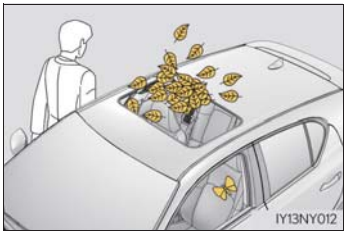
### ■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

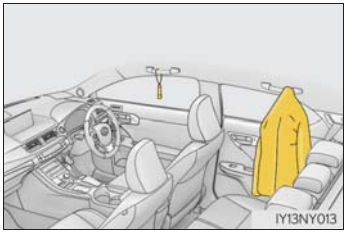
■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き




●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合




●振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
・立体駐車場に駐車したとき
・フェリー・トレーラー・列車などで車両を運搬するとき
・ガラスに付着した氷を削り落すとき
・高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
・ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

## 2. メーターの見方

警告灯／表示灯 .....82
計器類 .....86
マルチインフォメーション
ディスプレイ .....92
エネルギーモニター／
Harmonious Driving
Navi. 画面／燃費画面 .....96

# 警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

## 警告灯

システム異常などを警告します。

※1

（赤色）
ブレーキ警告灯（→ P. 368）

※1

（黄色）
電子制御ブレーキ警告灯（→ P. 368）

※2

充電警告灯（→ P. 373）

※1

油圧警告灯（→ P. 368）

※1

エンジン警告灯（→ P. 368）

※1

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 368）

※1

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 369）

※2

ドライブスタートコントロール警告灯（→ P. 375）

※1

パワーステアリング警告灯（→ P. 369）

※2

LDA 表示灯（→ P. 369）

※1

PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯（→ P. 369）

※1

スリップ表示灯（→ P. 369）

※1

LED ヘッドランプオートレベリング警告灯★（→ P. 369）

※1

高水温警告灯（→ P. 369）

半ドア警告灯（→ P. 370）

燃料残量警告灯（→ P. 370）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 370）

※3

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→ P. 370）

※1

マスターウォーニング（→ P. 370）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 センターパネル内に表示されます。

## 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 176）

尾灯表示灯（→ P. 178）

ハイビーム表示灯
（→ P. 180）

オートマチックハイビーム表示灯（→ P. 184）

フロントフォグランプ表示灯★
（→ P. 187）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 188）

READY インジケーター
（→ P. 164）

EV インジケーター（→ P. 65）

※1

EV ドライブモード表示灯
（→ P. 169）

※1

ECO モード表示灯
（→ P. 262）

※1

SPORT モード表示灯
（→ P. 262）

※1

LDA 表示灯（→ P. 220）

※1

（点滅）
LDA 表示灯（→ P. 373）

※1

LDA 表示灯（→ P. 219）

※2

クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 240）

※2

PKSB OFF 表示灯（→ P. 249）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クルーズコントロール表示灯（→ P. 225）

レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 225）

クルーズコントロールセット表示灯（→ P. 225）

※3

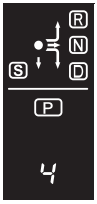
スリップ表示灯（→ P. 264）
（点滅）

※3

TRC OFF 表示灯（→ P. 264）

※2, 3

PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯（→ P. 369）



シフトポジション表示灯（→ P. 171）／シフトレンジ表示灯（→ P. 173）

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 システムが OFF のとき点灯します。

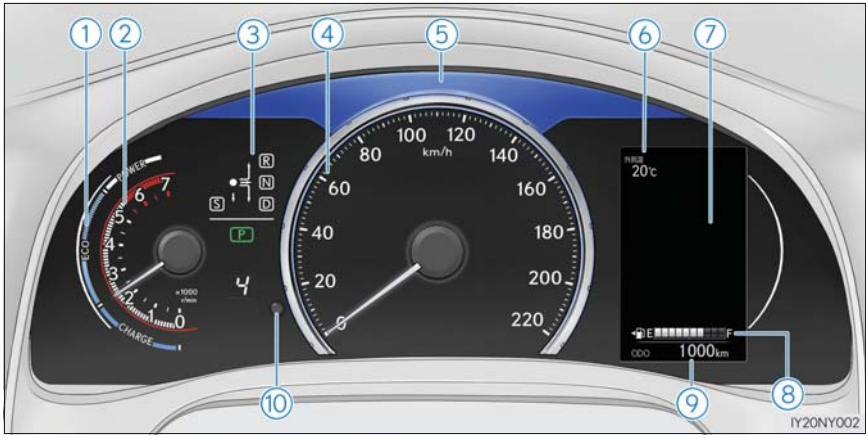
※3 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

**警告**

**■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

# 計器類


①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
POWER
ECO
CHARGE
×1000
r/min
R
N
D
S
P
100
120
80
140
km/h
60
160
40
180
20
200
0
220
外気温
20℃
E
F
1000km
IY20NY002

① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

走行モードや設定によってタコメーターに切りかえることができます。
(→ P. 89, 439)

② タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

走行モードや設定によってハイブリッドシステムインジケーターに切りかえることができます。(→ P. 89, 439)

③ シフトポジション・シフトレンジ表示灯

→ P. 171, 173

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ ECO ランプ・SPORT ランプ

走行モードや運転状態によって点灯します。(→ P. 90)

⑥ 外気温度表示

外気温度を−40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→ P. 92)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 372)

⑧ 燃料計

燃料残量を示します。

⑨ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

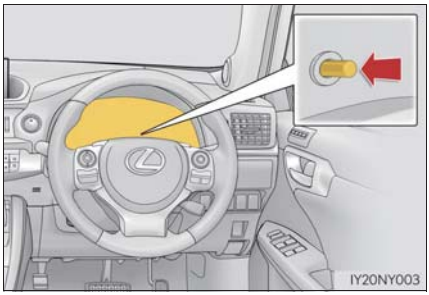
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑩ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→ P. 88

## オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。




## インストルメントパネル照度調整

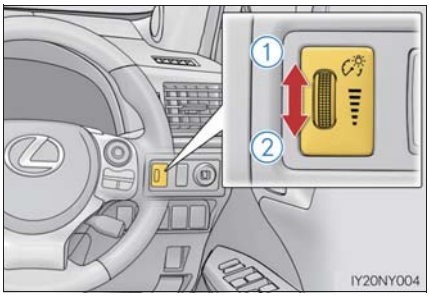
ダイヤルを操作して、インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

① 明るくなる

② 暗くなる

ダイヤルを上側いっぱいにしておくと、車幅灯が点灯したときの減光制御はされません。

最も暗く調整すると、カップホルダー照明と足元照明が消灯します。
（→ P. 291）

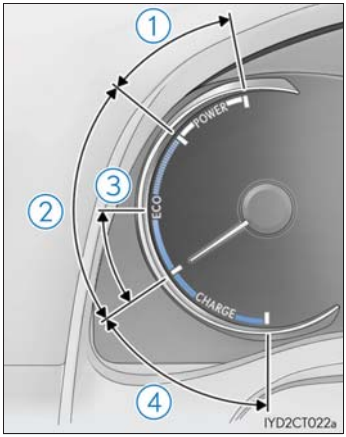


知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて




① パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

② エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

③ ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

④ チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

●次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。
・走行モードがエコドライブモードのとき
・走行モードが NORMAL モードでシフトポジションが S 以外のとき
・走行モードが NORMAL モードでパドルシフトスイッチを操作していないとき

●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■タコメーターについて

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。

●走行モードが SPORT モードのとき

●走行モードが NORMAL モードでシフトポジションを S にしたとき

●走行モードが NORMAL モードでパドルシフトスイッチを操作したとき（→ P. 174）

■ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件について

●走行モードが SPORT モードのときは、SPORT ランプ（赤）が点灯します。

●次の条件を満たして走行しているとき、ECO ランプ（青）が点灯します。
・シフトポジションが D のとき
・パドルシフトスイッチを操作していないとき
・走行モードが NORMAL モードまたはエコドライブモードで、EV ドライブモードを使用していないとき（→ P. 169, 262）
・車速が約 100km/h 以下のとき
・エコ運転をしているとき

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温度表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車している時や、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

●“--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

**警告**

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 426）

# マルチインフォメーションディスプレイ

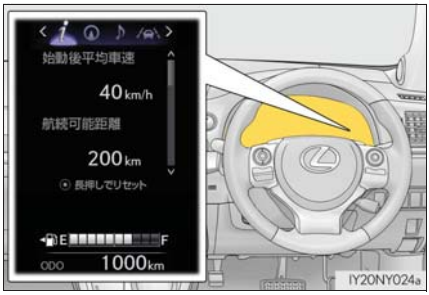
## 表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。（→ P. 94）

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 94）

ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。
・ 目的地案内
・ コンパス（ノースアップ／ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

走行支援機能表示

LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）／レーダークルーズコントロール使用時に表示されます。（→ P. 215, 225）

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 372）

設定

メーターの表示設定などを切りかえることができます。（→ P. 439）

● エネルギーモニター

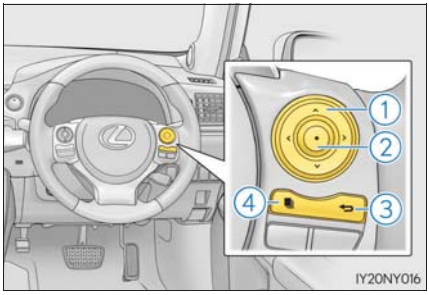
ハイブリッドシステムの状態を表示します。（→ P. 96）

● クリアランスソナー表示★

クリアランスソナー使用時に自動で表示されます。（→ P. 239）

## 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。




① 選択／ページ送り

② 決定／設定

③ ひとつ前の画面にもどる

④ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する（→ P. 439）

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの < または > を押して i を選択し、∧ または ∨ を押します。

### ■ 瞬間燃費 ※1

現在の瞬間燃費を表示します。

### ■ 平均燃費（リセット間 ※2・始動後・給油後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

### ■ 平均車速（リセット間 ※2・始動後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。

### ■ 走行時間（リセット間 ※2・始動後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。

### ■ 距離（航続可能・始動後走行）※1

燃料残量による走行可能な距離、ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

・表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

### ■ エネルギーモニター

→ P. 96

### ■ ふらつき度合表示

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。
バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）の機能のひとつです。LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→ P. 221）

■ 表示 OFF

OFF 画面を表示します。

※1「設定」のドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 ／ドライブインフォ 3 で選択した項目が表示されます。（→ P. 439）

※2 リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの◎スイッチを 1 秒以上押します。
リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

知識

■ システムチェック表示

パワースイッチを ON モードにしたとき、システムの作動確認のために映像画面が表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■ 割り込み表示

マルチインフォメーションディスプレイには、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。
割り込み表示のうち、次の項目は表示・非表示を変更できます。（→ P. 439）
・ ナビゲーションシステム連携表示の目的地案内
・ ハンズフリー着信通知

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションのデータはリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

注意

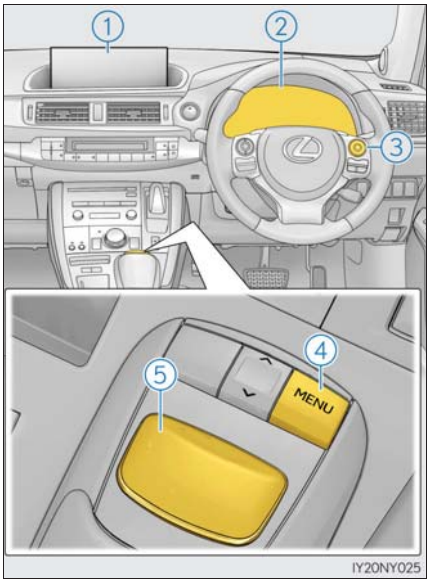
■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

# エネルギーモニター／Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

**ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。**

① ナビゲーション画面
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ メーター操作スイッチ
④ MENU ボタン
⑤ リモートタッチノブ



## エネルギーモニターの見方

▶ ナビゲーション画面

1 リモートタッチの MENU ボタンを押しメニュー画面を表示させる

2 を選択する

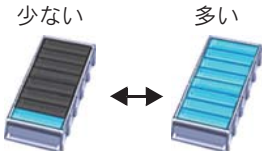
3 「エネルギー」を選択する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの < または > を押して i を選択し、∧ または ∨ を押してエネルギーモニターを表示させる

### ■ ナビゲーション画面の表示

| | ナビゲーションシステム画面 |
|---|---|
| 電気のエネルギーで走行しているとき | II21ES170 |
| ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき | II21ES171 |
| ガソリンのエネルギーで走行しているとき | II21ES172 |

| | ナビゲーションシステム画面 |
|---|---|
| 駆動用電池に充電しているとき | |
| | |
| エネルギーの流れがないとき | |
| 駆動用電池の残量表示 |  |

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

## ■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

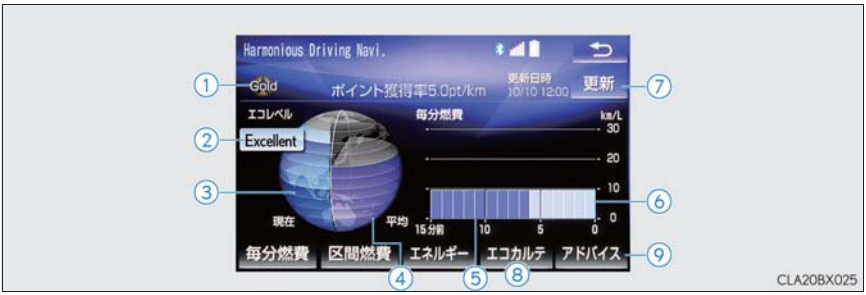
| | 表示 |
|---|---|
| 電気のエネルギーで走行しているとき | |
| ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき | |
| ガソリンのエネルギーで走行しているとき | |
| 駆動用電池に充電しているとき | |
| | |
| エネルギーの流れがないとき | |
| 駆動用電池の残量表示 | 少ない 多い |

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

## Harmonious Driving Navi. 画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、を選択する

2 情報画面の「Driving Navi」を選択する




① ステータス／ポイント獲得率表示 ※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-BOOK センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ ※

走行情報などを G-BOOK センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・$CO_2$ 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

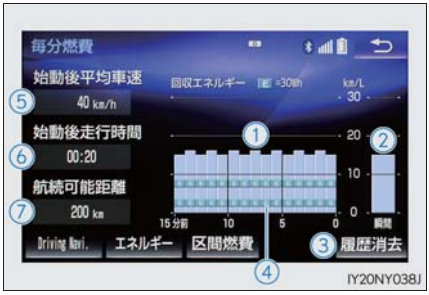
## 燃費画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、を選択する

2 情報画面の「燃費」を選択する

### ■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。




① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 30Wh です。

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後走行時間

⑦ 航続可能距離（→ P. 103）

平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

### ■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ **過去の区間平均燃費の記録を更新するには**

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ **燃費データをリセットするには**

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ **航続可能距離について**

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■ **G-BOOK センターへ送信する走行情報について**

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■ **Harmonious Driving Navi. 画面について**

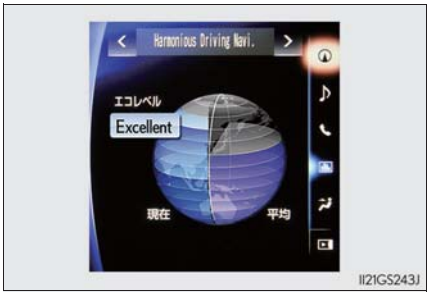
パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

## サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→ P. 278）、< または > を選択してお好みの画面を表示します。

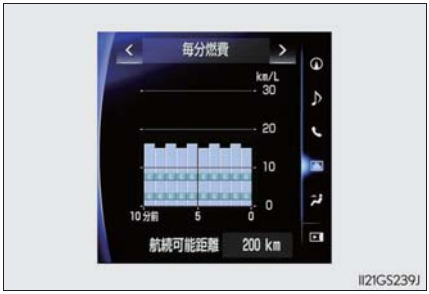
▶ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



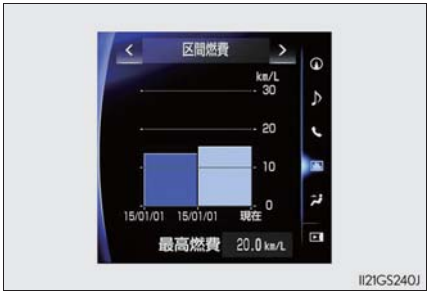

▶ 毎分燃費

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費、回収エネルギーと航続可能距離を表示します。




▶ 区間燃費

平均燃費と最高燃費を表示します。



▶ Trip Information

航続可能距離、平均燃費、始動後走行時間を表示します。

▶ エネルギーモニター

ハイブリッドシステム動作状況、エネルギーの回収状況を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

# 各部の操作 3


## 3-1. キーの取り扱い

キー.....108

## 3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア.....113

バックドア.....118

スマートエントリー＆
スタートシステム.....123

## 3-3. シートの調整

フロントシート.....128

リヤシート.....130

運転席ポジションメモリー／
メモリーコール機能.....132

ヘッドレスト.....136

## 3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....138

インナーミラー.....140

ドアミラー.....142

## 3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....146

ムーンルーフ.....149

# キー

## キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

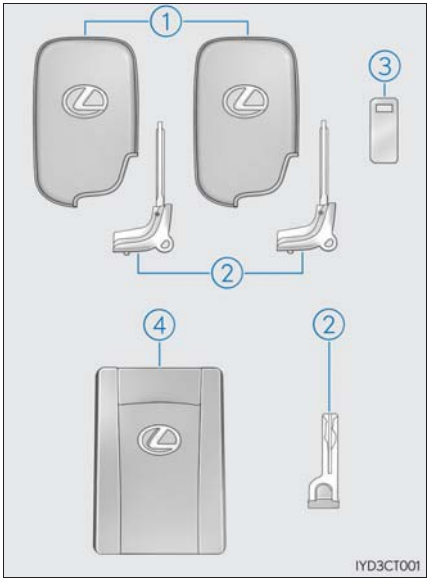
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 123）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー★（電子キー）

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 123）




## ワイヤレスリモコン

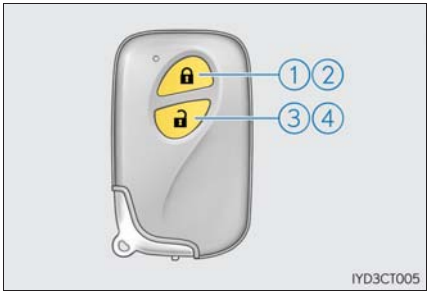
① 全ドアを施錠する（→ P. 113）

② ドアガラスを閉める※（→ P. 113）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 113）

④ ドアガラスを開く※（→ P. 113）

※ レクサス販売店での設定が必要です。




★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## メカニカルキーを使うには

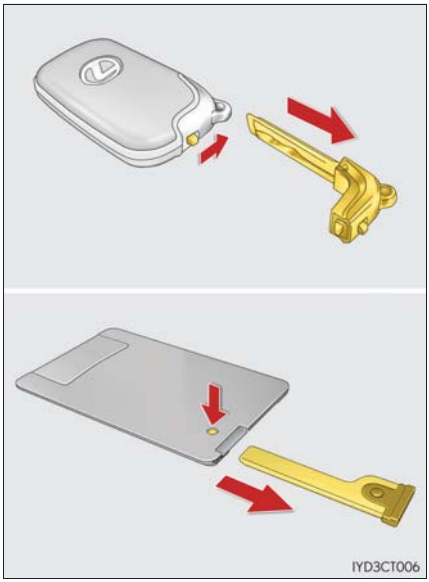
メカニカルキーを取り出すには、次の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

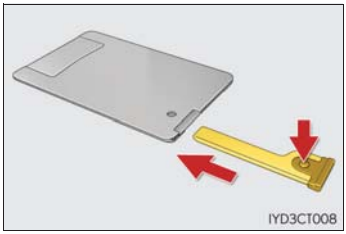
使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 419）



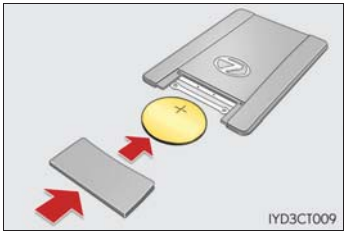

知識

### ■カードキーについて

- カードキーは非防水です。
- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。




■駐車場などでキーを預けるとき

グローブボックスを施錠します。（→ P. 294）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～２年です。（カードキーの電池は１年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 392）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 336

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

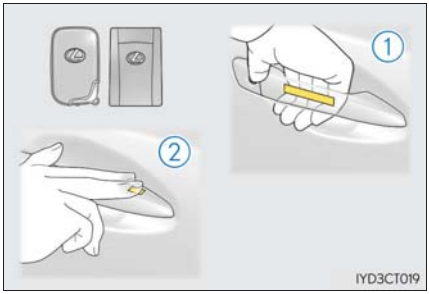
●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

# ドア

## 車外からの解錠／施錠

### ◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。




① ハンドルを握って解錠する

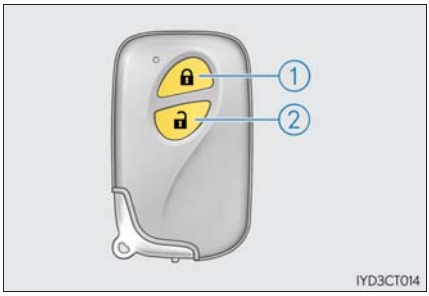
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

### ◆ ワイヤレスリモコン




① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

**■ 作動の合図**

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

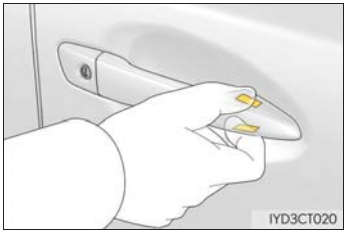
ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

**■ 解錠操作のセキュリティ機能**

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。




■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 74)

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

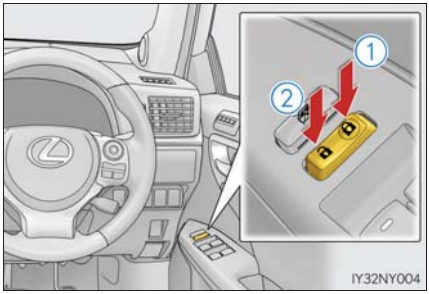
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 419)
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 336)

## 車内からの施錠／解錠

### ◆ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

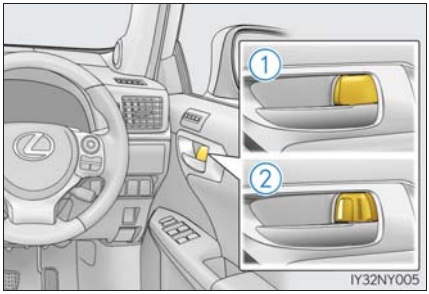


### ◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。




## キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

**1** ロックレバーを施錠側にする

**2** ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

## チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

**■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

## オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 439 を参照してください。

| 機能 | 作動内容 |
|---|---|
| シフト操作連動ドアロック | ハイブリッドシステムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。 |
| シフト操作連動アンロック | シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。 |
| 車速感応オートドアロック | 速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。 |
| 運転席ドア開連動アンロック | パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。 |

知識

### ■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

### ■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 419）

### ■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

**警告**

■**事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■**ドアを開閉するときの留意事項**

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■**ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

# バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

## 車外からの施錠／解錠

### ◆ スマートエントリー＆スタートシステム

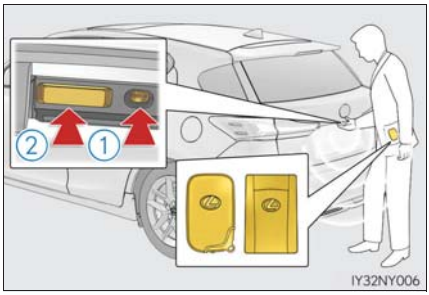
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。




### ◆ ワイヤレスリモコン

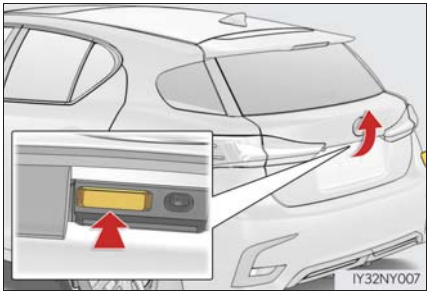
→ P. 108

### ◆ ドアロックスイッチ

→ P. 114

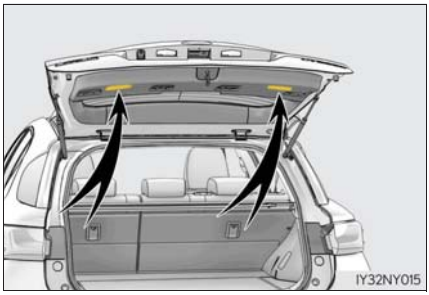
## バックドアを開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げてください。



## バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。




### 知識

■ **ラゲージルームランプ**

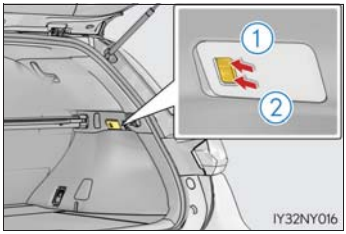
スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

① OFF

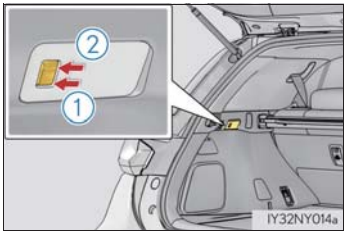
② ON

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

▶ アクセサリーコンセント非装着車



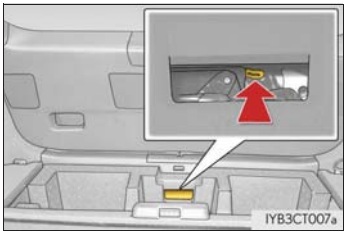

▶ アクセサリーコンセント装着車



■バックドアが開かないとき

バックドアのロックを内側から解除することができます。

中央のデッキボードを持ち上げ、カバー装着車はカバーをはずしてからレバーを上げます。




**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがありあます。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

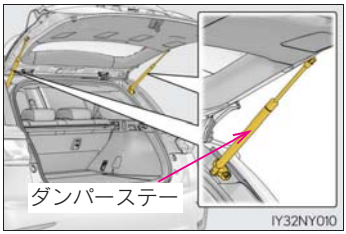
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



# スマートエントリー＆スタートシステム

**電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。**

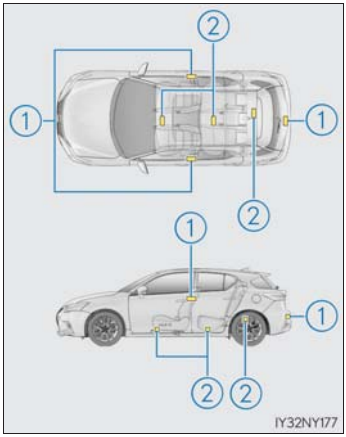
- ドアを施錠・解錠する（→ P. 113）
- バックドアを施錠・解錠する（→ P. 118）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 164）

## 知識

### ■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



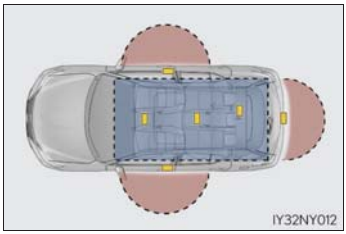

### ■作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

:ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 372）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

| 警告音 | 状況 | 対処方法 |
|---|---|---|
| 車外から“ピー”と5秒間鳴る | いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした | 全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。 |
| 車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける | 運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた） | パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。 |

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 419）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（盗難に注意し保管してください）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

### ■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 439）

### ■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

### ■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 419

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 419

### ■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

### ■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 113, 419）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 419

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 165

**警告**

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 123）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

# フロントシート

## 調整のしかた

▶ マニュアルシート

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ パワーシート

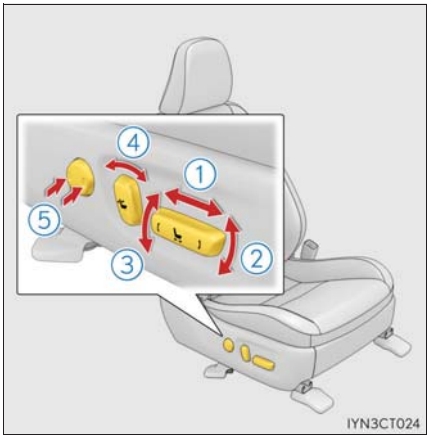
① 前後位置調整

② クッション前端の上下調整（運転席のみ）

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

④ リクライニング調整

⑤ 腰部硬さ調整（運転席のみ）



**警告**

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

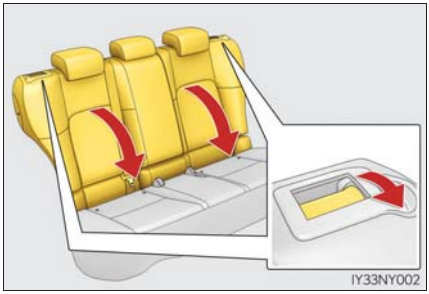
●マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

# リヤシート

**背もたれを前倒しすることができます。**

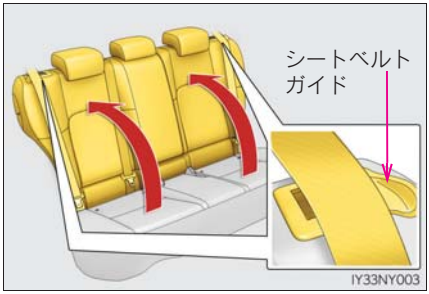
## 背もたれを倒す

レバーを引いてロックを解除し、背もたれを前に倒す




## 背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイドにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



**警告**

■**背もたれを前倒しするとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

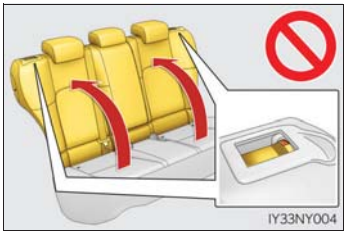
■**背もたれをもとの位置にもどすとき**

シートベルトガイドを持たないでください。ガイドとピラーのあいだに手を挟まれ、けがをするおそれがあります。

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、レバー部に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。




●シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

# 運転席ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

**自動でシート・ドアミラーを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。**

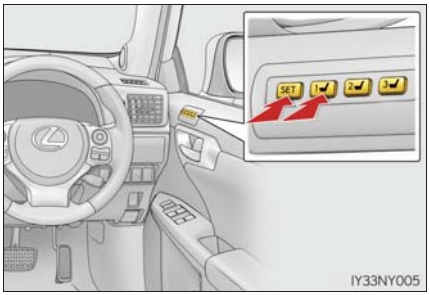
## 運転席ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

### ■ 登録方法

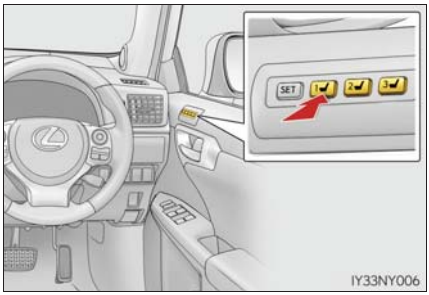
1. パワースイッチを ON モードにする
2. シフトポジションが P にあることを確認する
3. 運転席・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
4. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

   すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。




### ■ 呼び出し方法

1. パワースイッチを ON モードにする
2. シフトポジションが P にあることを確認する
3. 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す




★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 128）

腰部硬さ調整以外の位置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■運転席ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

## メモリーコール機能（運転席のみ）

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

### ■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

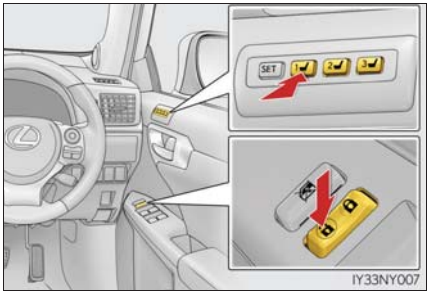
1 パワースイッチを ON モードにする

2 シフトポジションが P にあることを確認する

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。




### ■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートとミラーが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートとミラーは動きません。

### ■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

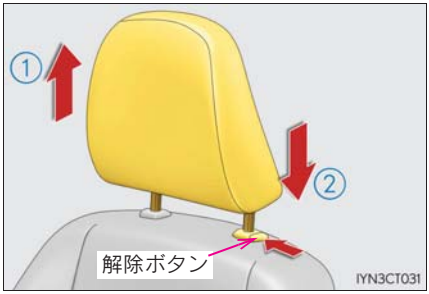
# ヘッドレスト

## フロント席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

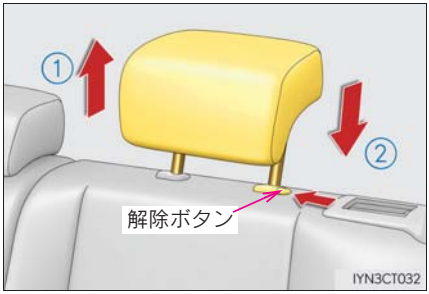



## リヤ席

① 上げる

② 下げる

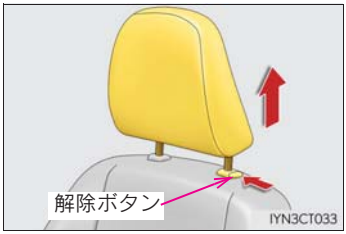
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。




知識

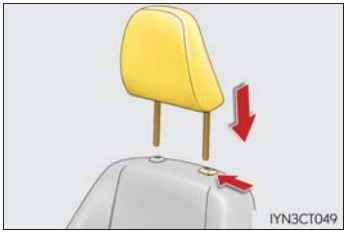
### ■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。



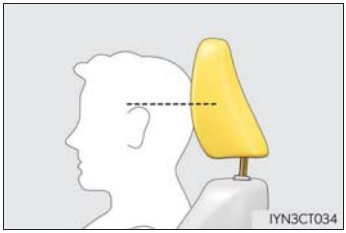
■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。




■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。




■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

**警告**

■ヘッドレストについて

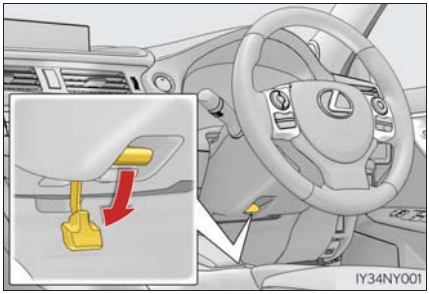
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

# ハンドル

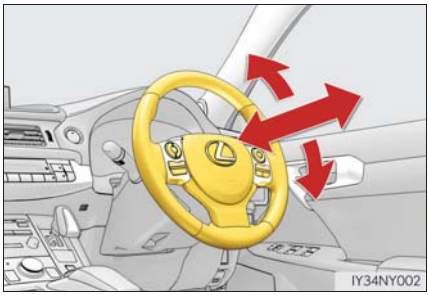
## 調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



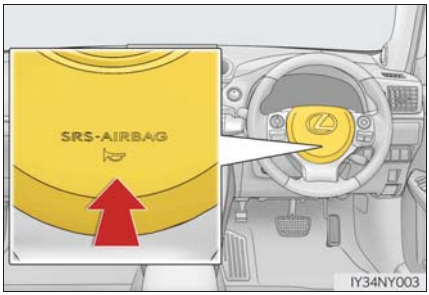

2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。




## ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。




知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

**警告**

■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

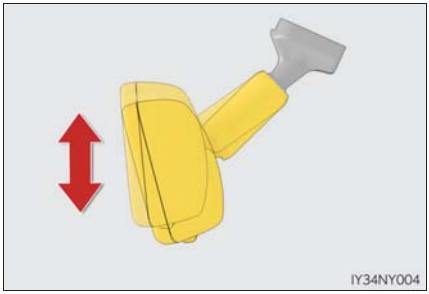
# インナーミラー

**後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。**

## 上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

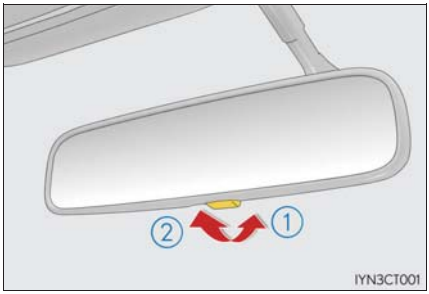



## 防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

① 通常使用時

② 防眩時



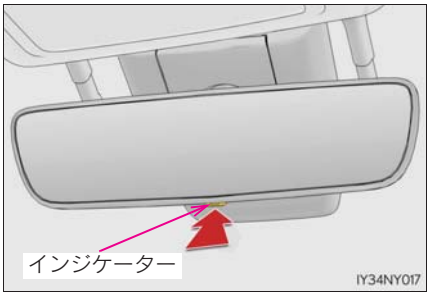
▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

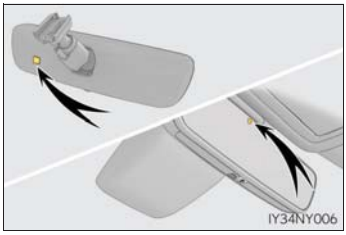
ON のときはインジケーターが点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。




知識

■ **センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）**

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。




**警告**

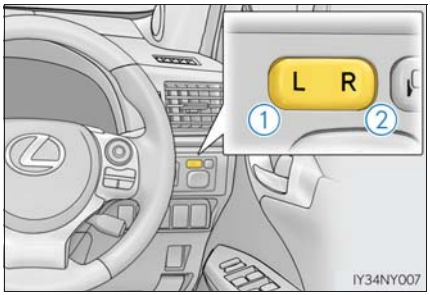
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# ドアミラー

## 調整のしかた

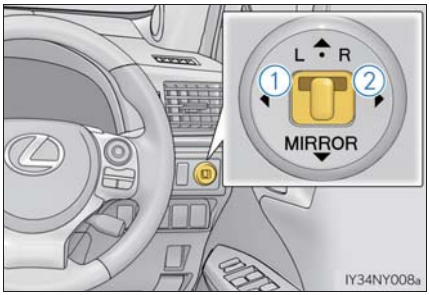
**1** 調整するミラーを選ぶ

▶ オート電動格納式ミラー非装着車




① 左
② 右

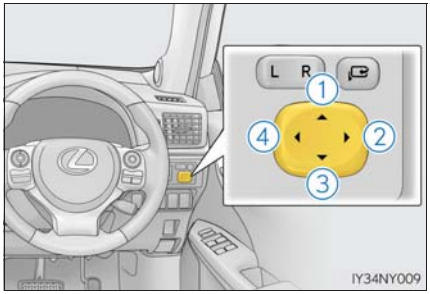
▶ オート電動格納式ミラー装着車




① 左
② 右

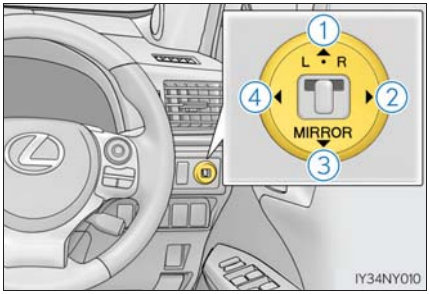
**2** ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

▶ オート電動格納式ミラー非装着車




① 上
② 右
③ 下
④ 左

▶ オート電動格納式ミラー装着車



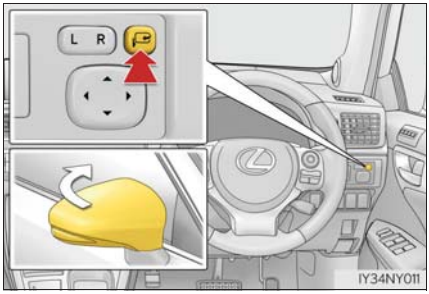

① 上
② 右
③ 下
④ 左

## ドアミラーを格納する

▶ オート電動格納式ミラー非装着車

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

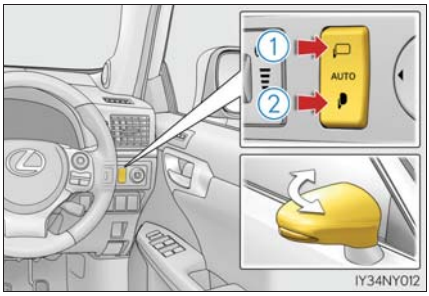



▶ オート電動格納式ミラー装着車

① ミラーをもとの位置にもどす

② ミラーを格納する

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。




## リバース連動機能について（オート電動格納式ミラー装着車）

ミラー選択スイッチがLまたはRの位置になっているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R の中間）にしてください。

知識

■ **鏡面調整の作動条件**

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ **ミラーが曇ったとき**

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 283）

■ **ミラー角度の自動調整（運転席ポジションメモリー装着車）**

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 132）

■ **自動防眩機能（オート電動格納式ミラー装着車）**

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→ P. 140）

■ **寒冷時に「オート作動」で使用するとき（オート電動格納式ミラー装着車）**

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ **カスタマイズ機能**

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

**警告**

■ **走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ **ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているとき**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

■レインクリアリングミラーの取り扱いについて（オート電動格納式ミラー非装着車）

●シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。

●砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

●鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。

●撥水洗車を行なったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

# パワーウインドウ

## 開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

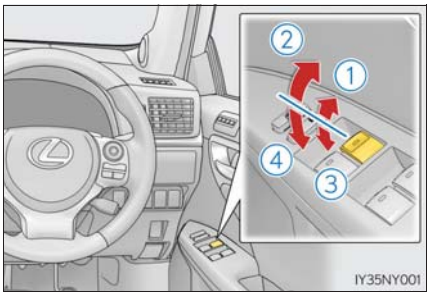
① 閉める

② 自動全開 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

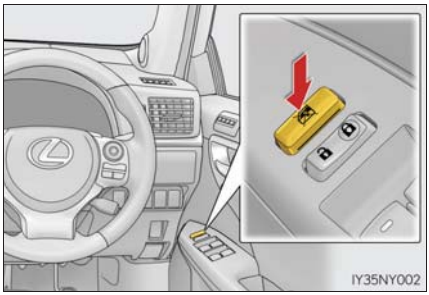
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。




## ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。




知識

### ■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

### ■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

### ■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ **巻き込み防止機能**

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ **ドアガラスを開閉することができないとき**

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1. パワースイッチを ON モードにする
2. パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3. いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
4. パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5. いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 4 秒以上引き続ける
6. 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **ドアロック連動ドアガラス開閉機能**

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 419）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 113）

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■ **オートアラーム**

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 74）

■ **カスタマイズ機能**

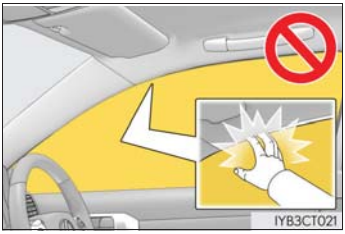
ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ドアガラスを開閉するとき**

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 146)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。




- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ **巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込ませないように注意してください。

# ムーンルーフ★

**頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンができます。**

## 開閉

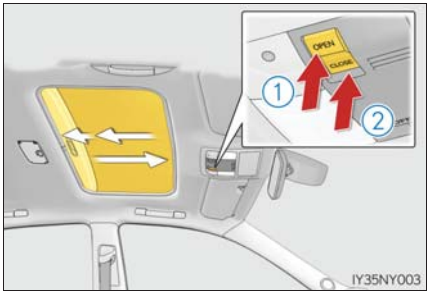
① ムーンルーフを開く※

スイッチを約 1 秒以上押すと、チルトアップしてから自動で開きます。

② ムーンルーフを閉める※

スイッチを約 1 秒以上押すと、チルトアップ位置まで自動で閉まります。全閉するには再度スイッチを押します。

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

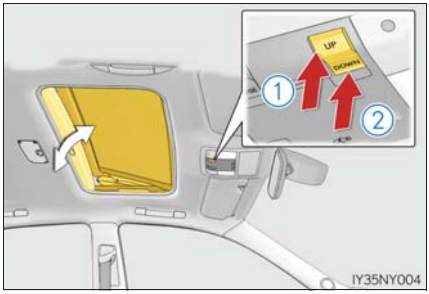



## チルトアップ／ダウン

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。




### 知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

**■ハイブリッドシステム停止後の開閉作動**

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くと全開の少し手前まで連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “ CLOSE ” 側を押し続ける ※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、チルトダウンし、全閉位置で微調整後、停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “ DOWN ” 側を押し続ける ※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、チルトアップ位置で 10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、全閉位置で微調整後、停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

※1 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “ DOWN ” 、または “ CLOSE ” 側を押し続けてください。ムーンルーフが閉じ、全閉位置で微調整後、停止します。ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ムーンルーフを開けているとき**

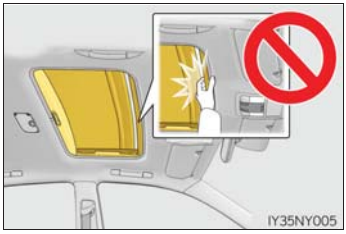
●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

**■ムーンルーフを開閉するとき**

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**■挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

# 運転 4


## 4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 154
荷物を積むときの注意..... 163

## 4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ ..... 164
EV ドライブモード ..... 169
トランスミッション..... 171
方向指示レバー..... 176
パーキングブレーキ..... 177

## 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 178
オートマチックハイビーム ..... 183
フォグランプスイッチ..... 187
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 190
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 194
ヘッドランプクリーナー..... 196

## 4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 .....197

## 4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+ .....200
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....206
LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）.....215
レーダークルーズコントロール .....225
PKSA（パーキングサポートアラート）.....238
クリアランスソナー.....239
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....248
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....254
ドライブモードセレクトスイッチ .....262
運転を補助する装置.....263

## 4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス .....268
寒冷時の運転 .....270

# 運転にあたって

**安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。**

## ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 164

## 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→ P. 171）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 177）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

## 停車する

1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→ P. 172）

## 駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 177）

3 シフトポジションを P にする（→ P. 172）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。

4 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

## 上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

### ■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 263）

### ■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 268 の 「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

### ■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

### ■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 264）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

### ■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### ■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■運転するとき**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 360 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 172）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■すべりやすい路面を運転するとき**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

**■シフトポジションを変更するとき**

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

**■停車するとき**

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■駐車するとき**

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READYインジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READYインジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

**■仮眠するとき**

必ずパワースイッチをOFFにしてください。
READYインジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ブレーキをかけるとき**

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

**注意**

**■運転しているとき**

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

**■駐車するとき**

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

**■部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 393, 407 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジンオイル・トランスミッションフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のシフトポジションに切りかえられないときは、前輪が固定されているため、けん引での移動はできません。（→ P. 362）

# 荷物を積むときの注意

**安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。**

**警告**

**■積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

**■荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

**■荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# パワー（イグニッション）スイッチ

**電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。**

## ハイブリッドシステム始動のしかた

**1** パーキングブレーキがかかっていることを確認する

**2** ブレーキペダルをしっかり踏む

パワースイッチ上のインジケーターが緑色に点灯することを確認します。
緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 172）

**3** パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

完全にハイブリッドシステムが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

**4** READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

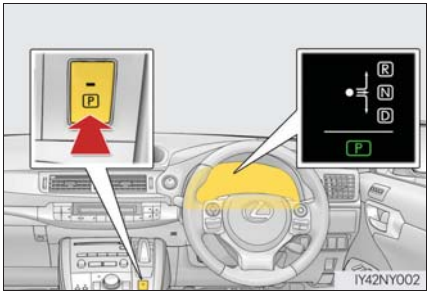
## ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 177）

3 P ポジションスイッチを押す（→ P. 172）

シフトポジション表示灯がPであることをメーターで確認します。（→ P. 171）




4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてパワースイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

## パワースイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

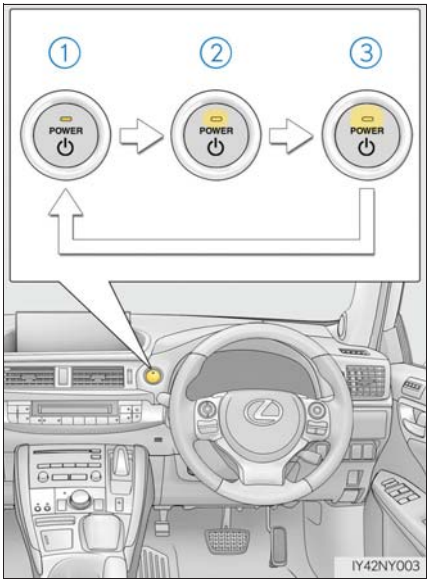
オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。



## 知識

### ■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

### ■高電圧リレーの音について

→ P. 66

### ■電子キーの電池の消耗について

→ P. 110

### ■外気温が低いとき

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

### ■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 124

### ■ご留意いただきたいこと

→ P. 125

### ■ハイブリッドシステムが始動しないとき

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 73）
レクサス販売店へご連絡ください。

### ■パワースイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

### ■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

### ■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 417

### ■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 336

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

→ P. 174

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。
システムが故障した場合は、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

**警告**

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 360）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、パワースイッチのインジケーターが消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

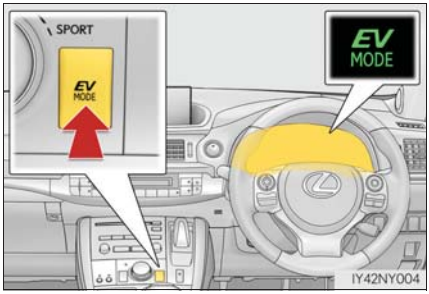
# EV ドライブモード

**EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。**

EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。




知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 97）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントデフロスターを使用しているとき

### ■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

### ■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 97）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除されるときは、前もってマルチインフォメーションディスプレイに表示して知らせます。

### ■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2km 程度です。但し、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。

### ■燃費について

お車は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

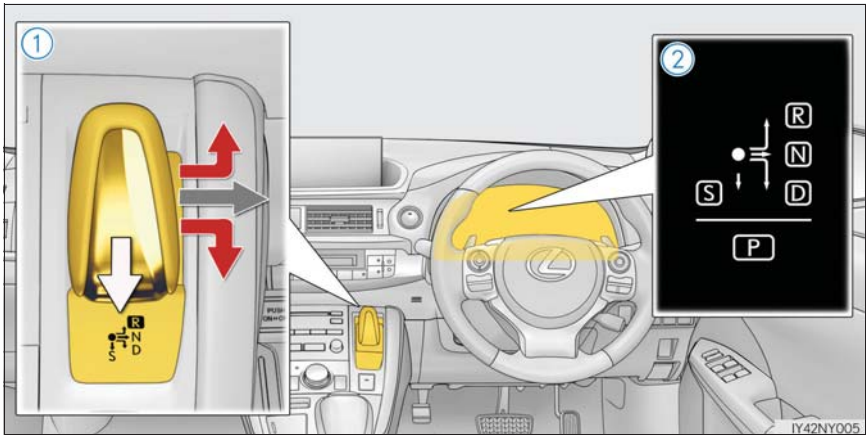
**警告**

### ■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

# トランスミッション

## シフトレバーの動かし方




① シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。
シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが ●の位置に自然にもどります。

D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

N に切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

S に切りかえるときは、下側に操作します。
シフトポジションが D のときのみ、S に切りかえが可能です。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

D・S 以外のときは、シフトポジション表示灯の S 方向への矢印と S 表示が消灯します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

## シフトポジションの使用目的

| シフトポジション | 目的および状態 |
|---|---|
| P | 駐車またはハイブリッドシステム始動 |
| R | 後退 |
| N | 動力が伝わらない状態 |
| D | 通常走行 ※1 |
| S | シーケンシャルシフトモード走行 ※2（→ P. 173） |

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

※2 シーケンシャルシフトモードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D にくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

## 走行モードの選択

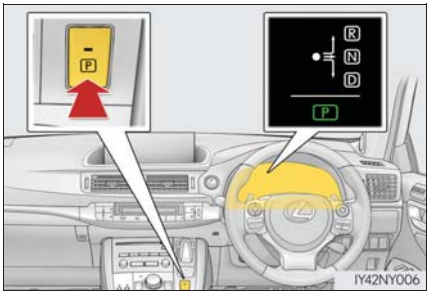
→ P. 262

## P ポジションスイッチ

### ■ シフトポジションを P に切りかえる

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。シフトポジション表示灯で、P の位置が点灯していることを必ず確認してください。




### ■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを S に切りかえることはできません。

## シーケンシャルシフトモードでの操作方法

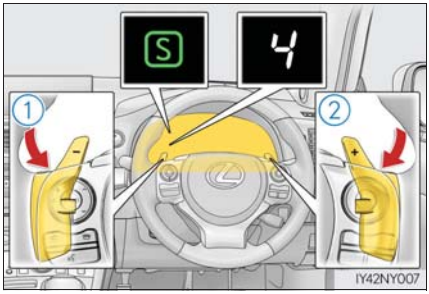
シフトポジションを S にして、パドルシフトスイッチを操作します。

① シフトダウン

② シフトアップ

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 レンジずつシフトします。1 ～ 6 のあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

シフトアップ側へ保持すると、選択可能な最高シフトレンジへシフトします。




知識

### ■シフトポジションについて

●パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても P から他のシフトポジションに切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

●D 以外から直接、S に切りかえることはできません。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき
・P からブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・P または N から、S を選択したとき

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき
・走行中に、P ポジションスイッチを押したとき ※1
・車両が前進しているときに R を選択したとき ※2
・車両が後退しているときに D を選択したとき ※3
・R から S を選択したとき

※1 極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

※2 低速走行時は、R に切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 155

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

パワースイッチが ON モードの状態でシフトポジションが P 以外のとき、車両を完全に停止させパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、パワースイッチが OFF になります。※

※ 停車直前など、極定速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。意図せぬ車両の急停止を防止するため、車両を完全に停止させてからパワースイッチを押してください。

■シフトポジションが P から切りかわらない場合は

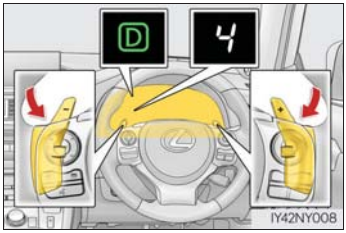
補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 421 を参照してください。

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

シフトポジションを D から S にしても、エンジンブレーキは効きません。また、シフトレンジを 5 または 4 にしてもエンジンブレーキは効きません。（→ P. 225）

■一時的なシーケンシャルシフトモードについて

シフトポジションが D で走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意のシフトレンジを選択することができます。この場合、シフトレンジ表示灯に選択されているシフトレンジが表示されます。




一時的なシーケンシャルシフトモードは、次の状態になると解除されます。

- 同一シフトレンジで、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトアップ側のパドルシフトスイッチを一定時間以上保持したとき
- 車両停止状態のとき

■補機バッテリーを脱着したとき

→ P. 155

## 警告

### ■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

### ■シフトレバーについて

シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### ■P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## 注意

### ■駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

### ■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→ P. 378）
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

### ■シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

# 方向指示レバー

## 操作のしかた

① 左折

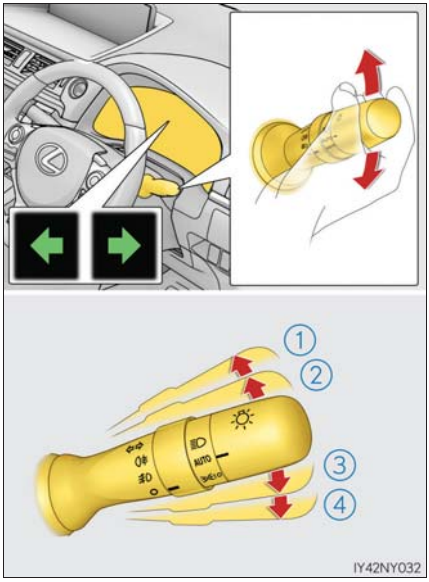
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折




知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

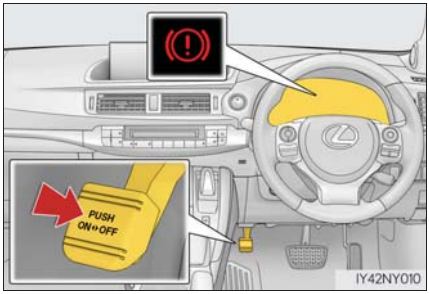
■ **表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

# パーキングブレーキ

## 操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）




知識

■駐車するとき

→ P. 154

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。（→ P. 368, 377）

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 270

注意

■走行前の注意

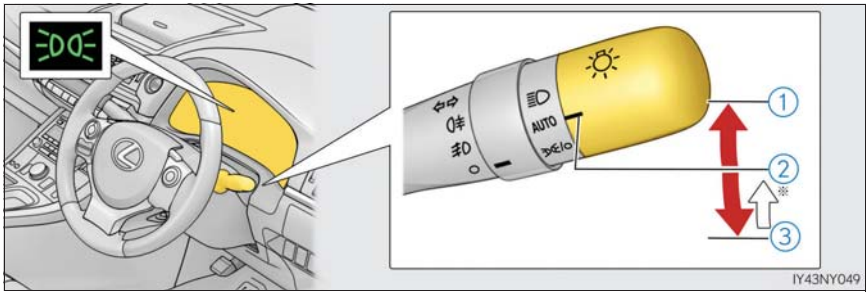
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

# ランプスイッチ

**自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。**

## 点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。




※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

| | 点灯状態 | |
|---|---|---|
| ポジション | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| ① | ヘッドランプ・スモールランプが点灯 | |
| ② AUTO ※1 | LED デイライト装着車：<br>LED デイライト（→ P. 181）が点灯<br>LED デイライト非装着車：<br>ヘッドランプ・スモールランプが消灯 | ヘッドランプ・スモールランプが点灯 |
| ③ ※1 | スモールランプが点灯 | スモールランプが点灯 ※2 |

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

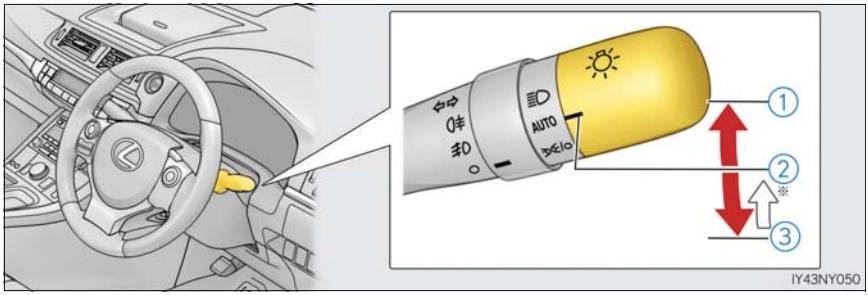
※1 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③ による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。

## 消灯のしかた

スイッチを③ の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① か③ の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。




※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

| | 点灯状態 | |
|---|---|---|
| ポジション | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| ③ | LED デイライト装着車：<br>ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→ P. 181）が消灯<br>LED デイライト非装着車：<br>ヘッドランプ・スモールランプが消灯 | ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※ |

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

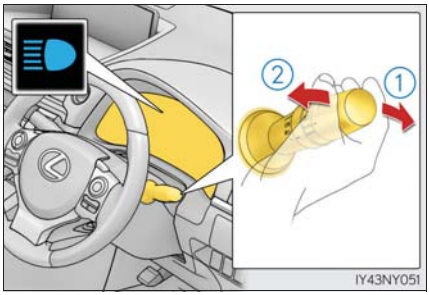
## ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

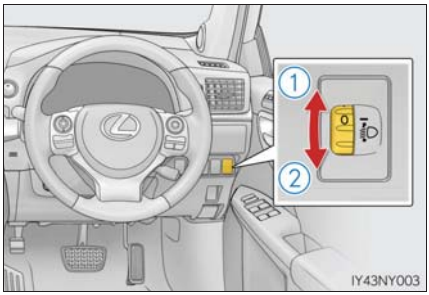



## 手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整




### ■ 目盛り設定の目安

| 乗員と荷物の条件 | | ダイヤル位置 |
|---|---|---|
| 乗員 | 荷物 | |
| 運転者 | なし | 0 |
| 運転者と助手席乗員 | なし | 0 |
| 全乗員 | なし | 1.5 |
| 全乗員 | ラゲージルーム満載時 | 2.5 |
| 運転者 | ラゲージルーム満載時 | 4 |

知識

■LED デイライト★

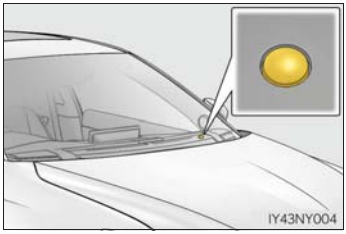
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。




■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから ON/OFF または の位置にします。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。
次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

# オートマチックハイビーム

**オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。**

**警告**

■**安全にお使いいただくために**

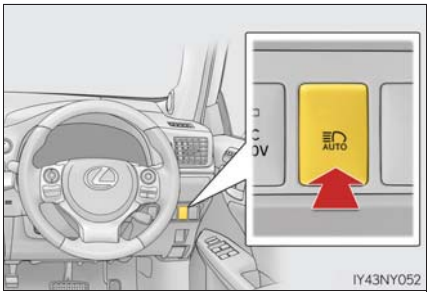
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

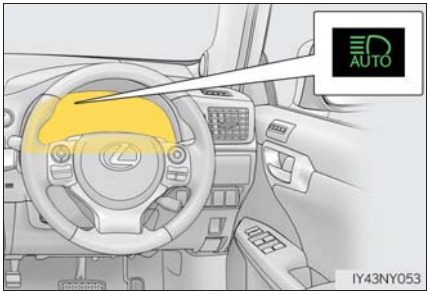
## オートマチックハイビームの使い方

**1** オートマチックハイビームスイッチを押す




**2** ランプスイッチを ≡D または AUTOの位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。




知識

### ■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

### ■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

## ■警告メッセージ

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 372）

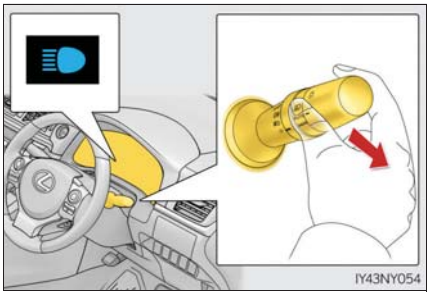
## 手動切りかえのしかた

### ■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

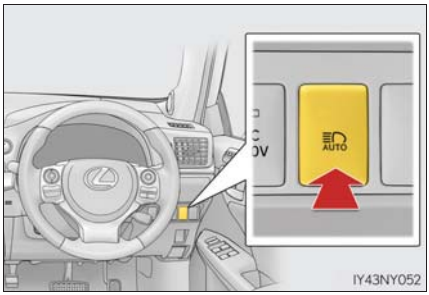



### ■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

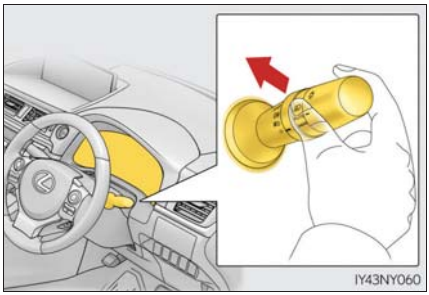
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。




### ■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。




知識

### ■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

# フォグランプスイッチ★

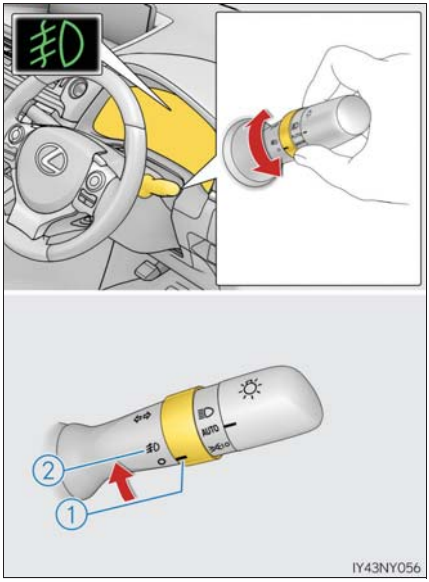
**雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。**

## 操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① OFF 消灯する

② 点灯する






★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

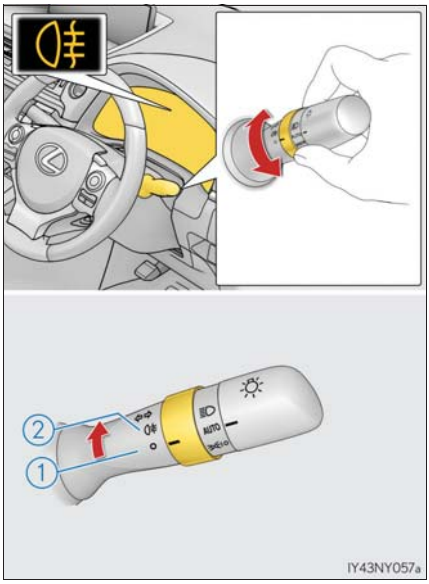
▶ リヤフォグランプ装着車

① OFF 消灯する

② 点灯する

手を離すと OFF の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。




▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

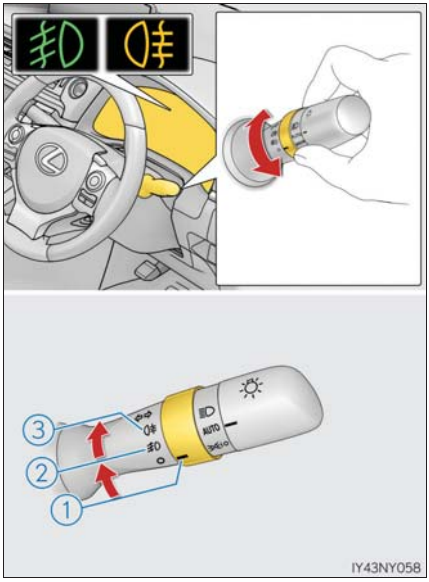
① OFF 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

▶フロントフォグランプ装着車またはリヤフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶フロント＆リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプ について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

# ワイパー & ウォッシャー（フロント）

## 操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

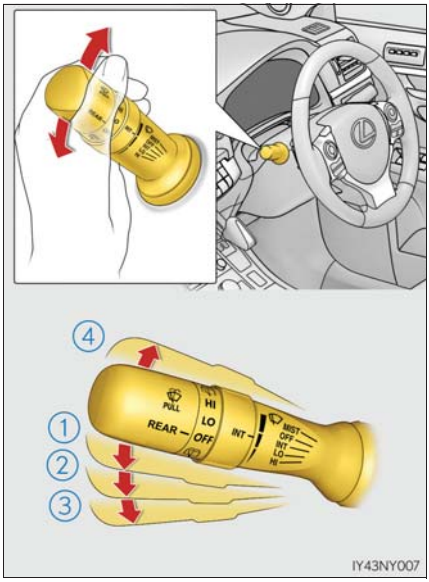
▶ 間欠時間調整式ワイパー装着車

① 間欠作動（INT）

② 低速作動（LO）

③ 高速作動（HI）

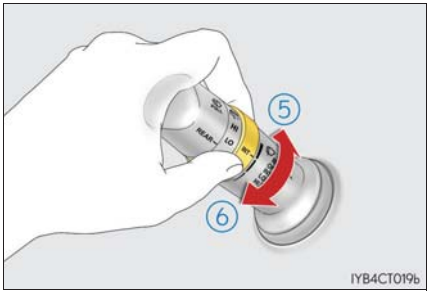
④ 一時作動（MIST）



間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

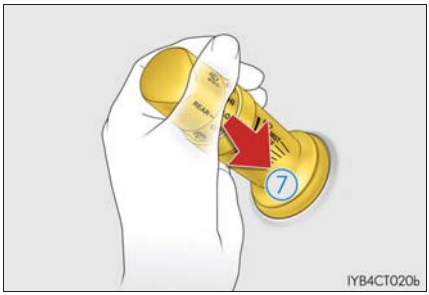
⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）




⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。




▶ 雨滴感知式ワイパー装着車

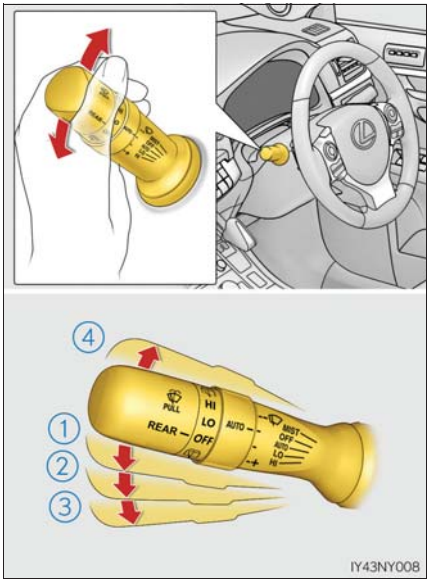
① 雨滴感知オート作動（AUTO）

② 低速作動（LO）

③ 高速作動（HI）

④ 一時作動（MIST）

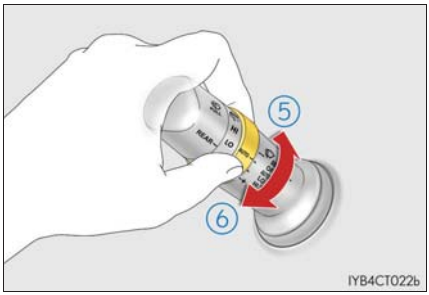
“ AUTO ” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



“ AUTO ” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

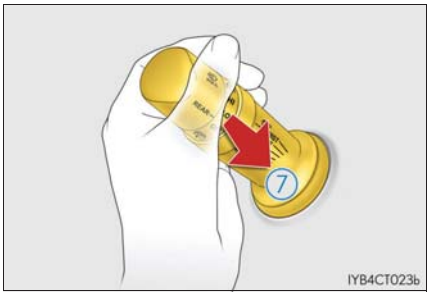
⑤ 雨滴センサーの感度調整（低）

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）




⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。




知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）**

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

●パワースイッチが ON モードのときにワイパースイッチを “ AUTO ” にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

**警告**

■AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■フロントガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

# ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

## 操作のしかた

次のようにレバーをまわしてワイパーの作動を選択します。

① LO 間欠作動

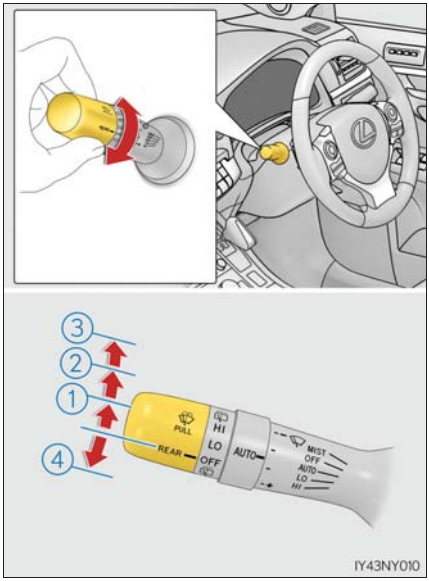
② HI 通常作動

③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

④ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。




知識

### ■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

### ■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

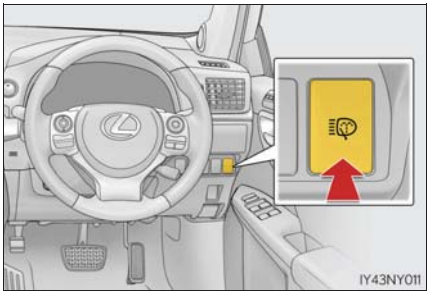
■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

# ヘッドランプクリーナー★

**ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。**

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する




知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

注意

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

# 給油口の開け方

## 給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

### ■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

### ■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。



**警告**

### ■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

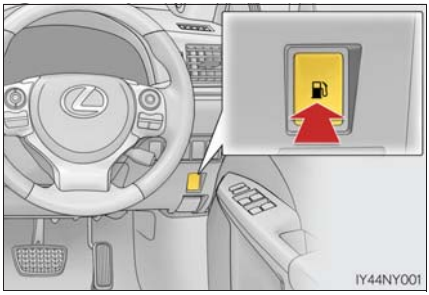
■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

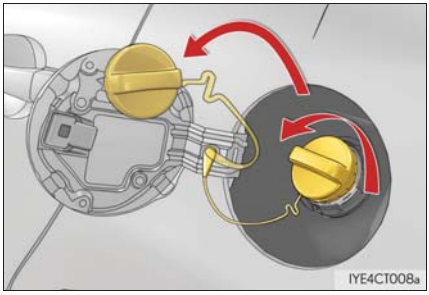
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

## 給油口の開け方

1 オープナーを押して、給油扉を開ける



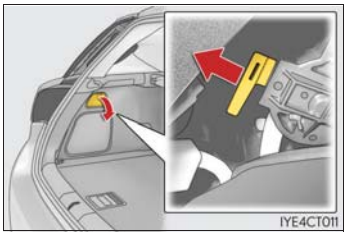

2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



知識

■車内のスイッチで給油扉が開かないとき

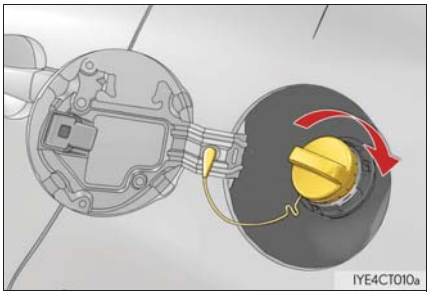
ラゲージルーム内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。




## 給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。




警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# Lexus Safety System+

Lexus Safety System+ は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

## ◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 206

## ◆ LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）

→ P. 215

## ◆ オートマチックハイビーム

→ P. 183

## ◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 225

**警告**

■ Lexus Safety System+ について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

## 車両データの記録について

プリクラッシュセーフティには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
・前方カメラの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

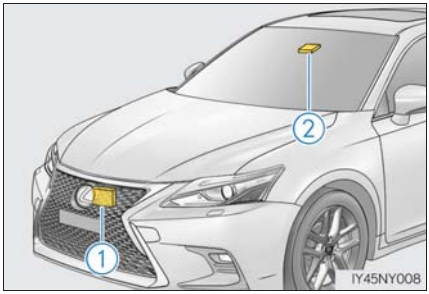
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

## 前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ




### 警告

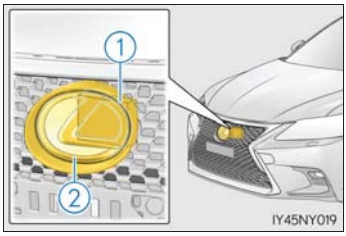
**■レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー




レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

**警告**

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・フロントバンパーを交換したとき

■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

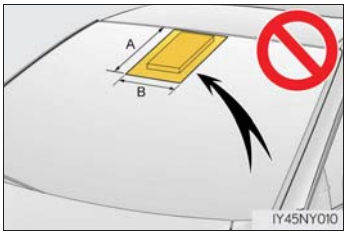
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）




●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 283）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

**警告**

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■ **レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

| 状況 | 対処法 |
|---|---|
| 前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき | ・汚れや付着物を取り除く<br>・前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する<br>（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 283） |
| 炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき | 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる<br>特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。 |
| | 極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる |
| ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき | ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする |

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。
・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

# PCS（プリクラッシュセーフティ）

**進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。**

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 209）

## ◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

## ◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

## ◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

**警告**

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 211
・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 213

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

**警告**

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

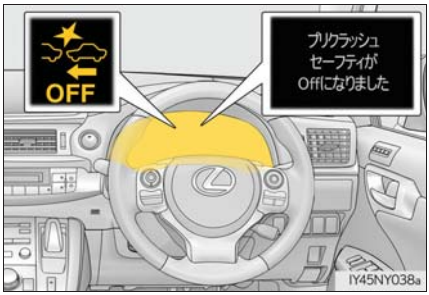
## プリクラッシュセーフティの設定変更

### ■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 92）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。




### ■ プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 92）から、プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更することができます。

パワースイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

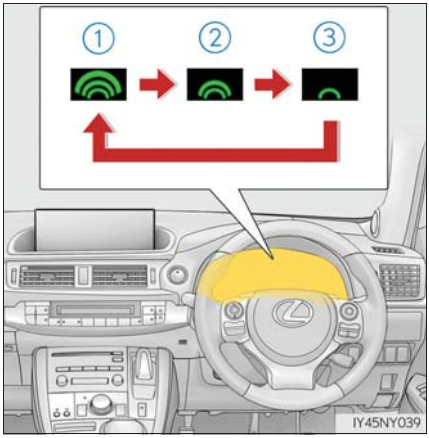
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報
・自車速度約10～180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約10～80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト
・自車速度約30 ～180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約30～80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ
・自車速度約10～180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約10～80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

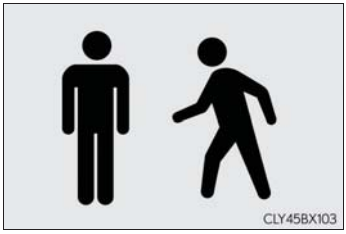
●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
（→ P. 214）




■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

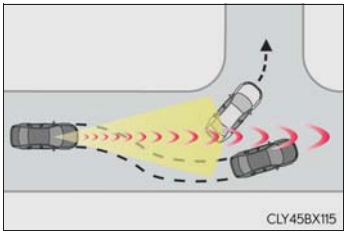
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

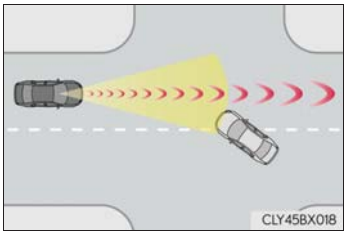
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

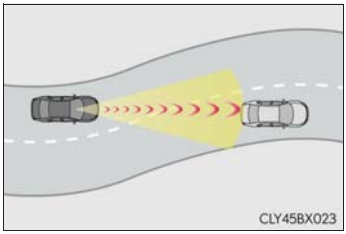
・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して先行車を追いこすとき
・車線変更している先行車を追い抜くとき
・右左折する先行車を追いこすとき



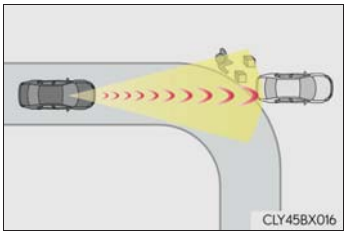

・右左折待ちの対向車とすれ違うとき




・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

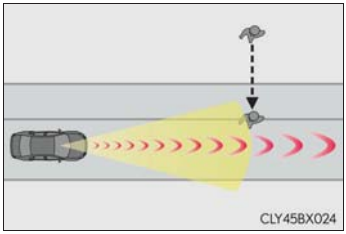



・前方車両に急接近したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

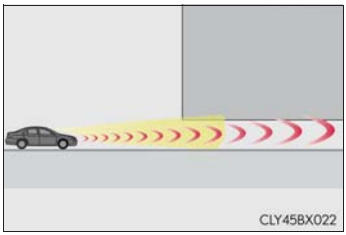



・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

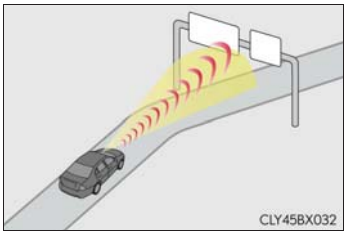
・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき




・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

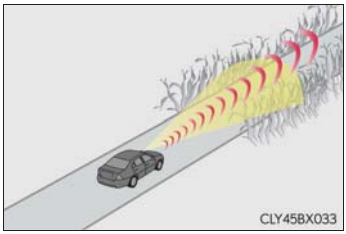



・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき




・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
・洗車機を使用するとき

・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

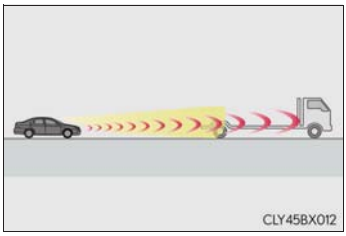



・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

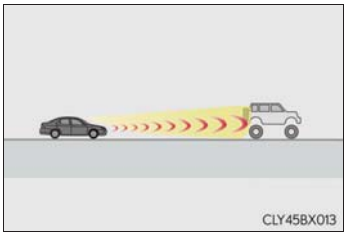
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

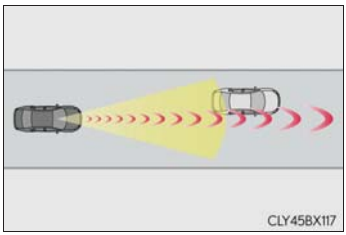
・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
・前方車両がオートバイ・自転車のとき
・車両の側面または前面に近付いたとき
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）




・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

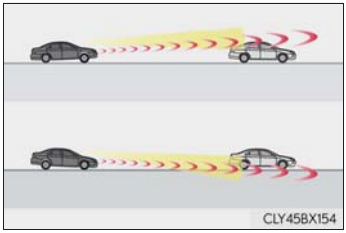



・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
・前方車両と自車の中心がずれているとき




・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき

・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき




・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

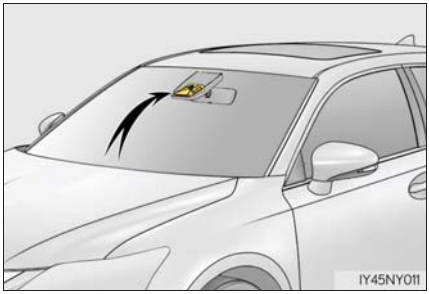
●例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
・集団でいる歩行者
・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
・歩く速度が速い歩行者
・歩く速度を急激に変化させている歩行者
・物陰から飛び出してきた歩行者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

# LDA（レーンディパーチャーアラート※[ ステアリング制御機能付き ]）

## 機能概要

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウインドウガラス上部の前方カメラで、白（黄）線を認識します。





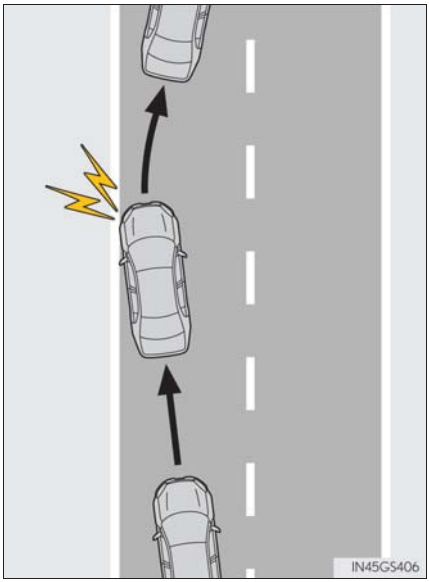

※：車線逸脱警報

## LDA に含まれる機能

### ◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

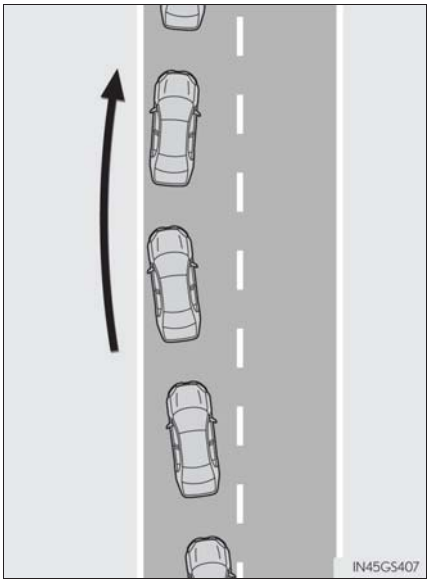
警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。




### ◆ ステアリング制御機能

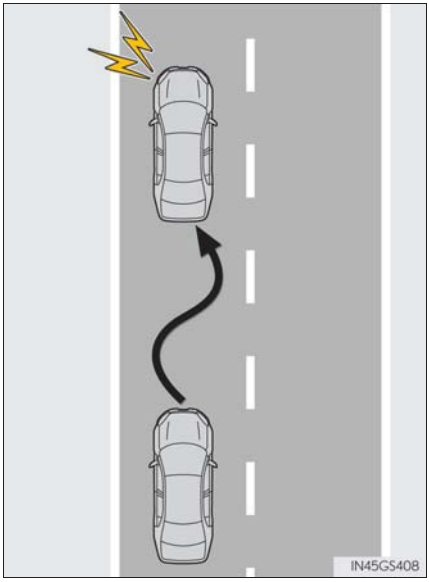
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



### ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。




**警告**

■**LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**誤作動を防ぐために**

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

**警告**

■**LDA を使用してはいけない状況**

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 車両けん引時

■**LDA の故障、または誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

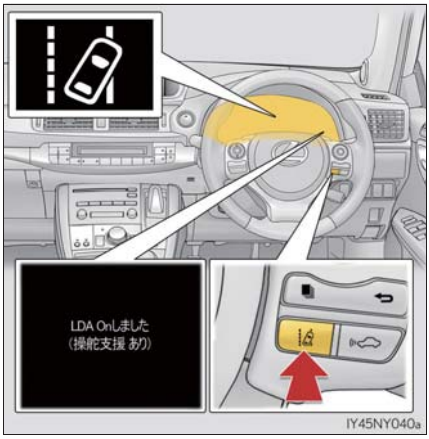
## 設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

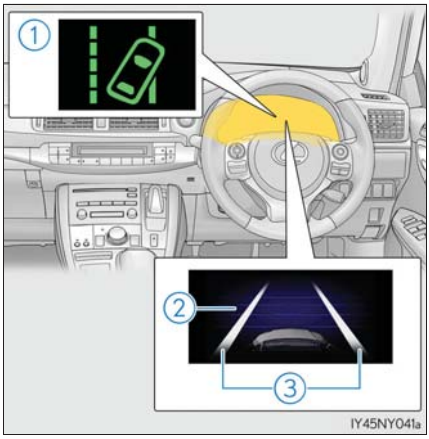
LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



## マルチインフォメーションディスプレイ表示




① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

② ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ LDA を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ システムが白（黄）線を認識しているとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 223）

●ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ マルチインフォメーションディスプレイの（設定）で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・ TRC を停止していないとき
・ 手放し運転警告（→ P. 222）が表示されていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ マルチインフォメーションディスプレイの（設定）で「ふらつき警報機能」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 223）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 221）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 221）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき
さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき
さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

ふらつき警報機能の作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方カメラが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
●分岐・合流路などを走行しているとき
●坂道を走行しているとき
●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
●急カーブを走行しているとき
●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●横風を受けているとき
●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
●冬用タイヤなどを装着しているとき

■警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 372）

### ■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

| 機能 | 設定内容 |
|---|---|
| 車線逸脱警報機能 | 警報感度 |
| ステアリング制御機能 | 機能の ON ／ OFF |
| ふらつき警報機能 | 機能の ON ／ OFF |
| | 警報感度 |

設定変更のしかたは、P. 439 を参照してください。

# レーダークルーズコントロール

## 機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 228）
- 定速制御モード（→ P. 233）

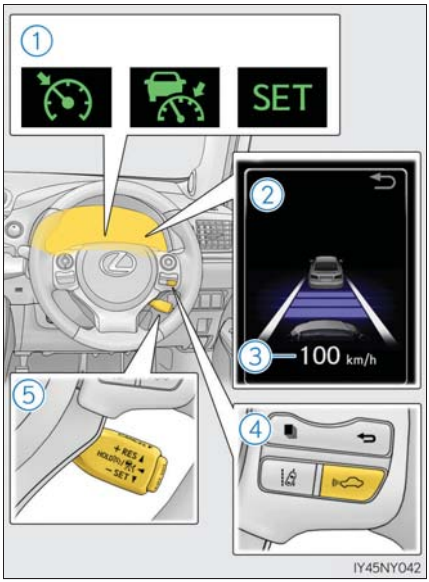
① 表示灯

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

⑤ クルーズコントロールスイッチ



**警告**

■**安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→ P. 236
・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 237

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

**警告**

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速を繰り返すような交通状況のとき

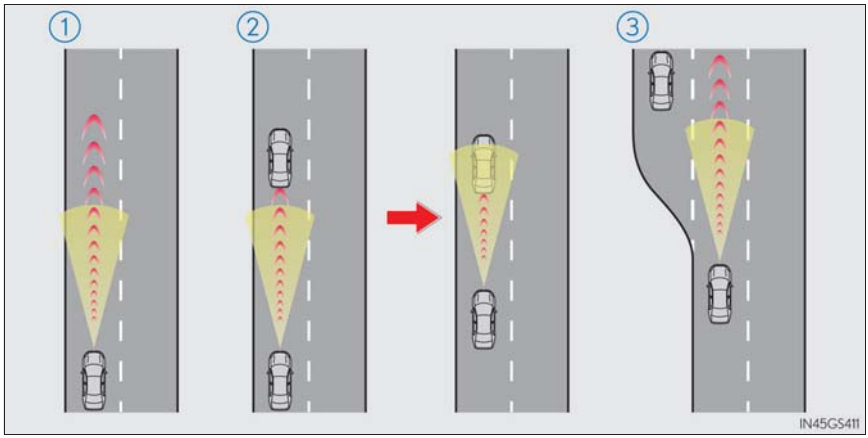
●他車にけん引してもらうとき

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

## 車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。




① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

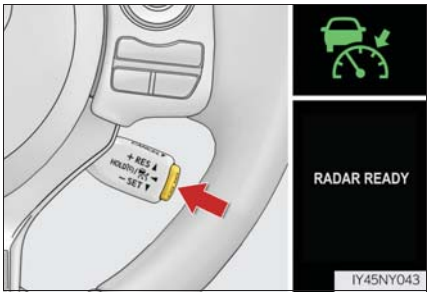
## 速度を設定する（車間制御モード）

**1** ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 233）




**2** 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

## 設定速度をかえる

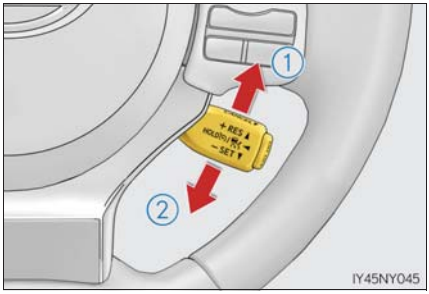
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す




車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 233）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

## 車間距離を変更する（車間制御モード）

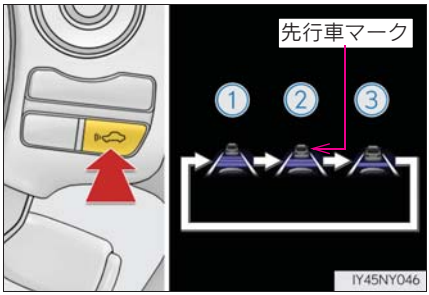
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。




先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

## 車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

| 車間距離選択 | 車間距離 |
|---|---|
| 長い | 約 50m |
| 中間 | 約 40m |
| 短い | 約 30m |

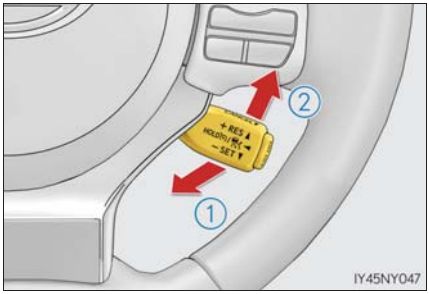
## 制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

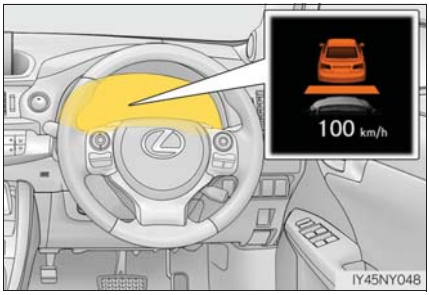
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下のときは復帰しません。



## 接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。




### ■ 警報されないとき

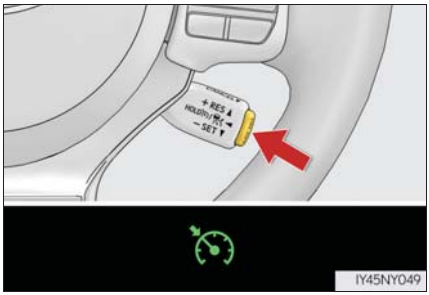
車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

## 定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

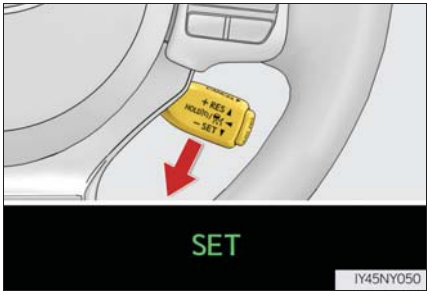
**1** クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける




ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

**2** 希望の車速（約 40 km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する




クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→ P. 230

制御を解除する・復帰させる
→ P. 231

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDまたはSの4レンジ以上のとき設定できます。

●パドルシフトスイッチで4レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速が約50 km/h以上のとき設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●車速が約40km/h未満になったとき

●VSCが作動したとき

●TRCが一定時間作動したとき

●TRCをOFFにしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

### ■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 40km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

### ■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

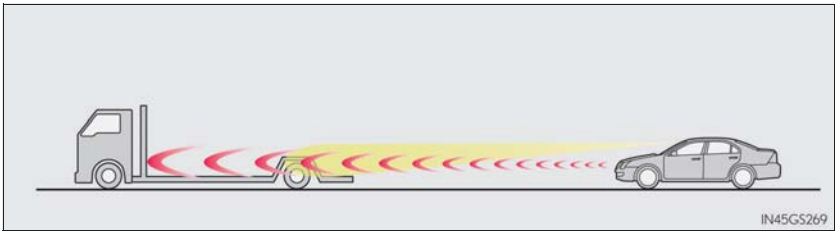
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 232）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

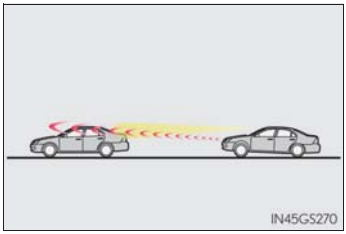
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



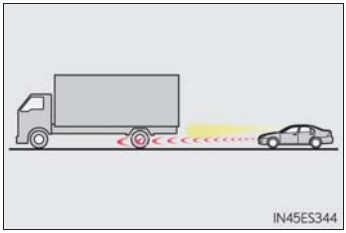

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



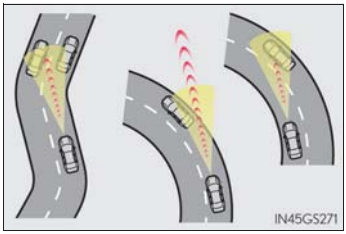

●先行車の車高が極端に高いとき



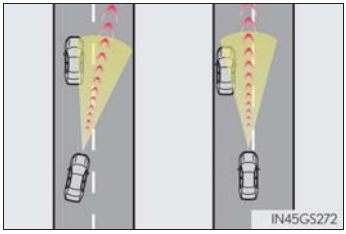
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合




●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合




●先行車が急ブレーキをかけた場合

# PKSA（パーキングサポートアラート）

**PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナーにより、駐車時に運転者に注意喚起を行います。**

## 警報ブザー

### ■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 93）

1 ＜または＞を押して を選択する

2 ∧または∨を押して “PKSA” を選択し、を押す

3 ∧または∨を押して を選択し、を押す

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

### ■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
“OK” を押すとミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

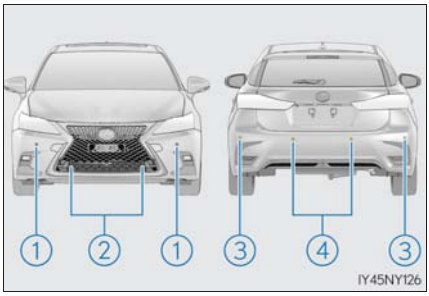
# クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

## システムの構成部品

### ■ センサーの種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー

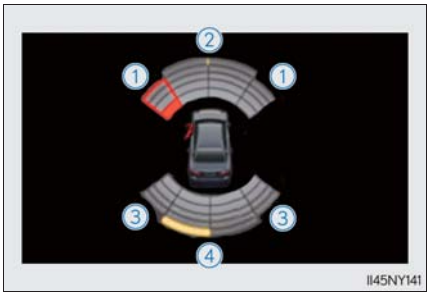



### ■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはナビゲーション画面に表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示
② フロントセンターセンサー作動表示
③ リヤコーナーセンサー作動表示
④ リヤセンターセンサー作動表示



● ナビゲーション画面の表示

作動対象を検知するとナビゲーション画面上に自動表示されます

## システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→ P. 93）

1 ＜または＞を押して を選択する

2 ∧または∨を押して “PKSA” を選択し、◎を押す

3 ∧または∨を押して を選択し、◎を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 84）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの から を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、復帰しません）

**警告**

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。

●センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●センサーの検知範囲であるバンパー周辺にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

●バンパー真下付近は検知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

■**クリアランスソナーを OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき

●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

●けん引フックを取り付けたとき

●字光式ナンバープレートを取り付けたとき

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのに表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

**警告**

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■**作動条件**

●パワースイッチが ON モードのとき

●クリアランスソナー機能が ON のとき

●車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●シフトレバーが P 以外にあるとき

■**ブザーの音量調整について**

マルチインフォメーションディスプレイの からブザー音量を変更することができます。(→ P. 238)

■**マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去して下さい” が表示されたときは**

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■**マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません” が表示されたときは**

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

●補機バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■**補機バッテリーを脱着したときは**

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
・オーディオ使用時
・エアコン使用時
・他システムのブザー音吹鳴時

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

### ■正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- ●針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- ●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- ●鋭角的な形のもの
- ●背の低いもの
- ●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

## 距離表示の見方

### ■ 静止物を検知できる範囲

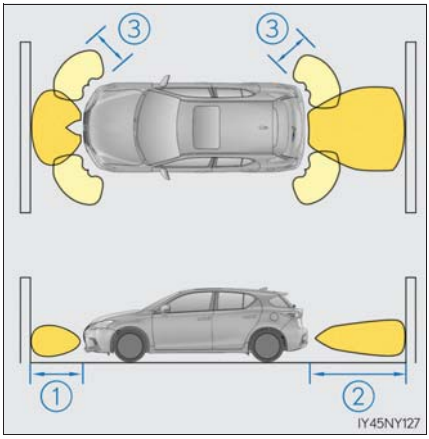
① 約 100cm

② 約 150cm

③ 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



■ **画面表示**

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

● 静止物までのおおよその距離：　150cm ～ 65cm（リヤセンターセンサー）

| マルチインフォメーションディスプレイ | ナビゲーション画面 |
|---|---|
| | |

● 静止物までのおおよその距離：　100cm ～ 65cm（フロントセンターセンサー）

| マルチインフォメーションディスプレイ | ナビゲーション画面 |
|---|---|
| | |

● 静止物までのおおよその距離：　65cm ～ 45cm

| マルチインフォメーションディスプレイ | ナビゲーション画面 |
|---|---|
| | |

● 静止物までのおおよその距離： 45cm ～ 30cm

| マルチインフォメーションディスプレイ | ナビゲーション画面 |
|---|---|
| | |

● 静止物までのおおよその距離： 30cm ～ 15cm※1

| マルチインフォメーション ディスプレイ ※2 | ナビゲーション画面 |
|---|---|
| | |

※1 ナビゲーション画面の表示は 30cm 以下

※2 点灯および枠が遅い点滅

● 静止物までのおおよその距離： 15cm 以下

| マルチインフォメーション ディスプレイ ※ |
|---|
| |

※ 点灯および枠が早い点滅

## 音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

# PKSB（パーキングサポートブレーキ）

**PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）があります。**

**警告**

**■PKSB（パーキングサポートブレーキ）を安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

注意

**■マルチインフォメーションディスプレイに “ パーキングサポートブレーキ 現在使用できません ” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは**

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

## システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→ P. 93）

1 ＜または＞を押して を選択する

2 ∧または∨を押して を選択し、を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→ P. 84）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの から を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

## ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御･ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ 加速抑制中です ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください ”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

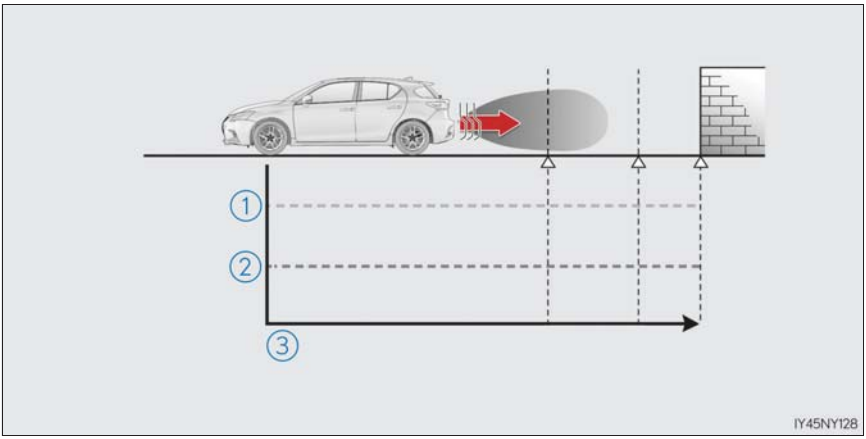
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

## PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

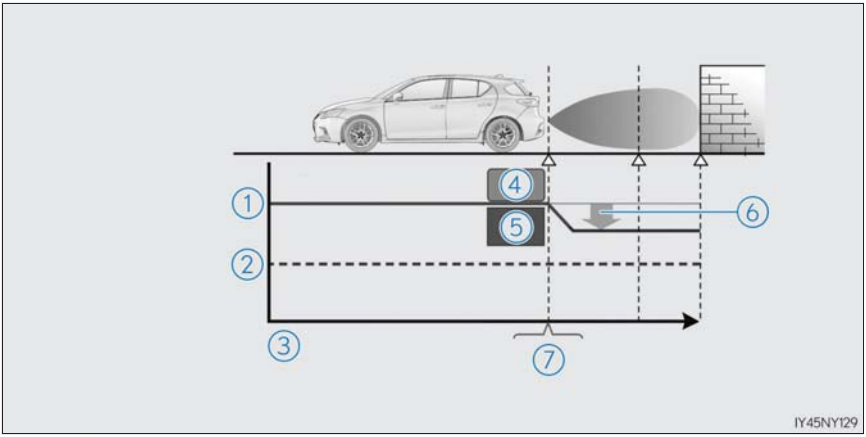



① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

③ 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）




① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

③ 時間

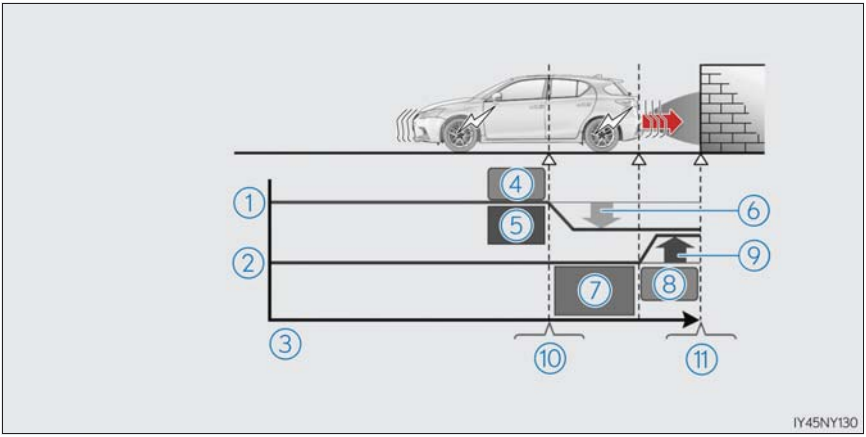
④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ ハイブリッドシステム出力を抑える

⑦ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）




① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

③ 時間

④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ ハイブリッドシステム出力を抑える

⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

⑧ ブレーキ制御開始

⑨ ブレーキ制御を上げる

⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直して下さい”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→ P. 84）

●PKSB システムを ON（作動）にする（→ P. 249）

●パワースイッチを OFF にしてから、ON モードにする

●シフトレバーを P にする

●進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

●車両の進行方向を切りかえる

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” と “クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去して下さい” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは

●センサー部に氷･雪･泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはレクサス販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

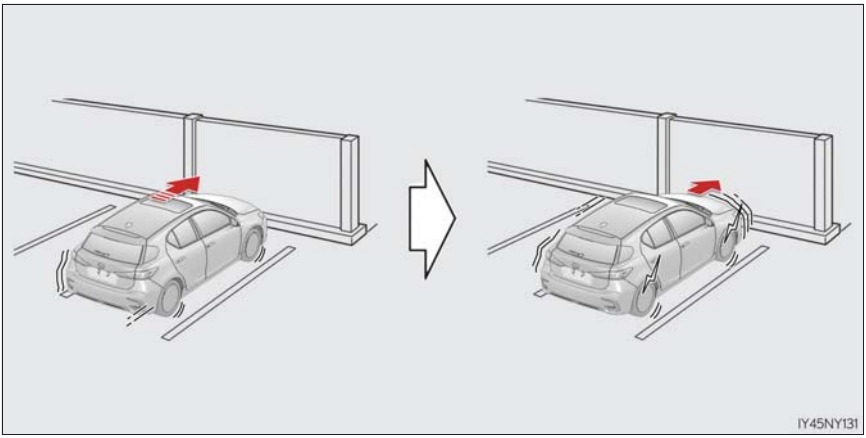
# パーキングサポートブレーキ（静止物）

**駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。**

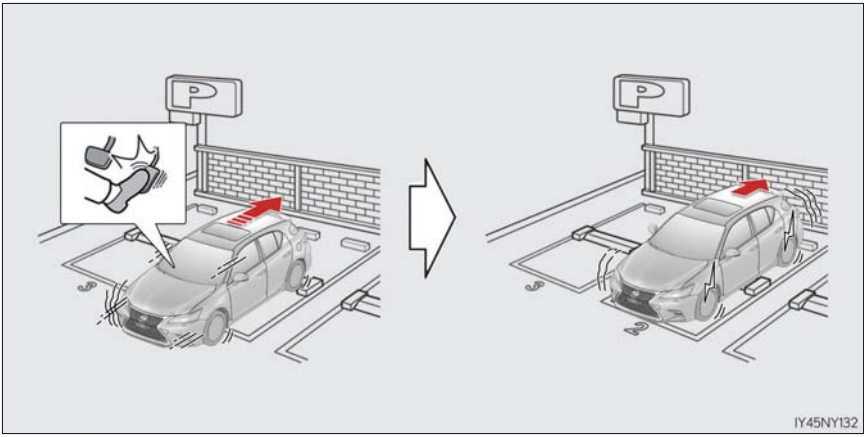
## システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

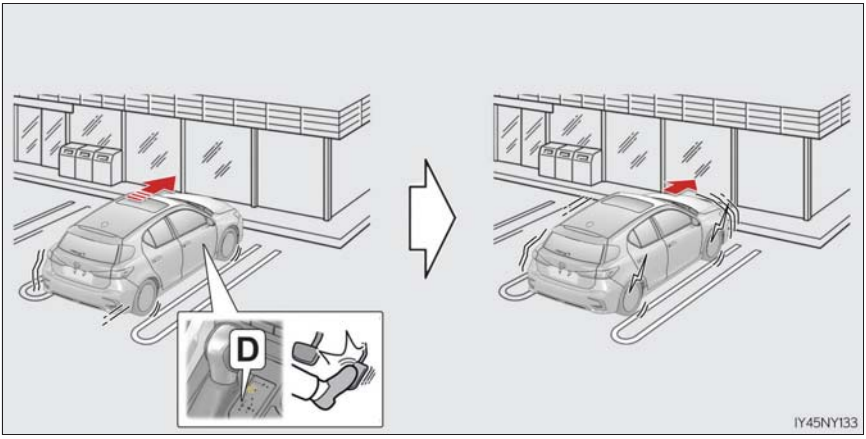
### ■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき




■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき




## センサーの種類

→ P. 239

**警告**

■**パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムを正しく作動させるために**

センサー（→ P. 239）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■**サスペンションの取り扱いについて**

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

■**万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは**

万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏むことで、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■**パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合

●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合

●積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引フックを取り付けた場合

●自走式洗車機を使用する場合

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 84）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・ 車速が 15km/h 以下
・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（2 ～ 4m 先まで）
・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）作動後の復帰について

→ P. 250

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 244）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■パーキングサポートブレーキ（静止物）が検知しないおそれのある作動対象について

次のようなものは、センサーが検知しない場合があります。

●歩行者

●綿、雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

●背の低いもの

●針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの

●バンパーに非常に近いもの

●鋭角的な形のもの

●背が高く上部が張り出しているもの

■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが作動しないおそれのある状況

シフトレバーが N の状態のとき

■クリアランスソナーのブザーについて

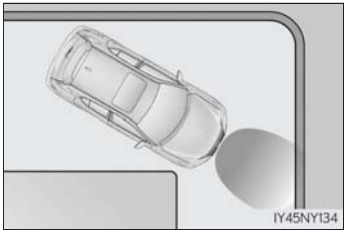
クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→ P. 240）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 249）、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき



・ 砂利道・草むらなどを走行するとき

・ 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・ 道路脇に構造物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・ 縦列駐車時
・ 地面にわだちや穴がある場合
・ 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・ 急な登坂路や降坂路を走行するとき
・ 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響
・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・ 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
・ 風が強いとき

●他の音波の影響を受けたとき
・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート ＜ 特に蛍光灯タイプ ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けているとき

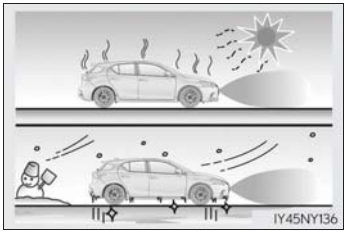
●車両の変化
・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

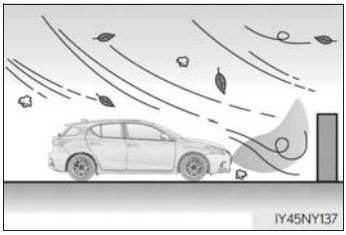
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●天候の影響

・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合




・風が強いとき




・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

●周辺環境の影響

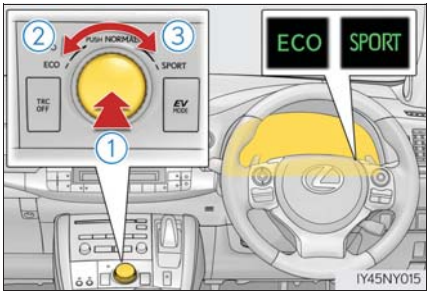
・作動対象物と車両のあいだに、検知できない対象物がある場合
・車、二輪車、自転車、歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
・背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
・凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
・センサーに静止物が近づきすぎたとき

●他の音波の影響
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品(字光式ナンバープレート < 特に蛍光灯タイプ >・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき
・センサー付近にけん引フック、バンパプロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤ等を取り付けたとき
・センサーにペイントやステッカーなどを貼ったとき

# ドライブモードセレクトスイッチ

**走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。**




① NORMAL モード

② エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを左へまわすと、メーター内の ECO モード表示灯が点灯します。

NORMAL モードにもどすときは、スイッチを押します。

③ SPORT モード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スイッチを右へまわすと、メーター内の SPORT モード表示灯が点灯します。

NORMAL モードにもどすときは、スイッチを押します。

知識

**■エコドライブモードのエアコン作動について**

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 286）空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

**■SPORT モードの自動解除**

SPORT モードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に NORMAL モードに切りかわります。

# 運転を補助する装置

**走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。**

### ◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

### ◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

### ◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

### ◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

### ◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

### ◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

### ◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

### ◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

## VSC・TRC・ABS が作動しているとき

VSC・TRC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

## TRC を停止するには

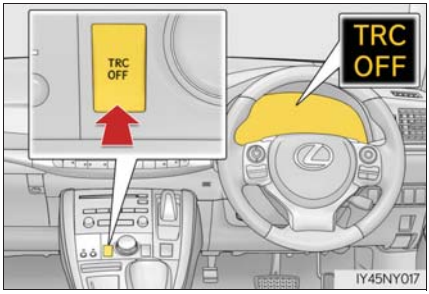
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。
レクサス販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキを強く踏んだり、くり返し踏んだとき、およびハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■TRC の自動復帰について

TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●車速が高くなったとき

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

**警告**

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

**警告**

■**ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■**スリップ表示灯が点滅しているとき**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC を OFF にするとき**

TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC を作動停止状態にしないでください。TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 437）
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

# ハイブリッド車運転のアドバイス

**環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。**

## ◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 262)

## ◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 89)

## ◆ シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

## ◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

## ◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

## ◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

### ◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

### ◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

### ◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

### ◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

### ◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

# 寒冷時の運転

**寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。**

## 冬を迎える前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・エンジンオイル
・冷却水
・ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 330）

## 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

## 運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

## 駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

知識

### ■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

### ■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

**警告**

### ■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

**警告**

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

**注意**

■**タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■**ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

# 室内装備・機能 5


## 5-1. リモートタッチ

リモートタッチ .....274

10.3 インチディスプレイ.....277

## 5-2. エアコンの使い方

オートエアコン .....279

ステアリングヒーター／
シートヒーター .....289

## 5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 .....291

・フロントインテリアランプ・
パーソナルランプ
メインスイッチ .....291

・パーソナルランプ .....292

・リヤインテリアランプ.....292

## 5-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧 .....293

・グローブボックス .....294

・コンソールボックス .....294

・カップホルダー／
ボトルホルダー／
ドアポケット .....295

・小物入れ.....296

ラゲージルーム内装備.....297

## 5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 .....301

・サンバイザー .....301

・バニティミラー .....301

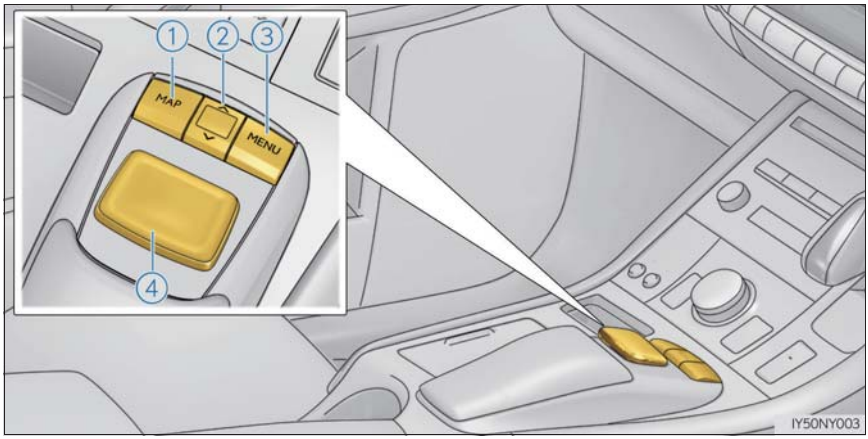
・アクセサリーソケット.....302

・アクセサリーコンセント.....303

・アシストグリップ .....309

# リモートタッチ

**リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。**
**詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。**




① MAP スイッチ

ナビゲーション画面で現在地を表示します。

② ∧・∨スイッチ

地図縮尺やリスト画面を切りかえます。

③ MENU スイッチ

メニュー画面を表示します。（→ P. 276）

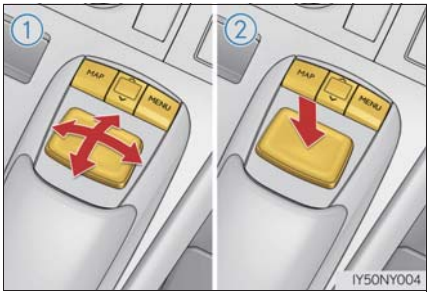
④ リモートタッチノブ

画面上のスイッチを選択または決定します。

## リモートタッチの操作について

① 選択する:リモートタッチノブを操作して、ポインタをスイッチに合わせる。

② 決定する:リモートタッチノブを押す




### 知識

**■低温時の画面表示について**

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

### 警告

**■リモートタッチを操作するとき**

- リモートタッチノブに指をはさんだり髪の毛を引っかけるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。
- 環境によってリモートタッチが熱くなる、または冷たくなり、持てなくなることがあります。

### 注意

**■リモートタッチの故障を防ぐために**

- リモートタッチに食べ物や飲み物などをこぼさないでください。変色の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。ノブが曲がったり、折れたりするおそれがあります。
- リモートタッチにコインやコンタクトレンズなどの異物が挟まると、操作できなくなります。
- リモートタッチノブに衣服などを挟んだり、巻き込んだりするおそれがあります。
- パワースイッチをアクセサリーモードにしたとき、リモートタッチノブの上に手またはものが置かれていると、正しく作動しないおそれがあります。

## メニュー画面

リモートタッチの MENU スイッチを押すと、メニュー画面が表示されます。

分割画面表示にしているとき、メニュー画面はメイン画面に表示されます。（→ P. 277）

| スイッチ | 機能 |
|---|---|
| | 目的地を設定する。※ |
| | オーディオ操作画面を表示する。※ |
| | デジタルテレビを表示する。※ |
| | 電話画面を表示する。※ |
| | 情報画面を表示する。※ |
| | エアコン操作画面を表示する。（→ P. 280） |
| | 設定・編集画面を表示する。※ |
| 「画質・消」 | 画質調整画面を表示する。※ |

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

# 10.3 インチディスプレイ

## 画面表示について

### ■ 全画面表示

以下の画面は、表示エリアの全てに一画面で表示することができます。

- オープニング画面
- メニュー画面（→ P. 276）
- ナビ※
- オーディオ※
- 燃費、Harmonious Driving Navi、エネルギーモニター（→ P. 96）
- TV※
- エアコン（→ P. 280）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

### ■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。たとえば燃費情報画面を表示したまま、オーディオ画面を並べて表示したり操作することができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。

## 分割画面の操作

### ■ 操作したい画面の選択

メイン画面を選択するには、リモートタッチノブを左に操作します。

サイド画面を選択するには、リモートタッチノブを右に操作します。

### ■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

### ■ サイド画面

▶ 基本画面

右端のスイッチから各画面をサイド画面に表示し操作することができる

① ナビ ※

② オーディオ ※

③ ハンズフリー ※

④ 車両情報（→ P. 104）

⑤ エアコン（→ P. 281）

⑥ 全画面表示切替スイッチ

サイド画面を非表示にします。

メイン画面に表示中の画面が全画面表示に対応している場合（→ P. 277）、その画面が全画面表示となります。

▶ 割り込み画面

次の各画面は状況に応じて自動的に表示される

- クリアランスソナー★（→ P. 239）
- ハンズフリー ※
- オーナーズデスク ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

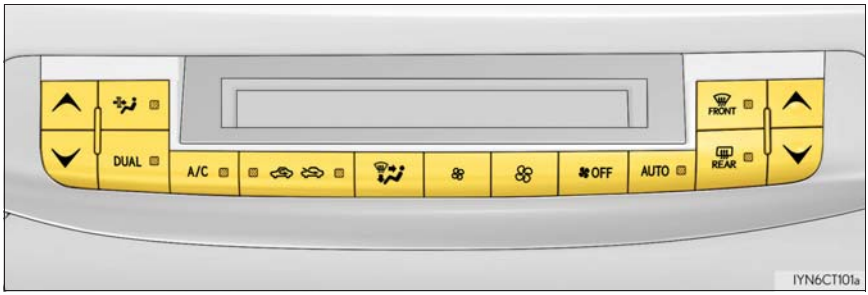
# オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの MENU ボタンを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

また、サイド画面に表示し操作することもできます。（→ P. 281）

## エアコン操作スイッチについて




### ■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは を、下げるときは を押す

A ／ C スイッチ（ “A/C” ）が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

### ■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは を、減らすときは を押す

OFF スイッチを押すと、ファンがとまります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

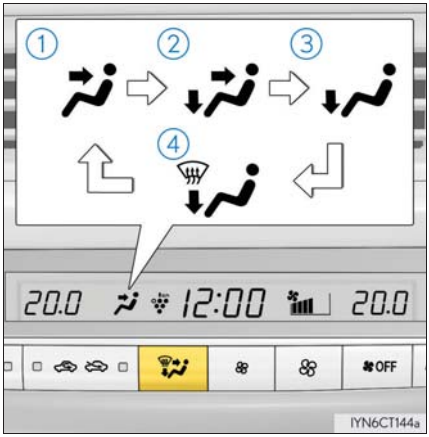
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る




## エアコン操作画面について

① 助手席側の温度を調整する

② 風量を切りかえる

③ 吹き出し口を切りかえる

④ 運転席側の温度を調整する

⑤ オプション操作画面を表示する (→ P. 281)

⑥ 吹き出し口と風量が自動的に調整される

⑦ 冷房・除湿する

⑧ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード） (→ P. 282)

リモートタッチノブを操作して画面上のスイッチを選択し、リモートタッチノブを押して決定します。

■ オプション操作画面

エアコン操作画面で を選択する

各機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。

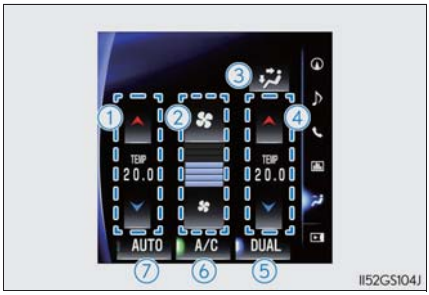
① フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ★（→ P. 284）

② 花粉を除去する（→ P. 283）

③ プラズマクラスター®（高濃度タイプ）※ を作動する

※ プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

■ サイド画面




① 助手席側の温度を調整する

② 風量を切りかえる

③ フロント席の吹き出し口を切りかえる

④ 運転席側の温度を調整する

⑤ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→ P. 282）

⑥ 冷房・除湿する

⑦ 吹き出し口と風量が自動的に調整される

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す、またはエアコン操作画面で “AUTO” を選択する

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す、またはエアコン操作画面で “OFF” を選択する

### ■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

### ■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの DUAL スイッチを押す
  または、エアコン操作画面で “DUAL” を選択する
- エアコン操作画面（サイド画面）で “DUAL” を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

## その他の機能

### ■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

### ■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

### ■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFF になります。

### ■ 花粉除去機能を使用するには

エアコン操作スイッチの を押す、またはオプション操作画面で、

を選択する

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面の が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

### ■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

オプション操作画面で、を選択する。

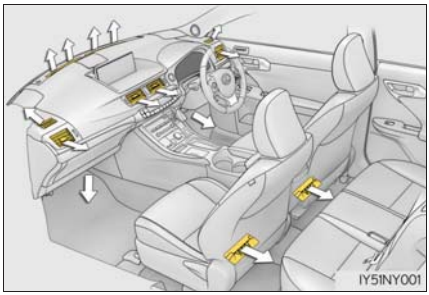
フロントワイパーデアイサーが ON のとき、エアコン操作画面のが点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

## 吹き出し口について

### ■ 吹き出し口の位置

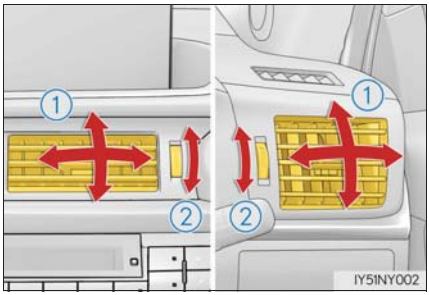
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。




### ■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉




★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■電子キーによるエアコン設定の記憶について

●電子キーでドアを解錠してパワースイッチをONモードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

●パワースイッチをOFFにすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

●複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTOスイッチ（“AUTO”）をONにした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 288）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A／Cスイッチ（“A/C”）をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A／Cスイッチ（“A/C”）をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。（→ P. 262）

■プラズマクラスター®（高濃度タイプ）※1 について

エアコンにはプラズマクラスター® 発生装置が搭載されています。この装置は運転席側の吹き出し口を通じて、プラズマクラスター® イオンを発生させることにより、車室内を清潔に保ちつつ快適性を向上させます。

●ファンが作動すると、自動的にプラズマクラスター® が作動します。※2

●プラズマクラスター® 作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、運転席側の吹き出し口付近で静電気を感じたり、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1 プラズマクラスター®、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

※2 プラズマクラスター® が ON のとき（→ P. 281）

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 327

■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

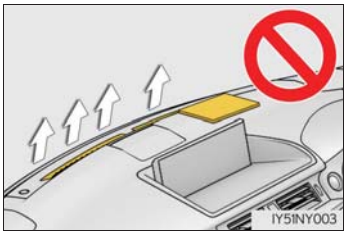
## 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。




■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。（フロントワイパーデアイサー装着車）

■プラズマクラスター®（高濃度タイプ）について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■ **湿度センサーについて**

フロントウインドウガラスの曇り検知（→ P. 285）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。
・ 湿度センサーを分解しない
・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
・ 湿度センサーにシールなどを貼らない

■ **プラズマクラスター®（高濃度タイプ）の損傷を防ぐために**

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

# ステアリングヒーター★／シートヒーター

**ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めます。**

**警告**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しない
  - ・毛布・クッションなどを使用しない

**注意**

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

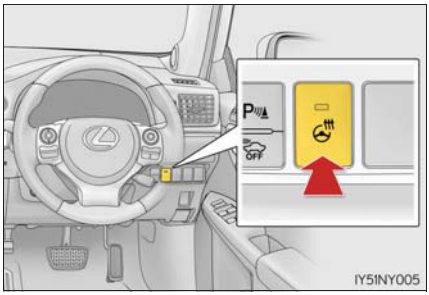


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。




知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モード
- タイマー制御：約 30 分後に自動で OFF になります。

## シートヒーター

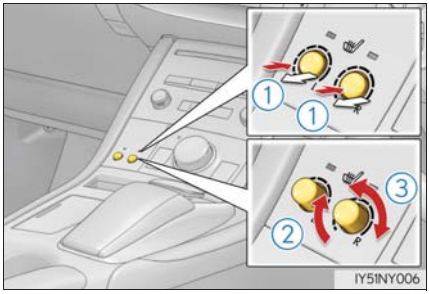
① ノブを押して引き出す

② シートを暖める

インジケーター（黄）が点灯します。

③ 温度を調節する

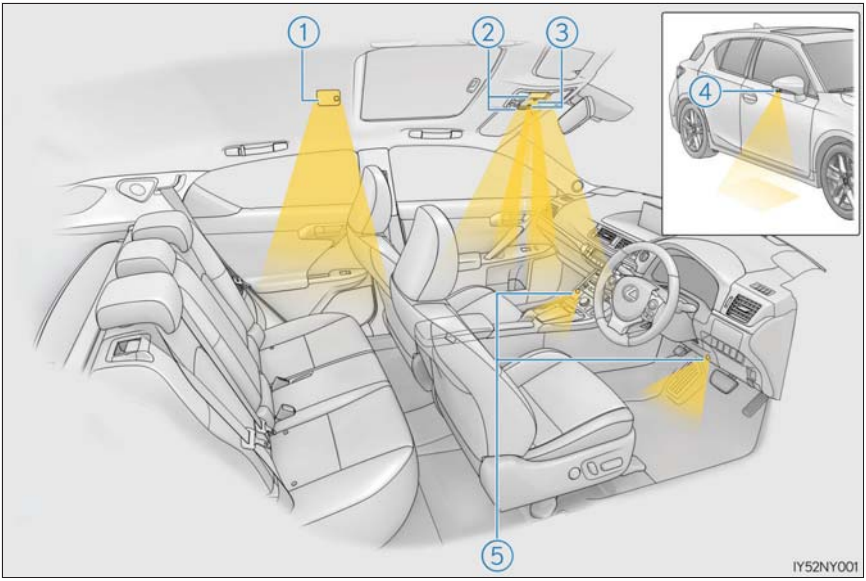
ノブを時計回りにまわすと高温になります。




知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モード
- 使用しないときは、ノブを反時計回りにいっぱいまでまわしてください。インジケーターが消灯します。ノブをもとの位置に押しもどしてください。

# 室内灯一覧




① リヤインテリアランプ（→ P. 292）

② フロントインテリアランプ・パーソナルランプ（→ P. 291）

③ カップホルダー照明 ※（パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード）

④ ドアミラー照明

⑤ 足元照明 ※

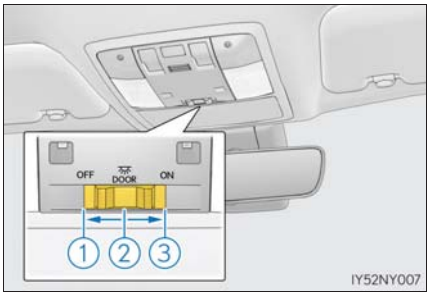
※ インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、カップホルダー照明と足元照明が消灯します。（→ P. 88）

## フロントインテリアランプ・パーソナルランプメインスイッチ

① ランプを消灯する

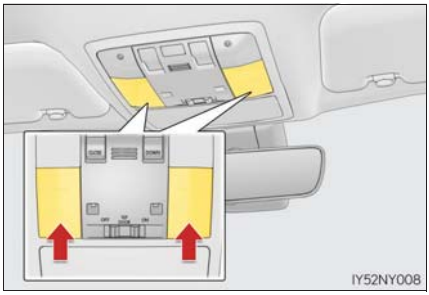
② ドアポジション（ドア連動）を ON にする

③ ランプを点灯する



## パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

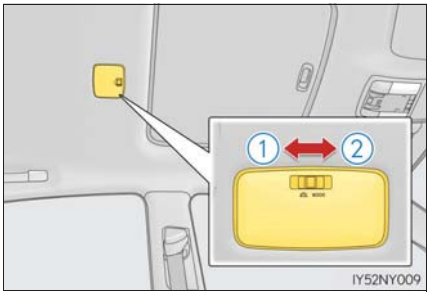



## リヤインテリアランプ

① ランプを点灯する

② ドアポジション（ドア連動）を ON にする ※

※ フロントインテリアランプメインスイッチに連動して作動し、メインスイッチが OFF のときはランプが点灯しません。



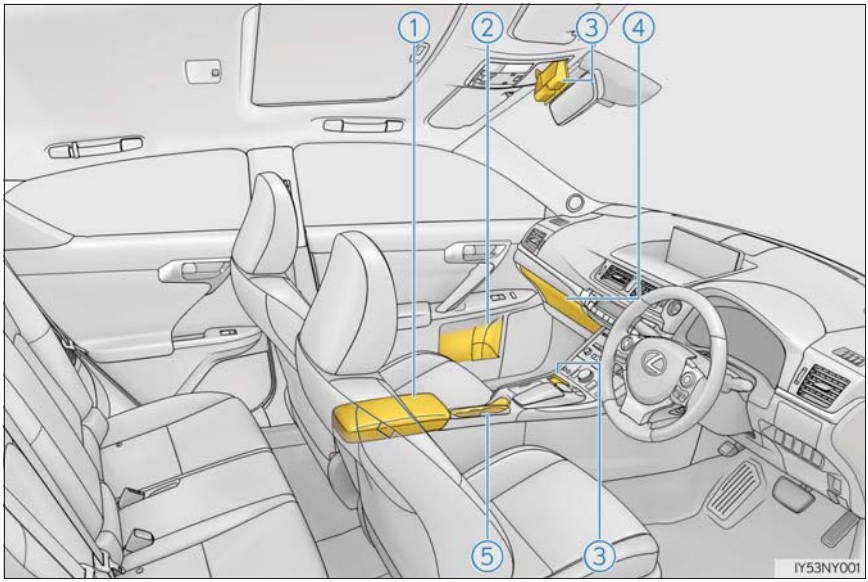

### 知識

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

### 注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

# 収納装備一覧




① コンソールボックス（→ P. 294）
② ボトルホルダー／ドアポケット（→ P. 295）
③ 小物入れ（→ P. 296）
④ グローブボックス（→ P. 294）
⑤ カップホルダー（→ P. 295）

**警告**

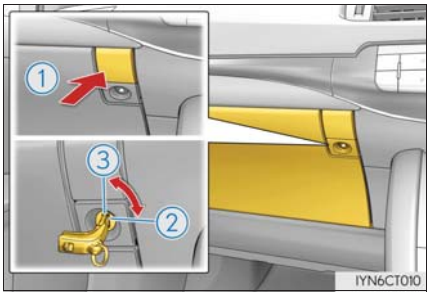
- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## グローブボックス

① 開ける（ボタンを押す）

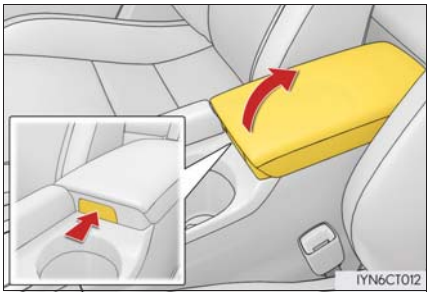
② メカニカルキーで施錠

③ メカニカルキーで解錠



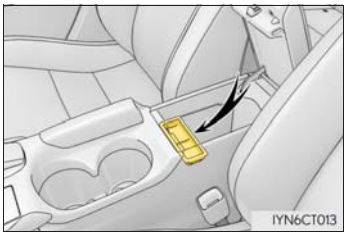

## コンソールボックス

ノブを押しながらフタを持ち上げて開く




### 知識

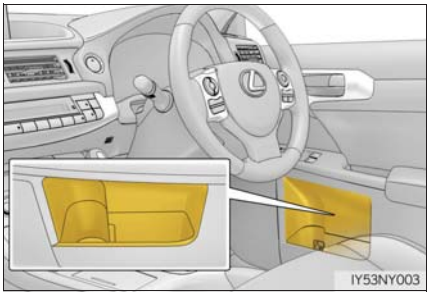
コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。



## カップホルダー／ボトルホルダー／ドアポケット

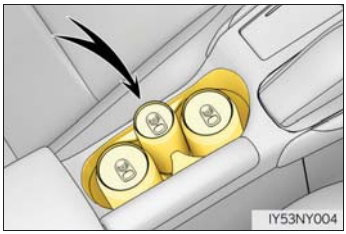
### ■ カップホルダー

### ■ ボトルホルダー／ドアポケット




知識

●カップホルダー中央の仕切り部に小さめのカップや缶を置くことができます。




●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

**警告**

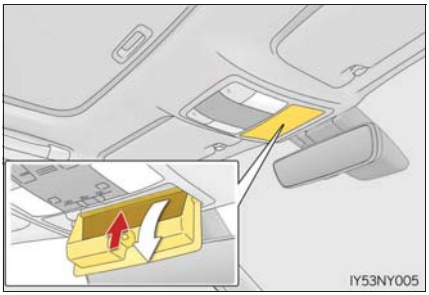
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

注意

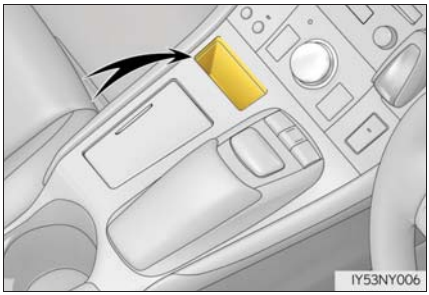
ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

## 小物入れ

▶ A タイプ




▶ B タイプ




フタを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

警告

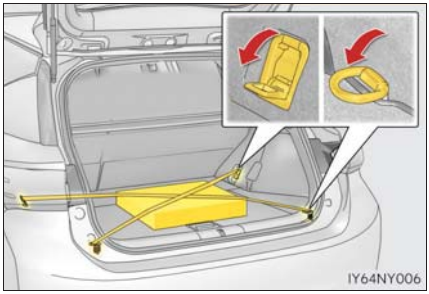
200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとホルダーが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(A タイプ)

# ラゲージルーム内装備

## デッキフック

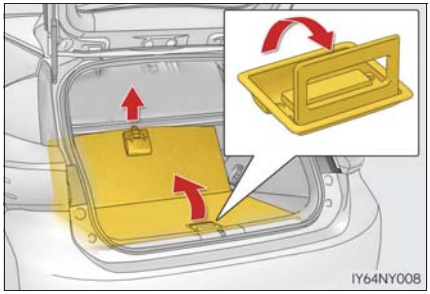
フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



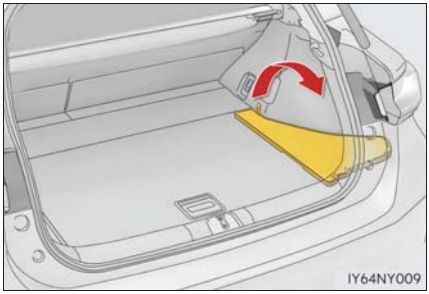

## デッキアンダーボックス

▶ 中央



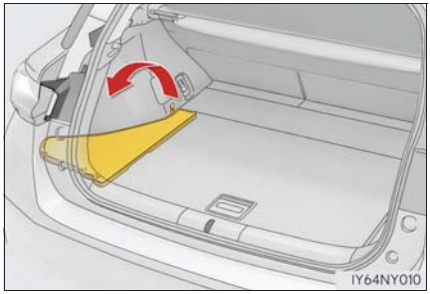

中央のデッキボードを引き上げる

▶ 右側




右側のデッキボードを引き上げる

▶ 左側



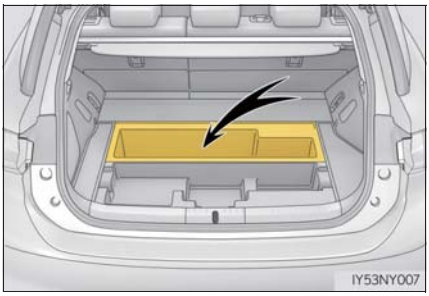

左側のデッキボードを引き上げる

トノカバーの収納時のみ使用します。

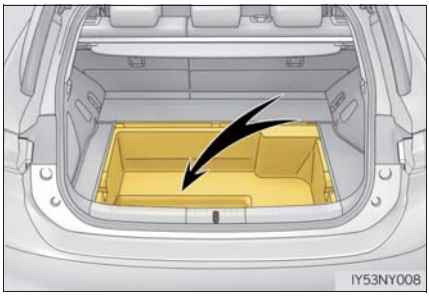
## 三角表示板等収納スペース

デッキアンダーボックスに三角表示板等を収納することができます。

▶ A タイプ




▶ B タイプ

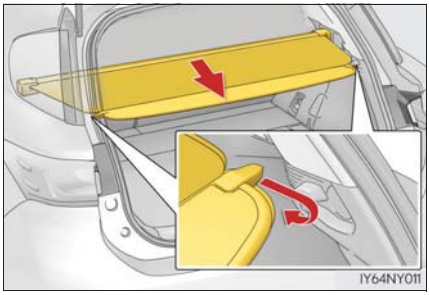



▶ C タイプ

## トノカバー

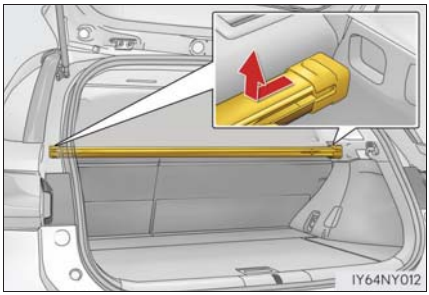
### ■ トノカバーの使い方

カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける



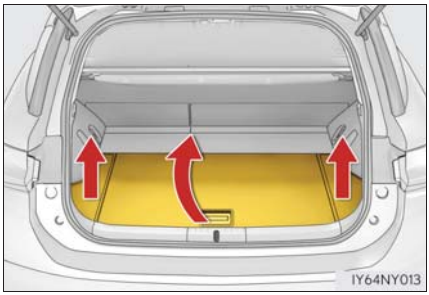

### ■ トノカバーの取りはずし

トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

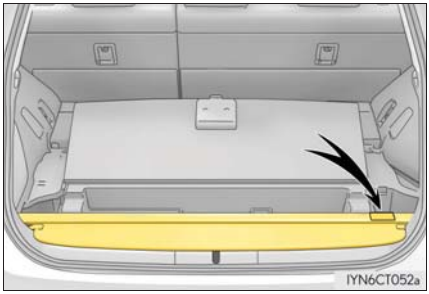



### ■ トノカバーの収納

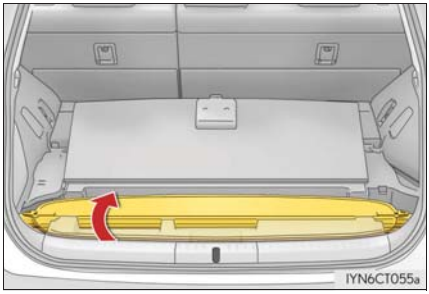
1 左右のデッキボードを取りはずし、中央のデッキボードを持ち上げて半分に折りたたむ



2 はずしたトノカバーは、ラベルを上にしてラゲージトレイにはめ込む




3 トノカバーの後端を前方に裏返して収納し、デッキボードをもとどおり取り付ける




知識

三角表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

**警告**

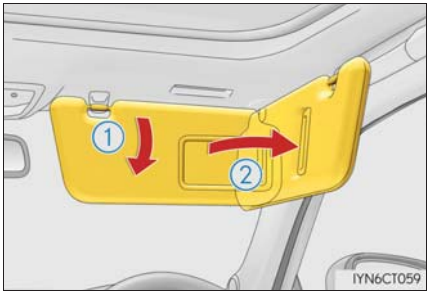
- 三角表示板等を収納するときは、確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# その他の室内装備

## サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

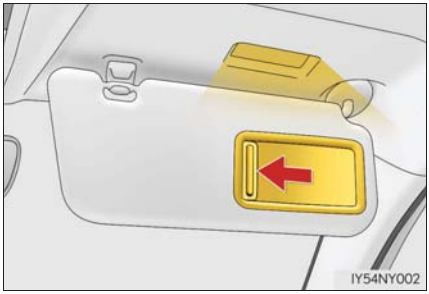
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす




## バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。




知識

自動消灯：パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

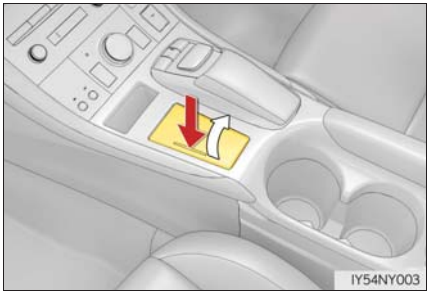
注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

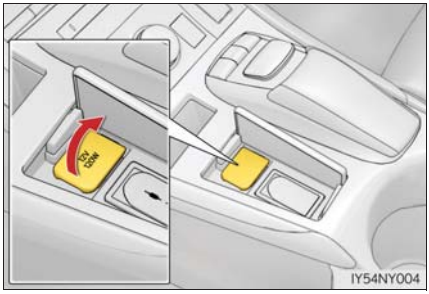
## アクセサリーソケット

DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

**1** フタを押して開ける




**2** フタを開ける




### 知識

**■作動条件**

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

**■ハイブリッドシステムを停止するとき**

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

### 注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

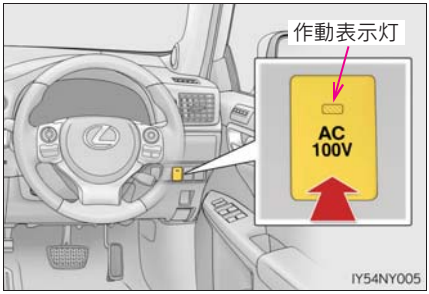
## アクセサリーコンセント★

AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

**1** メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

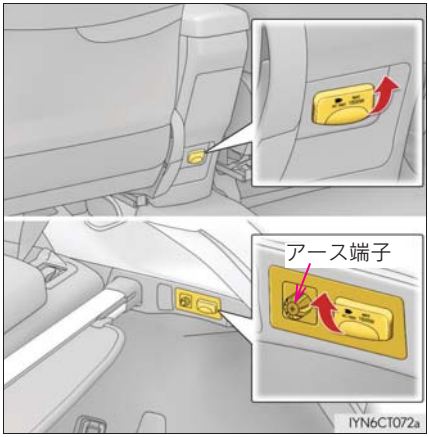
スイッチを押すたびに電源の ON ／ OFF が切りかわります。




**2** フタを開けて使用する

コンセントは、コンソールボックス後方とラゲージルームの 2 か所にあります。

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、アース線を接続してください。




### 知識

**■使用条件**

READY インジケーターが点灯しているとき

**■駐車中または停車中に使用するとき**

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■使用しないとき

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

●AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。

●メインスイッチを ON にした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

●アクセサリーコンセントを使用中、ラゲージルームから冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時のピーク電力が高い電気製品

●精密なデータを処理する計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないとき

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

●電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。

●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 99）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。

●炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するとき

外気温が－ 15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

**警告**

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、レクサス販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

**警告**

■**駐車中または停車中に使用するとき**

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしてください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 41）

●状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近づいたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近づけないでください。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■**接続する電気製品について**

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
なお、次のような機器は使用しないでください。

●医療用機器
車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。

●計量器・計測器など
AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

注意

■ショートや故障を防ぐために

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

●AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。

●お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。

●アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。

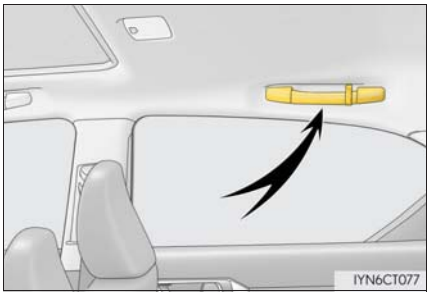
●アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

## アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。




**警告**

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

**注意**

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

# お手入れのしかた 6


## 6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ .....312
内装の手入れ .....316

## 6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット .....322
ガレージジャッキ .....325
エンジンルームカバー.....326
エアコンフィルターの交換.....327
ウォッシャー液の補充.....329
タイヤについて .....330
タイヤ空気圧について.....334
電子キーの電池交換.....336
ヒューズの点検、交換.....339
電球（バルブ）の交換.....342

# 外装の手入れ

**お手入れは、次の項目を実施してください。**

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

**■セルフリストアリングコートについて**

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

**■自動洗車機を使うとき**

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
・よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

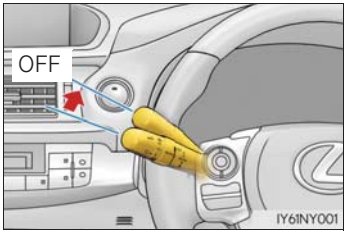
**警告**

■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。




- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しくよごれたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→ P. 190）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

# 内装の手入れ

**お手入れは、次の要領で実施してください。**

## 車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

## 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5%にうすめて使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

## 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

## 駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの手入れ

駆動用電池冷却用吸入口／フィルターは、目づまりしないように定期的に清掃してください。

### ■ 吸入口の清掃のしかた

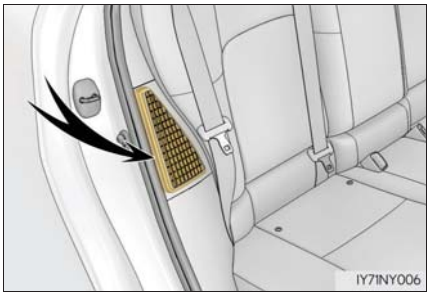
掃除機などで、ほこりや砂などを取り除く

吸入口にはフィルターが取り付けられています。

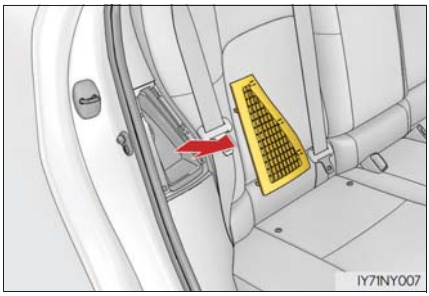
「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターが目づまりしていることが考えられます。吸入口のカバーを取り外して、フィルターを清掃してください。

### ■ 冷却用吸入口フィルターの清掃のしかた

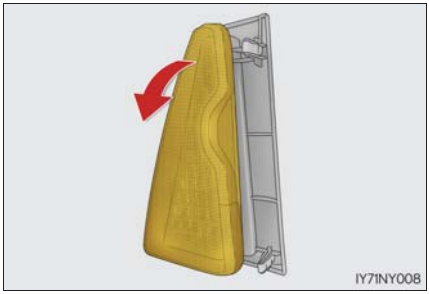
フィルターはリヤシート横にあります。




1 ツメ 5 箇所を外して、吸入口のカバーを外す



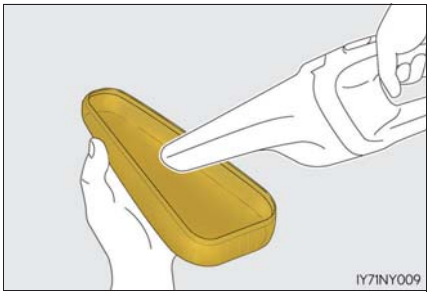
**2** 吸入口のカバーからフィルターを取り外す




**3** 掃除機などで、ほこりや砂などを取り除く

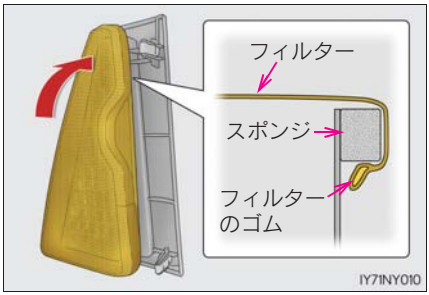
吸入口も掃除機などで清掃してください。

フィルターが破損しているときは、レクサス販売店で交換してください。




**4** 取り外したときと逆の手順でフィルターとカバーを取り付ける

フィルターのゴムが、全周にわたってカバーのスポンジにかかっていることを確認してください。




**5** ハイブリッドシステムを始動し、「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」の表示が消灯していることを確認する

消灯するまでには、ハイブリッドシステム始動後、20 分ほどかかる場合があります。

フィルターを清掃しても消灯しないときは、レクサス販売店にご相談下さい。

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■駆動用電池冷却用吸入口の手入れについて

●吸入口が目づまりした状態で走行しつづけると、駆動用電池が過熱したり、燃費の悪化につながります。

●吸入口の清掃時期は、使用環境などにより異なります。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて

●フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

●フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■駆動用電池冷却用吸入口のフィルターの清掃について

●ご自身でのフィルターの清掃に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。誤った取り扱いをすると、カバーまたはフィルターが破損するおそれがあります。

●フィルターが目づまりした状態で走行しつづけると、駆動用電池が過熱するなどして、燃費の悪化につながったり、故障の原因になります。

●フィルターの清掃時期は、使用環境などにより異なります。

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたとき

●たまったほこりなどによる吸入口／フィルターの目づまりが考えられます。「冷却用吸入口フィルターの清掃のしかた」を参照して、吸入口の清掃を行ってください。

●メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池が過熱するなどして電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費の悪化につながったり、故障の原因になったりします。吸入口／フィルターにほこりなどがたまらないよう、定期的に吸入口の清掃をしてください。

●吸入口を清掃してもメッセージが消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

**警告**

■**車両への水の浸入**

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 68）駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 33）
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**駆動用電池冷却用吸入口およびフィルターの手入れをするときは**

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●リヤシート横のカバーを取りはずすときは、必ずパワースイッチをOFFにしてハイブリッドシステムを停止してください。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 202）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するとき

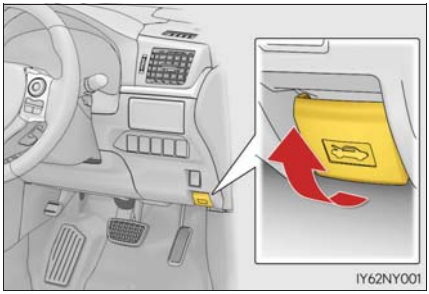
フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

# ボンネット

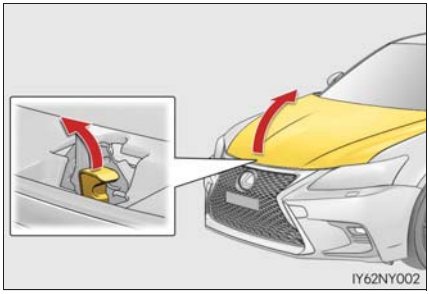
**車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。**

1 ボンネット解除レバーを引く

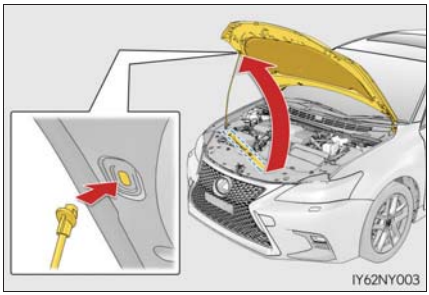
ボンネットが少し浮き上がります。




2 レバーを引き上げてボンネットを開ける




3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

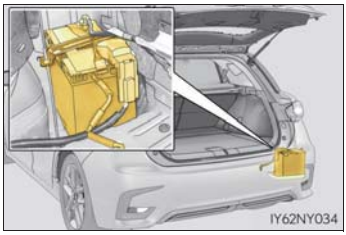


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 421）




警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを開けるとき

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

**警告**

■ **ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ **ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ **補機バッテリーの交換について**

交換する際は CT200h 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

**注意**

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ **ボンネットを閉めるとき**

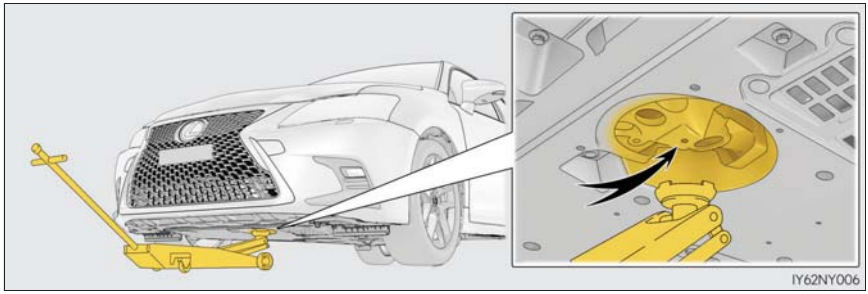
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

# ガレージジャッキ

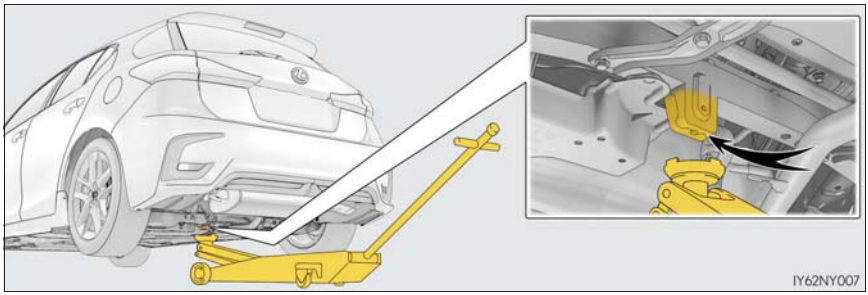
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

## ◆ フロント側



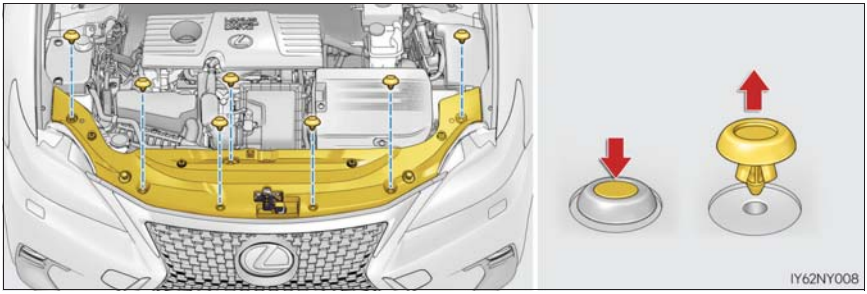

## ◆ リヤ側



# エンジンルームカバー

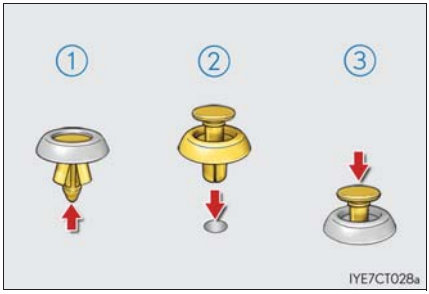
**電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。**

## エンジンルームカバーの取りはずし方




## クリップの取り付け方

① クリップの中央部分を押し上げる
② 挿し込む
③ クリップ中央部分を押す




### 警告

**■けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

### 注意

**■エンジンルームカバー取り付け後の確認**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

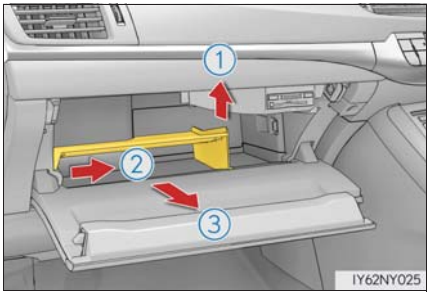
# エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

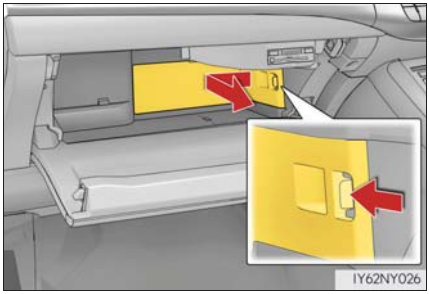
## 交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

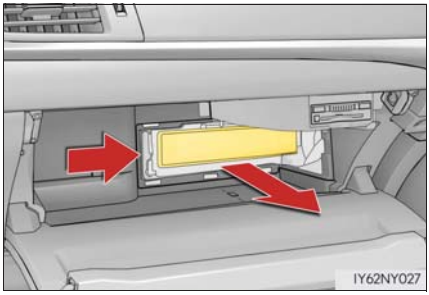
2 グローブボックスを開き、仕切り板をはずす




3 フィルターカバーを取りはずす

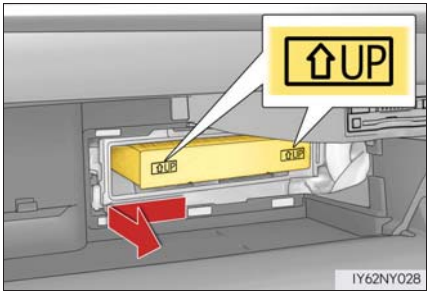



4 ツメを押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす



**5** フィルターを横にずらすようにして取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。




知識

■ **エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。
30,000km[15,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ **エアコンの風量が減少したとき**

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

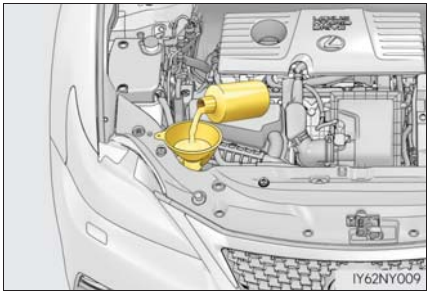
■ **エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

# ウォッシャー液の補充

## 補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する




**警告**

■**ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

**注意**

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

# タイヤについて

**タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。**
**タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。**

## タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

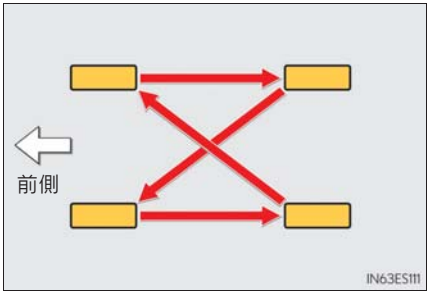
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

## タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■タイヤ空気圧の数値

▶195/65R15 91S

前輪：270kPa（2.7kg/cm$^2$）※
後輪：270kPa（2.7kg/cm$^2$）※

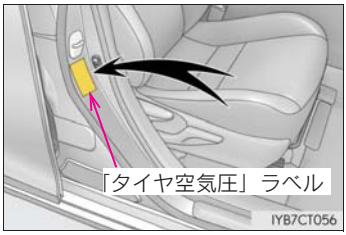
▶205/55R16 91V

前輪：220kPa（2.2kg/cm$^2$）※
後輪：220kPa（2.2kg/cm$^2$）※

▶215/45R17 87W

前輪：230kPa（2.3kg/cm$^2$）※
後輪：220kPa（2.2kg/cm$^2$）※

▶応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm$^2$）※




タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R17 87W 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R17 87W 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

**■異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

**■異常があるホイールの使用禁止**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■低偏平タイヤについて（215/45R17 87W 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

# タイヤ空気圧について

**タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。****（→ P. 437）**

知識

## ■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

## ■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

**警告**

**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

**注意**

**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

# 電子キーの電池交換

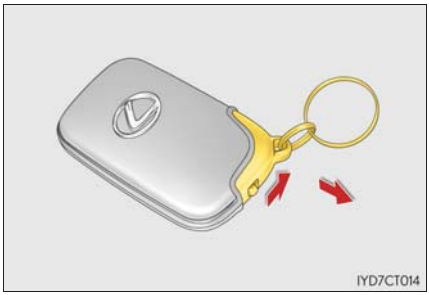
**電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。**

## 用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

## 電池交換のしかた

**1** メカニカルキーを抜く（→P. 109）

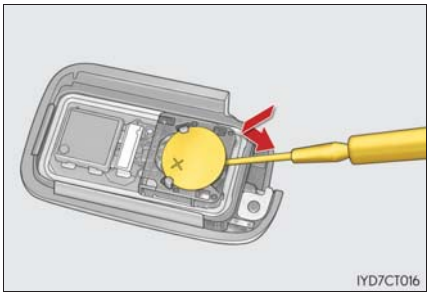



**2** カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

**3** 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



知識

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキー★の電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

# ヒューズの点検、交換

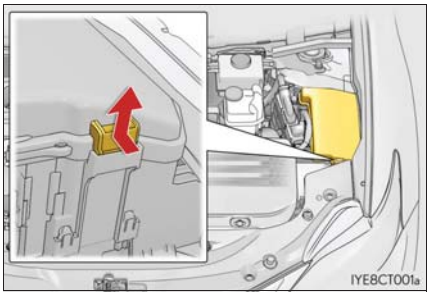
**ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。**

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

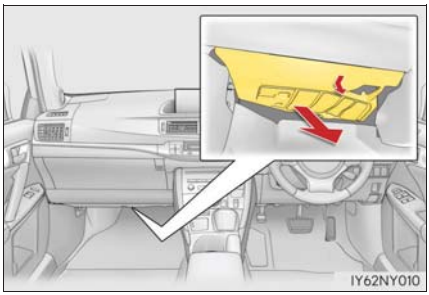
▶ エンジンルーム

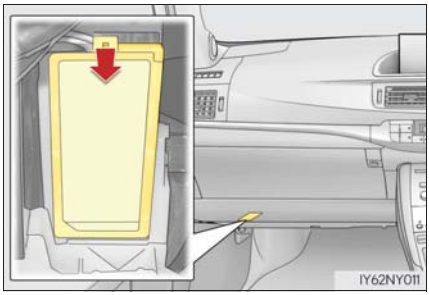
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる




▶ 助手席足元

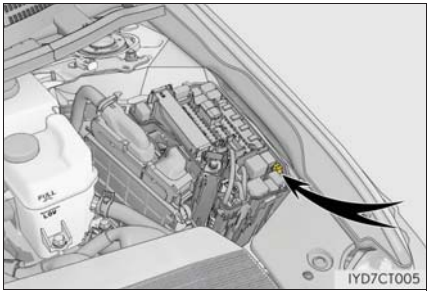
足元のカバーを取りはずして、ヒューズボックスカバーを取りはずす



**3** ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

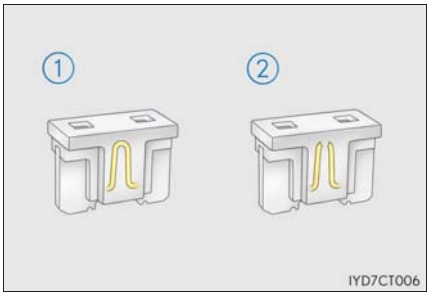



**4** ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。




知識

■ **ヒューズを交換したあとは**

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 342）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると**

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ **電球（バルブ）を交換するとき**

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

**警告**

■**車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■**パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて**

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

# 電球（バルブ）の交換

**次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。**

## 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 438）

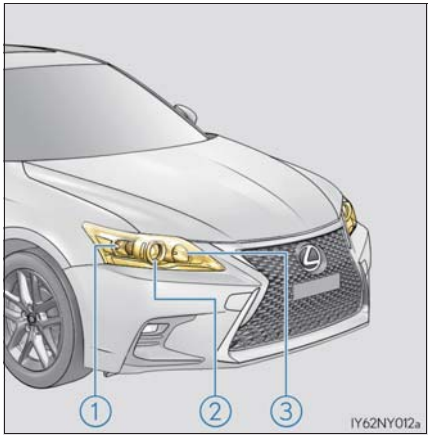
## エンジンルームカバーの取りはずし

→ P. 326

## バルブ位置

■ **フロント**

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

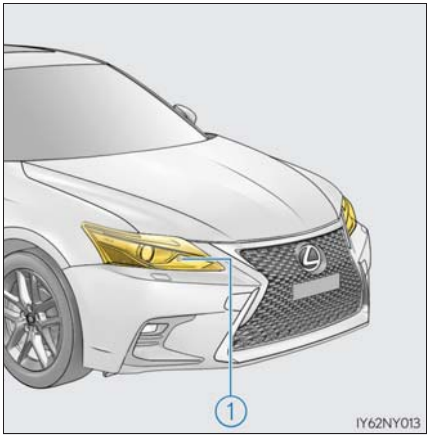



① フロント方向指示灯／非常点滅灯

② ヘッドランプロービーム

③ ヘッドランプハイビーム

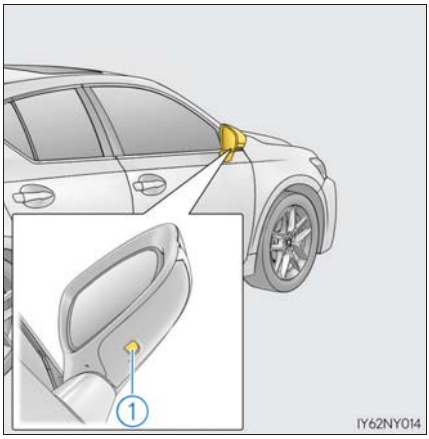
▶ LED ヘッドランプ装着車




① フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ サイド

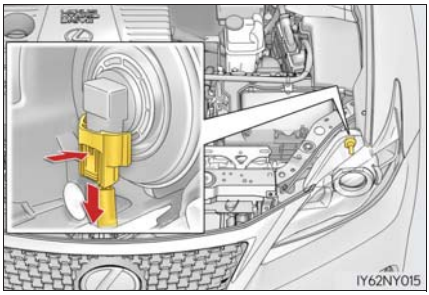
① ドアミラー照明



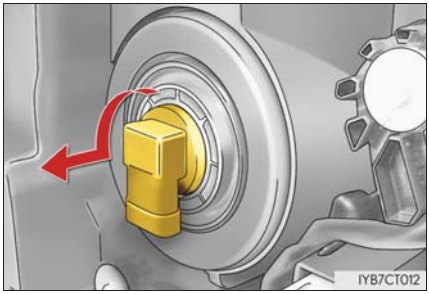

## 電球交換のしかた

■ ヘッドランプ　ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

**1** コネクターを取りはずす

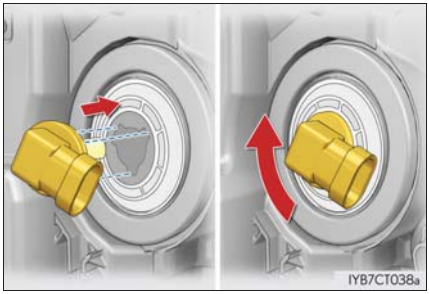



**2** 電球を取りはずす



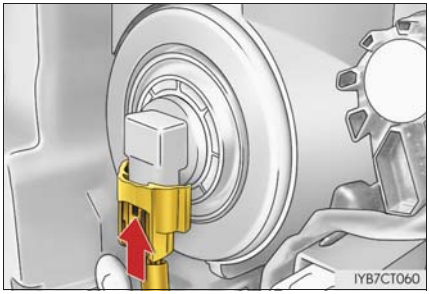
**3** 新しい電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込み、右にまわして固定します。



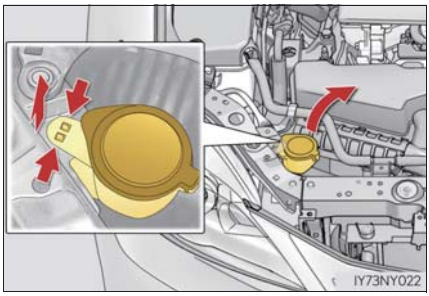

**4** コネクターを取り付ける

コネクターを取り付けたあとは、いったんヘッドランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

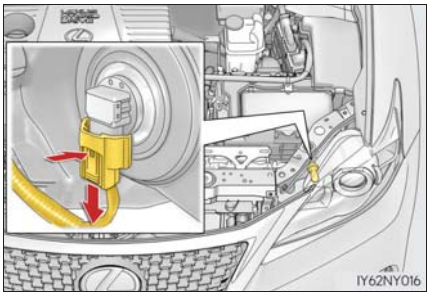


■ ヘッドランプ　ハイビーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

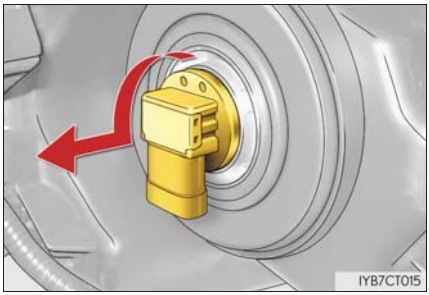
1 運転席側を交換するときは、ウォッシャー液補給口を取りはずす




2 コネクターを取りはずす

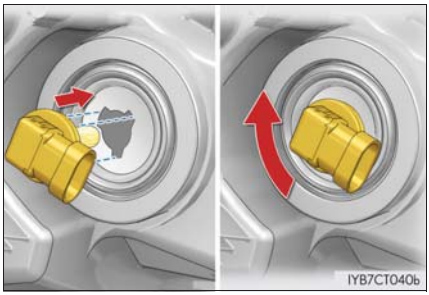



3 電球を取りはずす



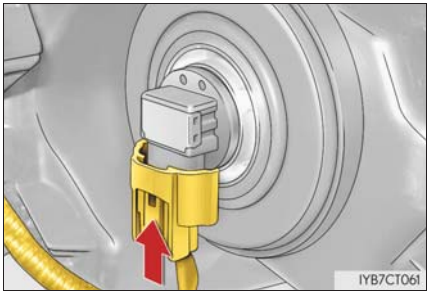

4 新しい電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込み、右にまわして固定します。



**5** コネクターを取り付ける

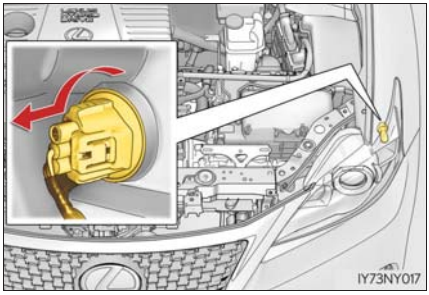
コネクターを取り付けたあとは、いったんヘッドランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



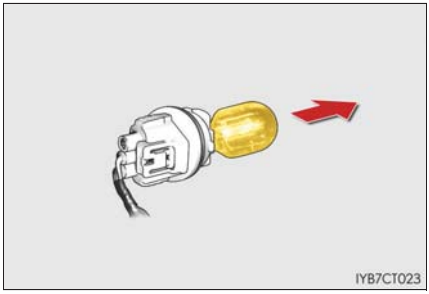

**6** 運転席側を交換したときは、手順 **1** と逆の手順で取り付ける

## ■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

**1** ソケットを取りはずす




**2** 電球を取りはずす



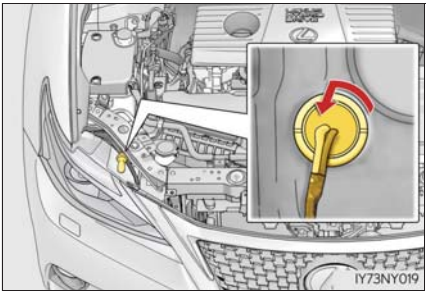

**3** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED ヘッドランプ装着車）

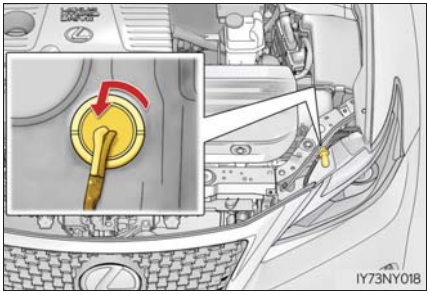
1 運転席側を交換するときは、ウォッシャー液補給口を取りはずす（→ P. 345）

2 ソケットを取りはずす

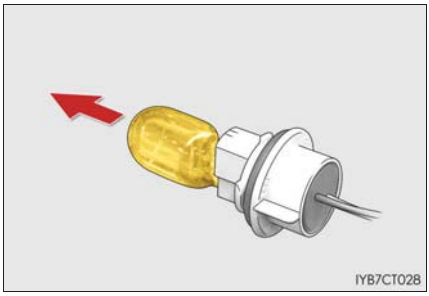
▶ 運転席側




▶ 助手席側




3 電球を取りはずす

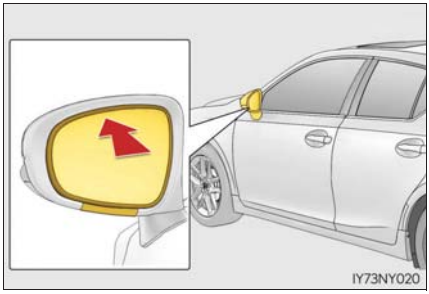



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

5 運転席側を交換したときは、手順 1 と逆の手順で取り付ける

## ■ ドアミラー照明

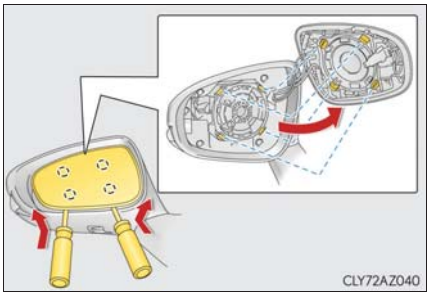
**1** ミラーの上端を押して鏡面を上向きにし、ミラーのカバー下部に保護テープを貼り付ける




**2** 保護テープを巻いたマイナスドライバー（2 本）の先端を挿し込んで、ミラー裏側のツメ（4 か所）をはずす

ミラーを手前に引き出すようにして、2 か所ずつツメをはずします。

ミラーが急に落下しないよう、慎重に作業してください。

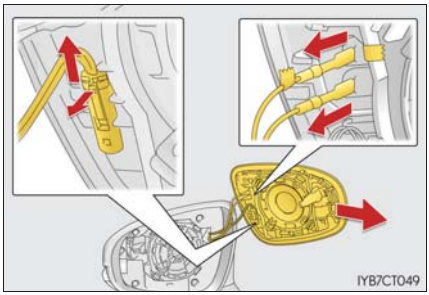



**3** 裏面にあるコネクター類の接続をはずし、ミラーを取りはずす

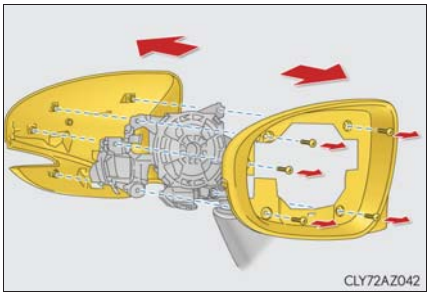
細いコネクターをはずすときは、組み付け時に間違えないよう、いずれかの側にテープなどで印を付けておきます。

ミラーを落とさないように、慎重に作業してください。

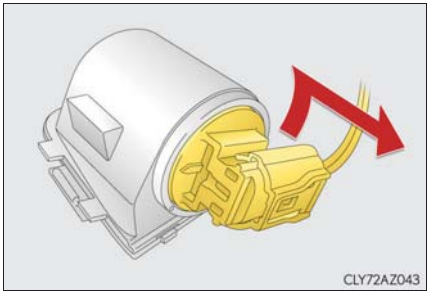
ミラーを持つときは、グリースが塗布してある箇所をつかまないように注意してください。



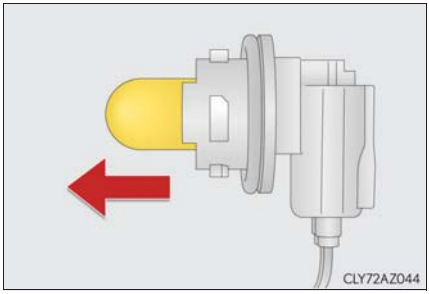

**4** ネジ（5 本）をはずして、ミラーのカバー類を取りはずす



**5** ソケットを取りはずす

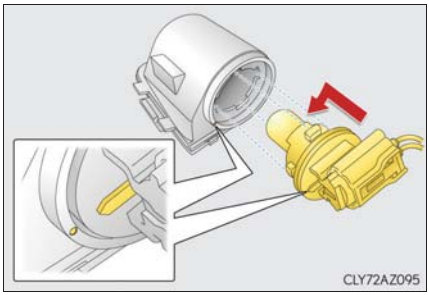



**6** 電球を取りはずす




**7** 新しい電球を取り付けてから、ソケットをランプ本体に固定する

ソケットを挿し込むときは、ランプ本体・ソケットそれぞれに刻印されているマークの位置を合わせてください。

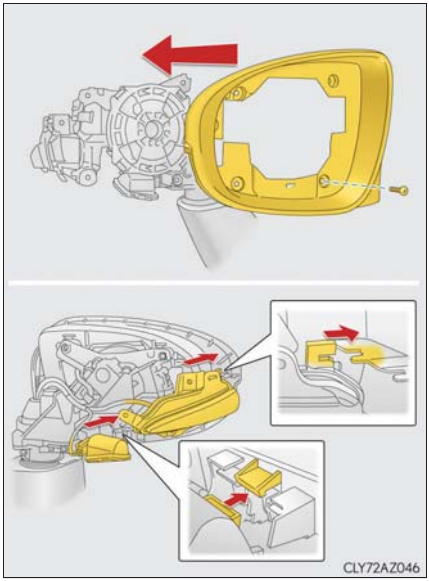


**8** 鏡面側のカバーをミラーのフレームに取り付けてネジ（1 本）で固定し、サイド方向指示灯と足元照明を取り付ける

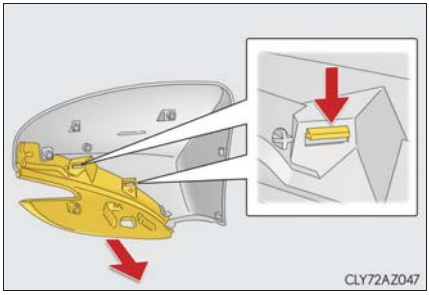
ここでは、図の位置のネジ（1 本）だけを取り付けます。

サイド方向指示灯は、ランプ側とカバー側のツメの位置を合わせて取り付けます。

足元照明は、ランプ本体側の溝とカバー側のツメをかみ合わせて固定します。

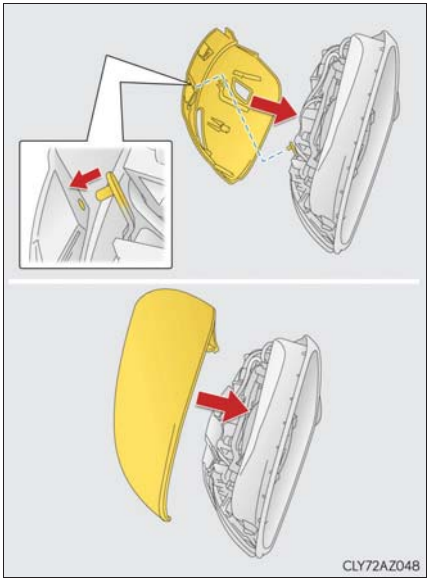



**9** ツメをはずして、アウターミラーの後部カバーを上下に分離する



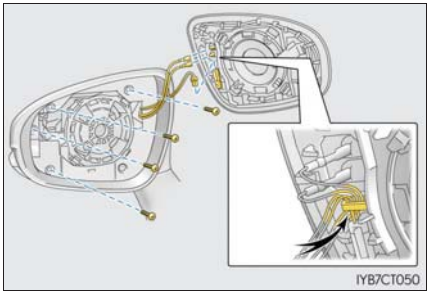
**10** 下側から上側の順にアウターミラーの後部カバーを取り付ける

下側のカバーを取り付けるときは、サイド方向指示灯のピンをカバーの穴に挿し込んでください。




**11** ネジ（4 本）でカバーを固定し、取りはずしたコネクター類をもとどおりに取り付ける

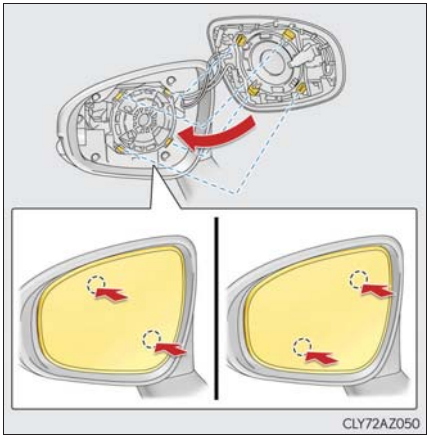
コード類はもとどおりフックにかけて固定します。




**12** ツメの位置を合わせ、対角の 2 か所ずつ順番に鏡面を押し込んで、ミラーを固定する

必ず図の順序で 2 か所を同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずにいったんミラーをはずして、ツメの位置が合っているか確認してください。



### ■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯／ LED デイライト★
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- 後退灯
- リヤフォグランプ★
- リヤサイドマーカーランプ
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

### ■ LED ランプについて

ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）・フロント方向指示灯／非常点滅灯以外のランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

### ■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 340

**警告**

■電球を交換するとき

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

**注意**

■ドアミラー照明を交換するとき

工具・体がフロントドアガラスにあたって作業しづらい場合は、ドアガラスを開けて作業スペースを広げてください。無理に作業すると、車両に傷が付く原因になります。

# 万一の場合には 7


## 7-1. まず初めに

故障したときは .....356
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....357
発炎筒 .....358
車両を緊急停止するには.....360
水没したときは .....361

## 7-2. 緊急時の対処法

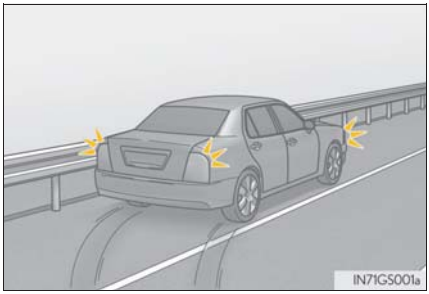
けん引について .....362
警告灯がついたときは.....368
警告メッセージが表示された
ときは .....372
パンクしたときは
（タイヤパンク
応急修理キット装着車）.....393
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....407
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....417
電子キーが正常に
働かないときは .....419
補機バッテリーが
あがったときは .....421
オーバーヒートしたときは.....426
スタックしたときは.....430

# 故障したときは

**故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。**

非常点滅灯（→ P. 357）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



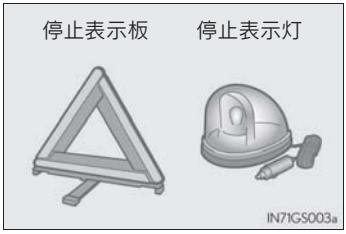

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 358）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ **停止表示板・停止表示灯について**

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板･停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

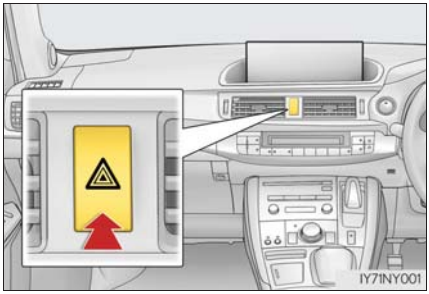


# 非常点滅灯（ハザードランプ）

**故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。**

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。




知識

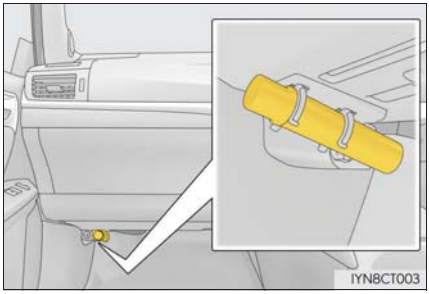
■ **非常点滅灯について**

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

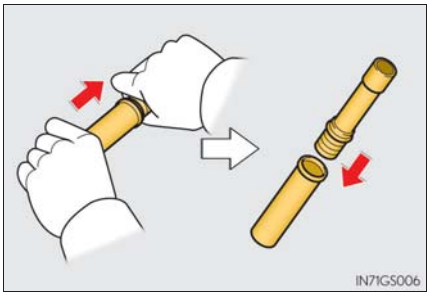
# 発炎筒

**高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。**
**（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）**
**発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。**

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

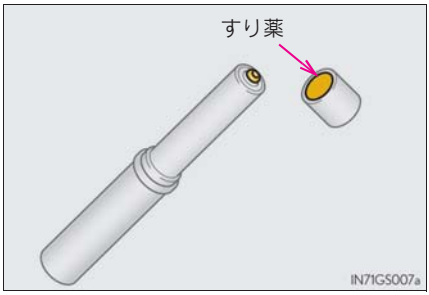



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む




3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

# 車両を緊急停止するには

**万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。**

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

**警告**

■ **走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

# 水没したときは

**万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。**

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

**警告**

**■緊急脱出用ハンマー※の使用について**

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

**■窓から車外に出るときは**

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

# けん引について

**けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。**

**その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。**

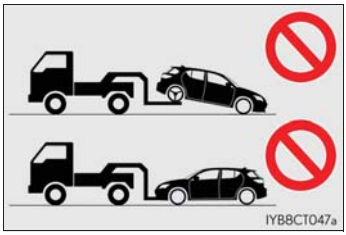
**やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。**

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■レッカー車でけん引するとき**

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。




**■他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

## 他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

● P ポジション制御システムに異常があるとき（→ P. 379）
● イモビライザーシステムに異常があるとき（→ P. 73）
● スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→ P. 419）
● 補機バッテリーがあがったとき（→ P. 421）

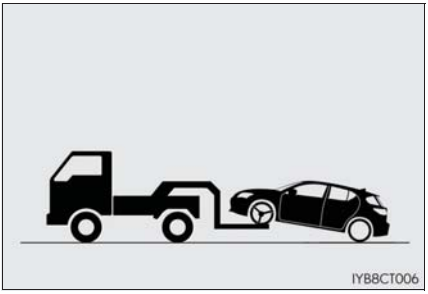
## けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

● ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
● 異常な音がする

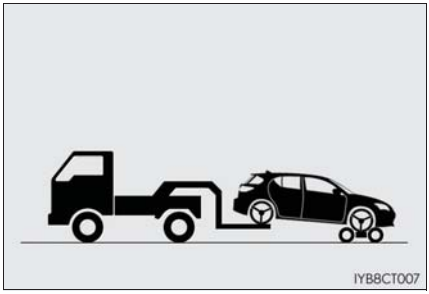
## レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは




パーキングブレーキを解除する

▶ うしろ向きにけん引するときは

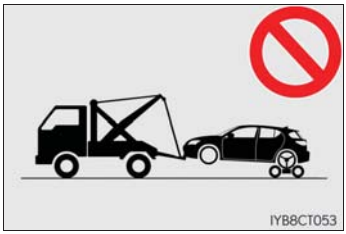



台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

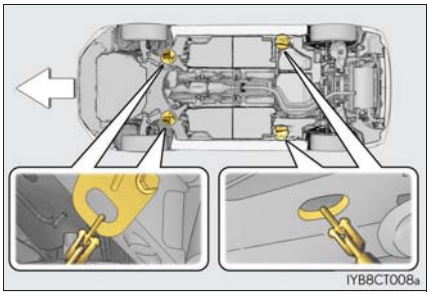
■ **レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

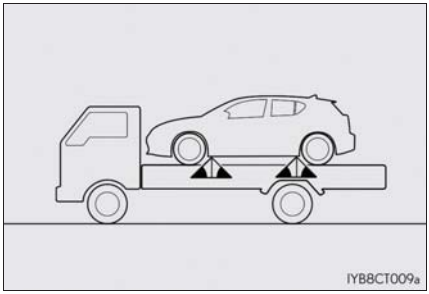


## 車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する




鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する




注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等で過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

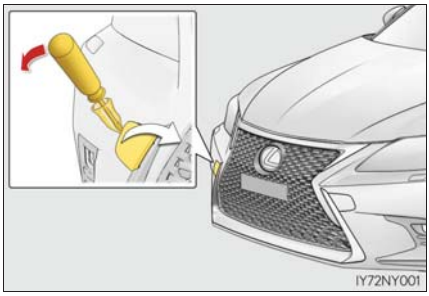
## 他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

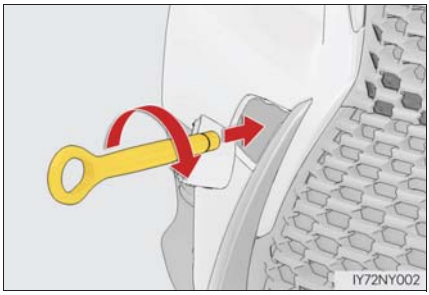
**1** ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→ P. 395, 408）

**2** マイナスドライバーを使ってフタをはずす

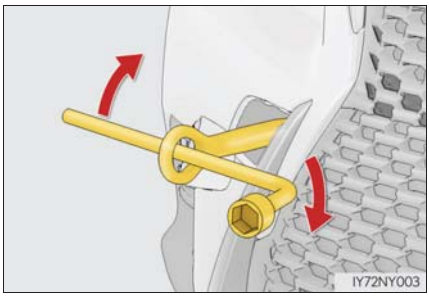
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。




**3** けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める




**4** ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

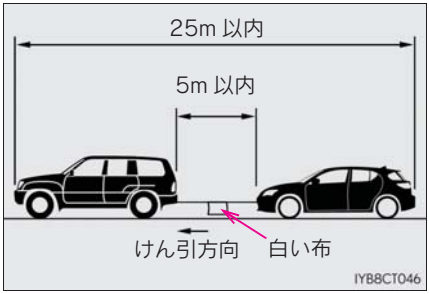



**5** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

**6** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上




**7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

**8** けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■ **けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ **他車にけん引してもらうときに**

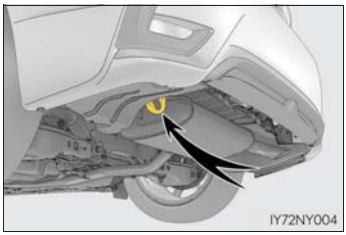
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ **ホイールナットレンチについて**

ラゲージルームに搭載されています。（→ P. 395, 408）

■ **緊急用フックについて**

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



# 警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

## 警告灯・警告ブザー一覧

| 警告灯 | 警告灯名・警告内容・対処方法 |
|---|---|
| <br>（赤色） | **ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1）**<br>・ ブレーキ液の不足<br>・ ブレーキ系統の異常<br>パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。<br>解除後、消灯すれば正常です。<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。** |
| <br>（黄色） | **電子制御ブレーキ警告灯**<br>・ 回生ブレーキシステムの異常<br>・ 電子制御ブレーキシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| | **油圧警告灯**<br>エンジンオイルの圧力異常<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。** |
| | **エンジン警告灯**<br>・ ハイブリッドシステムの異常<br>・ エンジン電子制御システムの異常<br>・ 電子制御スロットルの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| | **SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯**<br>・ SRS エアバッグシステムの異常<br>・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

| 警告灯 | 警告灯名・警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | **ABS ＆ブレーキアシスト警告灯**<br>・ ABS の異常<br>・ ブレーキアシストの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| | **パワーステアリング警告灯（警告ブザー）**<br>EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| <br>（点滅または点灯） | **PCS 警告灯**<br>警告ブザーが鳴った場合：<br>プリクラッシュセーフティの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>警告ブザーが鳴らない場合：<br>プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 372）** |
| | **LDA 表示灯**<br>LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）の異常<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに「LDA 現在利用できません」が表示された場合は、いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度 LDA を ON にしてください。（→ P. 219）**<br>**それ以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの指示に従ってください。** |
| | **スリップ表示灯**<br>・ VSC システムの異常<br>・ TRC システムの異常<br>・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>VSC、TRC または ABS 作動時には、点滅します。 |
| | **LED ヘッドランプオートレベリング警告灯★**<br>自動光軸調整システムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| | **高水温警告灯**<br>エンジン冷却水高温異常<br>水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。<br>**→ 車両を停車して点検する（→ P. 426）** |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| 警告灯 | 警告灯名・警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | **半ドア警告灯（警告ブザー ※2）**<br>いずれかのドアが確実に閉まっていない<br>**→ 全ドアを閉める** |
| | **燃料残量警告灯**<br>燃料の残量が約 6.8L 以下になった<br>**→ 燃料を補給する** |
| | **シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3）**<br>運転席・助手席シートベルトの非着用<br>**→ シートベルトを着用する** |
| | **リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※4（警告ブザー ※5）**<br>リヤ席シートベルトの非着用<br>**→ シートベルトを着用する** |
| | **マスターウォーニング**<br>システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。<br>**→ P. 372** |

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
→ P. 177

※2 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 374

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※4 センターパネルに表示されます。リヤ席乗員の有無にかかわらず、リヤ席シートベルト非着用の状態でパワースイッチをONモードにした場合、一定時間点灯します。

※5 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

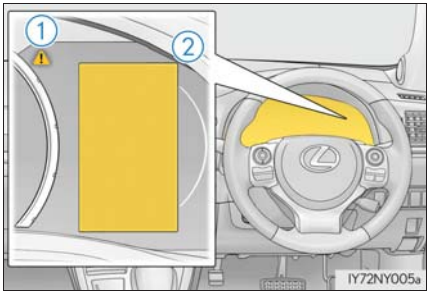
ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

# 警告メッセージが表示されたときは

**マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。**




① マスターウォーニング

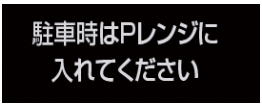
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

## 警告メッセージ一覧

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | **充電系統の異常**<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。** |
| | **衝突の可能性が高い**<br>**プリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティ）**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 周囲の安全を確認して、必要に応じて回避行動をとってください。** |
| <br>（点滅） | **（レーダークルーズコントロールの車間制御中）衝突の危険性**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ブレーキで減速する** |
| <br> <br>（点滅） | **（LDA[ レーンディパーチャーアラート < ステアリング制御機能付き >] 制御中）車線逸脱警報**<br>車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が橙色で点滅します。<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| <br> | **LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断**<br>運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。<br>**→ ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。** |
| <br> | **LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断したため、操舵支援が一時停止**<br>運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。** |
|  <br> <br>（点滅） | **シフトポジションが P 以外で、運転席ドアを開けた**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ シフトポジションを P にする** |
| <br> | **ドアが確実に閉まっていない**<br>開いているドアが表示されます。<br>全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 開いているドアを閉める** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | **ボンネットが確実に閉まっていない**<br>**→ ボンネットを閉める** |
| <br> | **バックドアが確実に閉まっていない**<br>バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。<br>**→ バックドアを閉める** |
| クリアランスソナー故障<br>販売店で点検してください<br> | **クリアランスソナーの異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| パーキングサポートブレーキ<br>故障<br>販売店で点検してください<br> <br>（点滅）　（点滅） | **パーキングサポートブレーキの異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| <br> | **ドライブスタートコントロールの異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| Nレンジです<br>アクセルを緩めて<br>希望レンジに<br>切り替えてください<br>（点滅） | **シフトポジションがNのとき、アクセルペダルを踏んだ**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにする** |
| 停車時はブレーキを<br>踏んでください<br>（点滅） | **上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持している**<br>警告ブザーが鳴ります。そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。<br>**→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキを踏む** |
| 駆動用電池<br>保護が必要<br>Pレンジにして<br>再始動してください<br>（点滅） | **長時間シフトポジションがNになっているため駆動用電池の残量が低下**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する** |
| ハイブリッドシステム故障<br>安全な場所に停車して<br>取扱書を確認 | **ハイブリッドシステムの異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| 駆動用電池<br>保護が必要<br>Nレンジの使用を<br>控えてください<br>（点滅） | **シフトポジションが N で駆動用電池の充電ができない状態が継続した**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ シフトポジションが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションを P に入れる** |
| パーキングブレーキを<br>解除してください<br>（点滅） | **パーキングブレーキをかけたまま車速が5km/hをこえた**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ パーキングブレーキを解除する** |
| 補機バッテリ充電不足<br>駐車時<br>パーキングブレーキをかけ<br>取扱書確認 | **補機バッテリーが充電不足**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 補機バッテリーを充電または交換する**<br>・ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。<br>・パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。<br>・パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。<br>・補機バッテリー充電後も、シフトポジションを P から P 以外に切りかえるまでメッセージが表示され続ける場合があります。 |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| シフト系通信故障<br>駐車時は<br>パーキングブレーキをかけ<br>取扱書を確認 | **シフト制御システムの通信故障**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>・ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。<br>・シフトポジションを P に切りかえられない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。<br>・自動 P ポジション切りかえ機能（→ P. 174）が働かない可能性があります。パワースイッチを OFF にする前に確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。<br>・パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 |
| シフト系故障<br>駐車時は<br>パーキングブレーキをかけ<br>取扱書を確認 | **シフト制御システムの故障**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>・ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。<br>・パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。<br>・パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 |
| シフト系故障<br>取扱書を確認 | **シフト制御システムの故障**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>放置すると、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。 |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| Pロック異常<br>駐車時は確実にパーキング<br>ブレーキをかけてください | **シフト制御システムの異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>・パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。<br>・パワースイッチをOFFにできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけるとOFFにすることができます。 |
| 補機バッテリ充電不足<br>シフト切りかえできません<br>取扱書を確認<br>（点滅） | **補機バッテリーの電圧が低下した状態でシフトポジションを切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 補機バッテリーを充電または交換する** |
| シフト切りかえ一時不可<br>しばらくしてから<br>再度操作してください<br>（点滅） | **シフトポジションをPからP以外、およびP以外からPに切りかえる操作を短時間にくり返した**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 約20秒待ってからシフトポジションを切りかえる** |
| Sレンジにできません<br>切りかえる場合は<br>Dにしてからシフト操作<br>（点滅） | **シフトポジションがPまたはNのときにSに切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ シフトポジションをDにしてからSに切りかえる** |
| 駆動レンジにできません<br>ハイブリッドシステム<br>始動後に操作<br>（点滅） | **パワースイッチがONモードのとき（READYインジケーター消灯中）に、シフトポジションをR・DまたはSに切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ハイブリッドシステムを始動後、シフトポジションをR・DまたはS※に切りかえる**<br>※Sに切りかえるときは、Dにしてから Sに切りかえてください。 |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| シフト切りかえ不可<br>切りかえる場合は<br>ブレーキを踏みシフト操作<br>（点滅） | **ブレーキペダルを踏まずにシフトポジションを P から切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ シフトポジションを P から切りかえるときは、ブレーキペダルを踏んで切りかえる** |
| Nレンジに切りかえました<br>Sにする場合は<br>Dにしてからシフト操作<br>（点滅） | **シフトポジションが R のときに S に切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>シフトポジションが N に切りかわります。<br>**→ シフトポジションを D にしてから S に切りかえる** |
| Nレンジに切りかえました<br>Dにする場合は<br>停車しシフト操作<br>（点滅） | **車両が後退しているときにシフトポジションを D に切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>シフトポジションが N に切りかわります。<br>**→ 車両を停車させてからシフトポジションを切りかえる** |
| Nレンジに切りかえました<br>Rにする場合は<br>停車しシフト操作<br>（点滅） | **車両が前進しているときにシフトポジションを R に切りかえようとした**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>シフトポジションが N に切りかわります。<br>**→ 車両を停車させてからシフトポジションを切りかえる** |
| Nレンジに切りかえました<br>Pにする場合は<br>停車しPスイッチ操作<br>（点滅） | **走行中に P ポジションスイッチを押した**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>シフトポジションが N に切りかわります。<br>**→ シフトポジションを P にする場合は、車両を完全に停車させてから P ポジションスイッチを押す**<br>**→ 走行を続ける場合は、シフトポジションを D または R に切りかえる** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| 前方カメラ<br>一時使用不可<br><br>しばらくお待ちください<br>OFF | **前方カメラの作動条件（温度など）が満たされていない**<br>**→ 前方カメラの作動条件（温度など）が満たされると、次のシステムが使用可能になります。**<br>・PCS（プリクラッシュセーフティ）<br>・LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）<br>・オートマチックハイビーム |
| 前方カメラ<br>一時使用不可<br><br>ガラスの汚れや曇りを<br>取ってください<br>OFF | **前方カメラの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している**<br>次のシステムが一時的に使用できなくなります。<br>・PCS（プリクラッシュセーフティ）<br>・LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）<br>・オートマチックハイビーム<br>**→ いったんシステムを OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度システムを ON にしてください。** |
| クルーズコントロール<br>使用不可<br>レーダーの汚れを<br>取ってください | **レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 汚れおよび氷などを取り除く** |
| クルーズコントロール<br>現在使用できません | **レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断した**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。** |
| クルーズ<br>コントロール故障<br>販売店で<br>点検してください | **レーダークルーズコントロールシステムの異常**<br>ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| LDA故障<br><br>販売店で<br>点検してください | **LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| LDA現在利用できません | **前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ いったん LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）を OFF にし、しばらくしてから再度 LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）を ON にしてください。** |
| プリクラッシュ<br>セーフティ故障<br>販売店で<br>点検してください | **PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| プリクラッシュセーフティ<br>一時使用不可<br>しばらくお待ちください | **PCS（プリクラッシュセーフティ）の一時停止**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、レクサス販売店で点検を受けてください。** |
| プリクラッシュセーフティ<br>使用不可<br><br>レーダー汚れを<br>取ってください | **レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ、氷などの付着**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 汚れおよび氷などを取り除く** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| プリクラッシュセーフティ<br>現在使用できません<br>OFF | **PCS（プリクラッシュセーフティ）が現在機能していない**<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |
| ライトが点灯しています<br>（点滅） | **ヘッドランプまたは車幅灯が点灯している状態でパワースイッチを OFF またはアクセサリーモードにして、運転席ドアを開けた**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ランプを消灯する** |
| ムーンルーフが<br>開いています<br>（点滅） | **ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でパワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ムーンルーフを閉める** |
| ハイブリッド<br>システム高温<br>出力制限中です | **ハイブリッドシステムの過熱**<br>負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 車両を停車して点検する（→ P. 426）** |
| ヘッドランプ<br>システム故障<br>販売店で<br>点検してください | **LED ヘッドランプシステム★またはオートマチックハイビームの異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| 車両接近通報装置故障<br>販売店で<br>点検を受けてください | **車両接近通報装置の異常**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ レクサス販売店で点検を受けてください。** |
| 補機バッテリー(始動用)<br>充電不足<br>取扱書を<br>確認してください | **補機バッテリーが充電不足**<br>**→ 数秒後※に表示が消えたときは**<br>**約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。**<br>**→ 表示が消えないときは**<br>**「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 421)の手順でハイブリッドシステムを始動してください。**<br>※ 約 6 秒間表示されます。 |
| ウォッシャー液を<br>補充してください | **ウォッシャー液が残りわずか**<br>**→ ウォッシャー液を補充する** |

知識

■ **警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ **レーダークルーズコントロールの警告メッセージについて**

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

■ **警告ブザーについて**

→ P. 371

注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」がひんぱんに表示されるとき

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

## その他に表示されるメッセージ

次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置することで、消灯させることができます。

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| LDA 約50km/h以下で<br>使用できません | 車速が約 50km/h 以下のため、LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）が使用できない<br>→ 約 50km/h より速い車速で走行する |
| LDA 現在の車速では<br>使用できません | 車速が LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）の作動可能範囲を超えたため、使用できない<br>→ 車速を落として走行する |
| クリアランスソナー<br>使用できません<br><br>ソナーの汚れを<br>除去してください | クリアランスソナーに氷、雪や泥などが付着している<br>警告ブザーが鳴ります。<br>→ 氷、雪や泥などを取り除く。低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ正常に復帰します。 |
| クリアランスソナー使用できません | クリアランスソナーのセンサー表面に水が継続的に流れている<br>警告ブザーが鳴ります。<br>→ システムが正常と判断したときに復帰します。 |
| | 補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていない<br>警告ブザーが鳴ります。<br>→ システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。 |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| パーキングサポートブレーキ<br>現在使用できません<br>（点滅）　（点滅） | **パワースイッチを ON にした直後に表示が出る**<br>**→ 周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。** |
| | **補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていない**<br>**→ システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。** |
| パーキングサポートブレーキ<br>現在使用できません<br>クリアランスソナー<br>使用できません<br>ソナーの汚れを<br>除去してください<br>（交互に表示）<br>（点滅）　（点滅） | **クリアランスソナーに氷、雪や泥などが付着している**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 氷、雪や泥などを取り除く。センサーの汚れを取り除いても表示が出るときや、汚れていなくても表示が出るときは、レクサス販売店で点検を受けてください。** |
| | **クリアランスソナーのセンサー表面に水が継続的に流れている**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ システムが正常と判断したときに復帰します。** |
| | **センサーが凍結している**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ 氷が解ければ正常に復帰します。** |
| アクセルを<br>戻してください<br>（点滅） | **ドライブスタートコントロールが作動している**<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ アクセルペダルを戻してください。** |
| EVモードに現在<br>切りかえできません | **EV ドライブモードに切りかえできない状況 ※**<br>EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する** |

| 警告メッセージ | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| EVモードが<br>解除されました<br>EV MODE<br>（3回点滅） | **EV ドライブモードが自動解除された ※**<br>EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。<br>警告ブザーが鳴ります。<br>**→ しばらく走行する** |
| 駆動用電池の<br>冷却部品の<br>メンテナンス必要<br>取扱書を確認 | **駆動用電池の冷却部品のメンテナンスが必要**<br>フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。<br>**→ 吸入口が汚れている場合は、P. 317 を参照して吸入口の清掃を行ってください。**<br>**→ 吸入口が汚れていないのにメッセージが表示されたときは、レクサス販売店で点検を受けてください。** |

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 169 を参照してください。

| 車内警告ブザー | 車外警告ブザー | 警告メッセージ | 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|---|---|---|
| なし | なし | バッテリー保護のため<br>自動で電源を<br>OFFしました | - | 自動電源 OFF 機能が作動した<br>→ **次回ハイブリッドシステムが作動した状態を約 5 分以上保持し補機バッテリーを充電する** |
| 連続音 | なし | Pレンジに入れて下さい | (点滅) | シフトポジションが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた<br>→ **シフトポジションを P にする** |
| 連続音 | 連続音 | Pレンジに入れて下さい<br>キーが見つかりません<br>キーの所在を<br>確認してください<br>(交互に表示) | (点滅) | シフトポジションが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された<br>→ **シフトポジションを P にする**<br>→ **電子キーを車内にもどす** |
| 1 回 | なし | キーが見つかりません<br>キーの所在を<br>確認してください | (点滅) | 電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした<br>→ **電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する** |
| | | | | 正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた<br>→ **車室内に電子キーがあるか確認する** |

| 車内警告ブザー | 車外警告ブザー | 警告メッセージ | 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 回 | 3 回 | キーが見つかりません<br>キーの所在を<br>確認してください | （点滅） | パワースイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した<br>**→ 電子キーを車内にもどす** |
| | | | | シフトポジションが P の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された<br>**→ パワースイッチを OFF にする**<br>**→ 電子キーを車内にもどす** |
| 1 回 | 5 秒間吹鳴 | キーが見つかりません<br>キーの所在を<br>確認してください<br>電源を<br>OFFしてください<br>（交互に表示） | （点滅） | パワースイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした<br>**→ パワースイッチを OFF にしたあと、再度施錠する** |
| 1 回 | なし | 電源OFF時はPレンジ<br>に入れてパワー<br>スイッチを押して下さい | （点滅） | シフトポジションが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にしようとした<br>**→ ハイブリッドシステムを停止する場合は、シフトポジションを P にしたあとパワースイッチを OFF にする** |

| 車内警告ブザー | 車外警告ブザー | 警告メッセージ | 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1回 | 5秒間吹鳴 | 車室内にキーがあります | （点滅） | ・車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした<br>・車内に電子キーを置いたままフロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした<br>**→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する** |
| 1回 | なし | ブレーキを踏みながらキーでパワースイッチに触れてください | （点滅） | ・メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できなかった<br>・パワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた<br>**→ ブレーキを踏みながら電子キーでパワースイッチにふれる** |

| 車内警告ブザー | 車外警告ブザー | 警告メッセージ | 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 回 | なし | 始動時は<br>ブレーキを踏みながら<br>パワースイッチを<br>押してください | （点滅） | パワースイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリーモードに 2 回した<br>**→ ブレーキを踏んでパワースイッチを押す** |
| | | | | 電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法（→ P. 419）でパワースイッチに電子キーをふれた<br>**→ ブザーが鳴ってから 10 秒以内にパワースイッチを押す** |
| 1 回 | なし | 始動時は<br>Pレンジに<br>入れてください | （点滅） | シフトポジションが N の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている<br>**→ シフトポジションを P にしてからハイブリッドシステムを始動する** |
| 1 回 | なし | キーの電池残量が<br>少なくなっています<br>電池を<br>交換してください | | 電子キーの電池残量が少ない<br>**→ 新しい電池と交換する（→ P. 336）** |

知識

■ **警告メッセージについて**

→ P. 384

■ **警告ブザーについて**

→ P. 371

# パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

**警告**

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

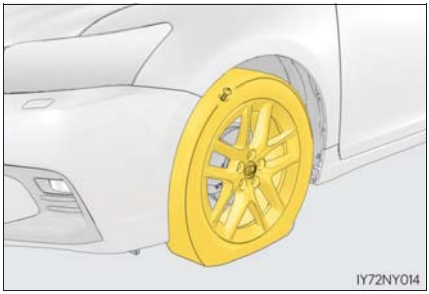
## 応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 357）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。




知識

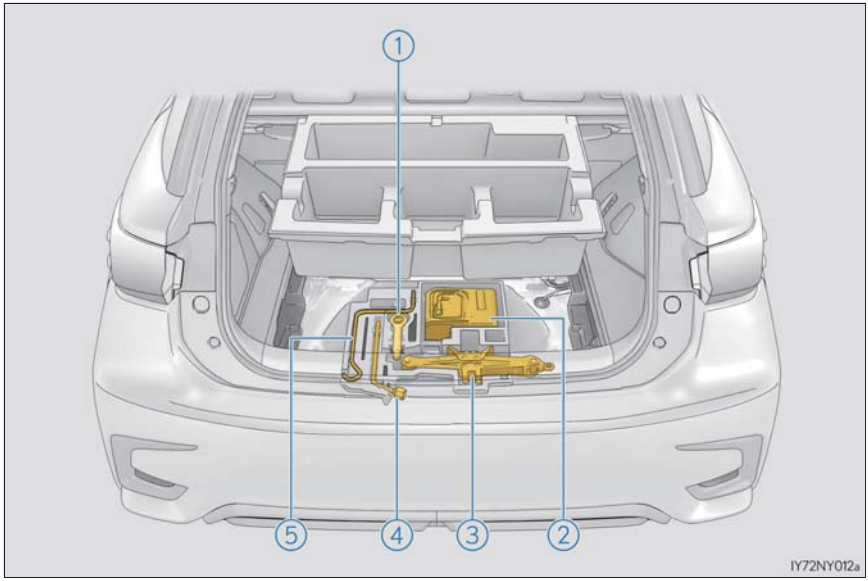
### ■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

## タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

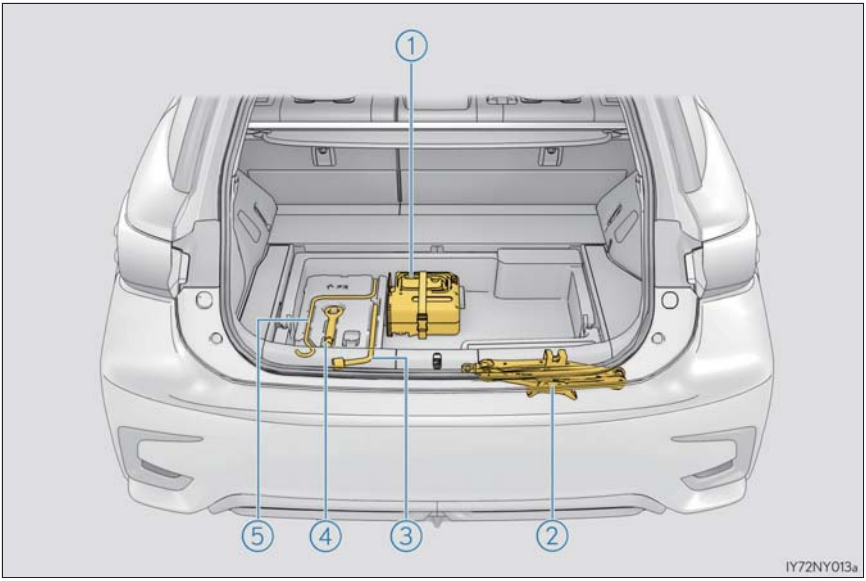
▶ アクセサリーコンセント非装着車




① けん引フック
② タイヤパンク応急修理キット
③ ジャッキ ※
④ ホイールナットレンチ
⑤ ジャッキハンドル

※ ジャッキの使い方（→ P. 411）

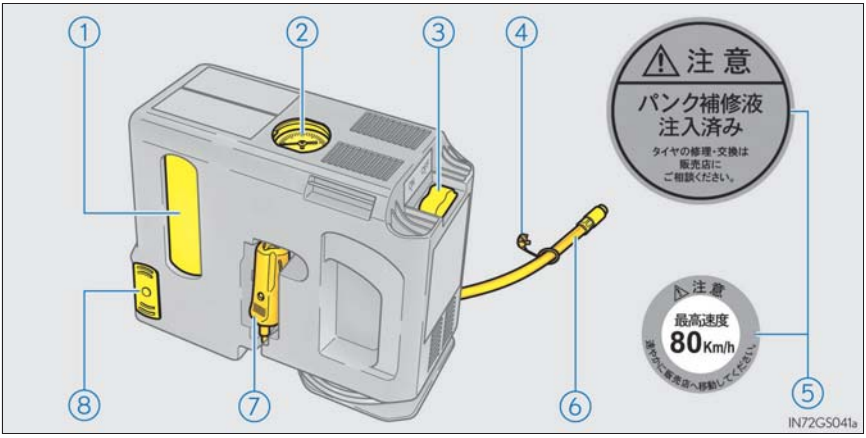
▶ アクセサリーコンセント装着車




① タイヤパンク応急修理キット
② ジャッキ ※
③ ホイールナットレンチ
④ けん引フック
⑤ ジャッキハンドル

※ ジャッキの使い方（→ P. 411）

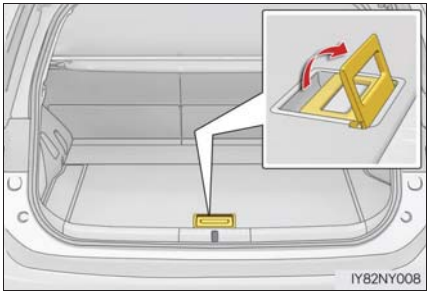
## タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



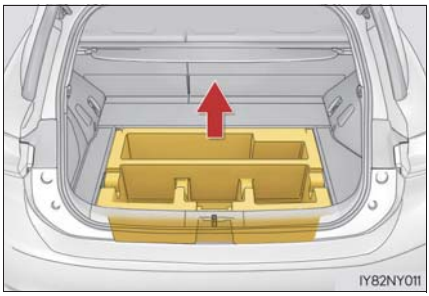

① パンク補修液
② 空気圧計
③ 電源スイッチ
④ 空気逃がしキャップ
⑤ ラベル
⑥ ホース
⑦ 電源プラグ
⑧ 差し込みパーツ

## 応急修理キットの取り出し方

**1** デッキボードを取りはずす

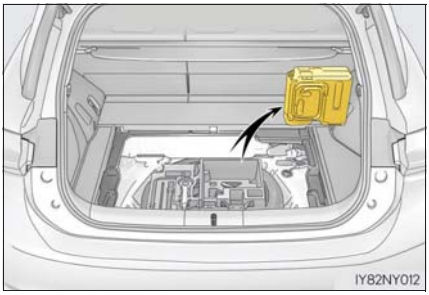



**2** アクセサリーコンセント非装着車：デッキアンダーボックスを取りはずす

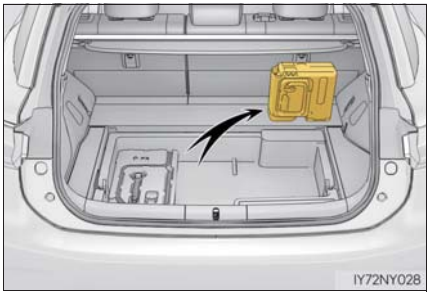


3 応急修理キットを取り出す

▶ アクセサリーコンセント非装着車




▶ アクセサリーコンセント装着車




## ジャッキの取り出し方

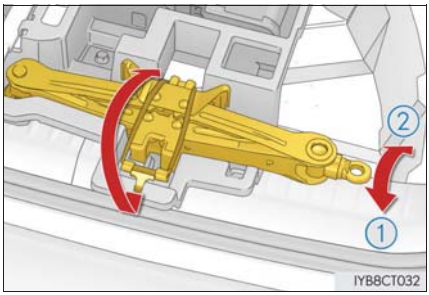
1 デッキボードとデッキアンダーボックスを取りはずす（→ P. 397）

2 アクセサリーコンセント非装着車：フックをはずし、ジャッキをゆるめる

① ゆるむ

② 締まる

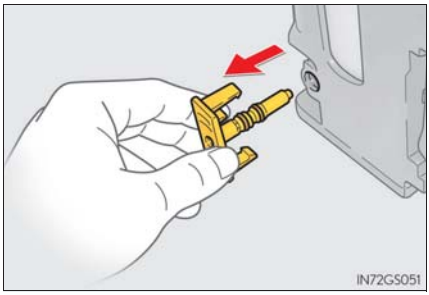
ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。




3 ジャッキを取り出す

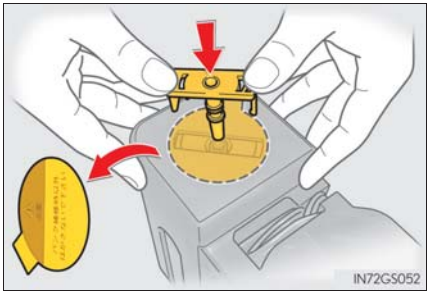
## 応急修理するとき

**1** 応急修理キットから差し込みパーツを引き抜く



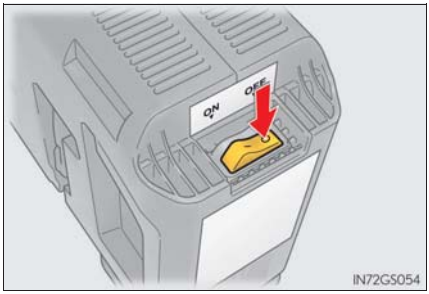

**2** 応急修理キット底面を上に向けて置く

シールをはがし、差し込みパーツを“パチッ”と音がするまで差し込みます。

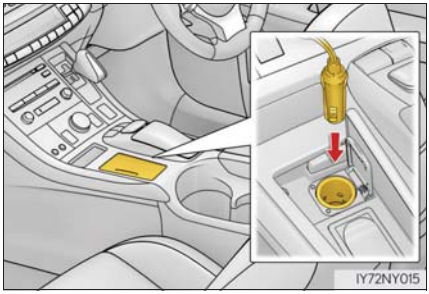



**3** 応急修理キットの向きをもとにもどし、スイッチがOFFであることを確認する

応急修理キットは、スイッチがある面を上にしてご使用ください。

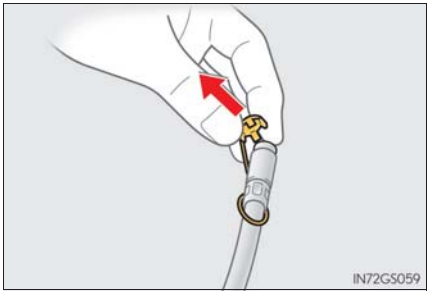



**4** 応急修理キットの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 302）



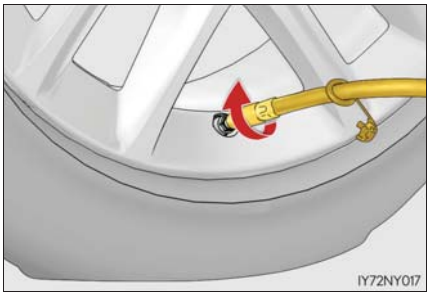
**5** パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

**6** ホースから空気逃がしキャップを取りはずす



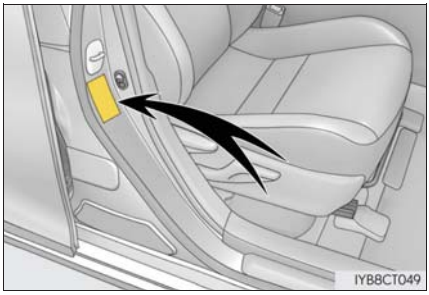

**7** ホースをバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



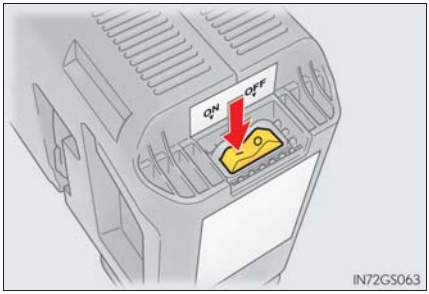

**8** タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 331）




**9** ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 164）

**10** 応急修理キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



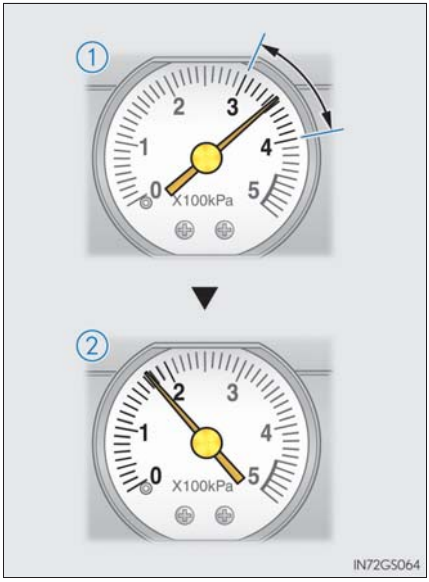

**11** 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① 一時的に空気圧計が300～450kPaまで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから 1 分程度で実際の空気圧表示になります。

・応急修理キットのスイッチをOFFにして空気圧を確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

・空気圧計の針が赤いゾーン（450kPa 以上）に達した場合、タイヤまたは応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。



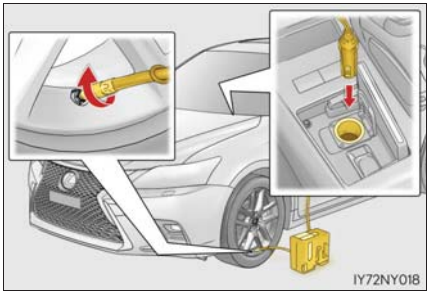

・10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。応急修理キットのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。

・空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 404）

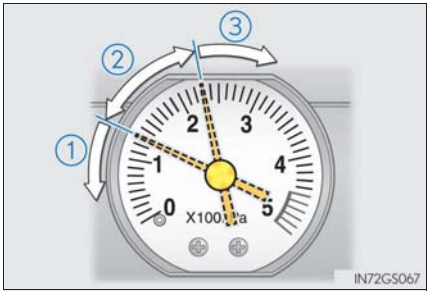
**12** アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

**13** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに 5km 程度走行する

**14** 走行後、平坦な安全な場所に停車し、再度応急修理キットを接続する




**15** 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する




① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

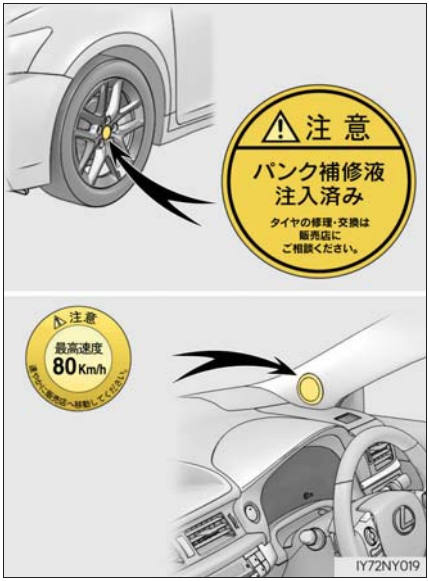
② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **16** へ

③ 空気圧が指定空気圧の場合：手順 **17** へ

**16** 応急修理キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **14** から実施する

**17** 応急修理キットを収納し、付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で最寄りのレクサス販売店まで慎重に走行してください。



知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。

●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

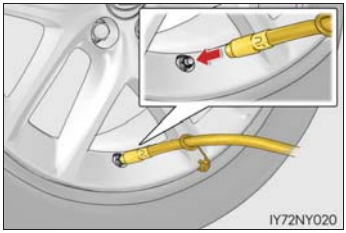
●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く




3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

**警告**

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

# パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 330 を参照してください）

**警告**

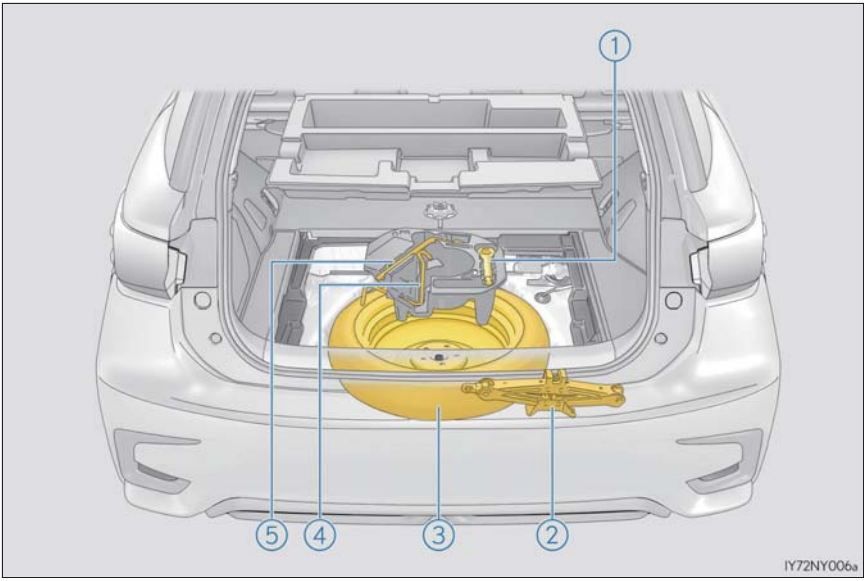
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 357）

## 工具とジャッキ位置




① けん引フック
② ジャッキ
③ 応急用タイヤ
④ ジャッキハンドル
⑤ ホイールナットレンチ

**警告**

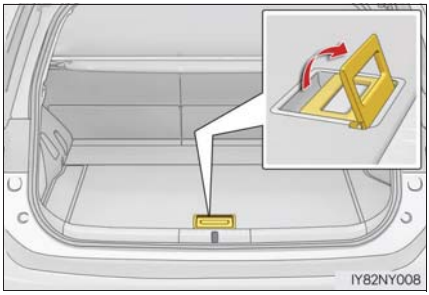
■ **ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

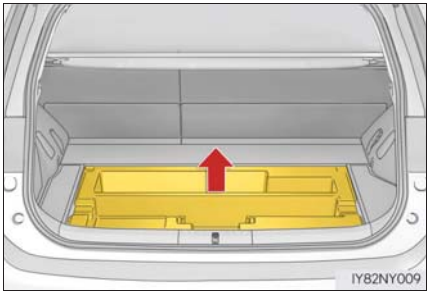
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

## ジャッキの取り出し方

**1** デッキボードを取りはずす



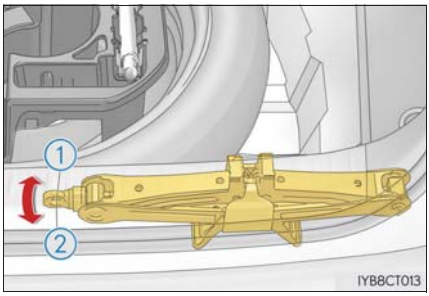
2 デッキアンダーボックスを取りはずす




3 ジャッキを取りはずす

① ゆるむ

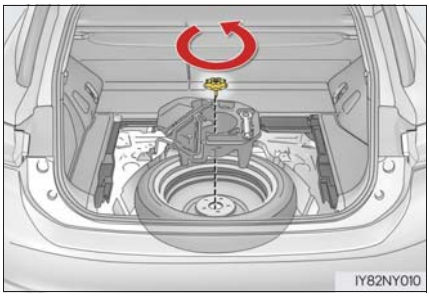
② 締まる




## 応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードとデッキアンダーボックスを取りはずす（→ P. 409）

2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



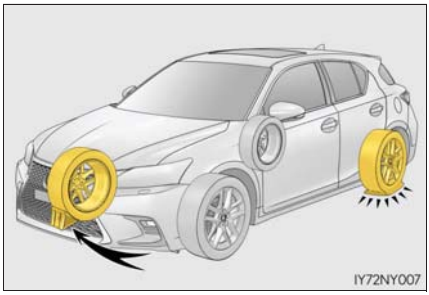

**警告**

■**応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

## パンクしたタイヤの交換

**1** 輪止め※をする

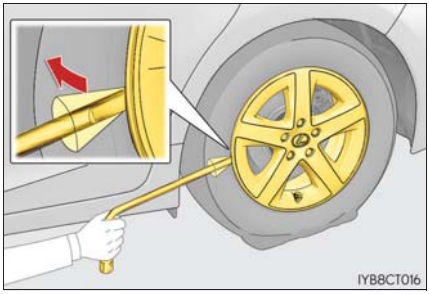



| パンクしたタイヤ | | 輪止めの位置 |
|---|---|---|
| 前輪 | 左側 | 右側後輪うしろ |
| | 右側 | 左側後輪うしろ |
| 後輪 | 左側 | 右側前輪前 |
| | 右側 | 左側前輪前 |

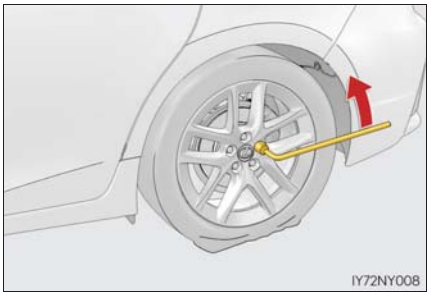
※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

**2** ホイールキャップ装着車（15 インチホイール）は、ホイールキャップを取りはずす

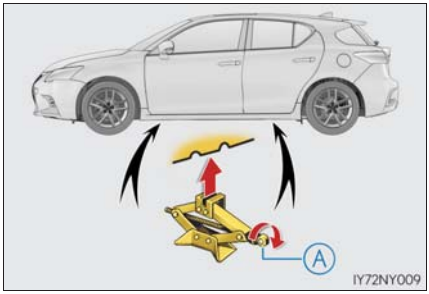
傷付防止のため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いてください。



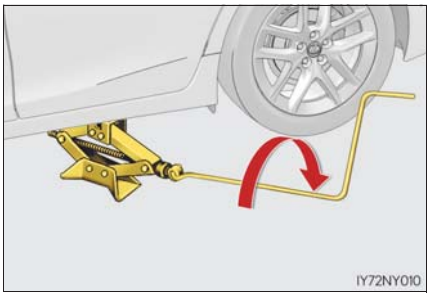

**3** ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



**4** ジャッキのⒶ部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

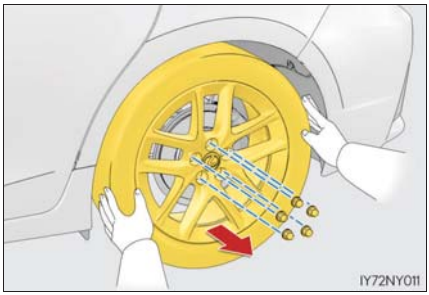



**5** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる




**6** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



**警告**

■タイヤ交換について

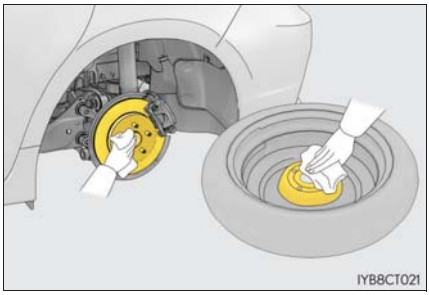
●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

## 応急用タイヤの取り付け

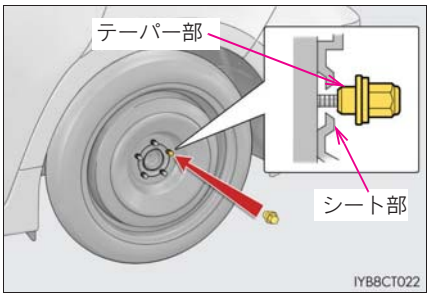
**1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

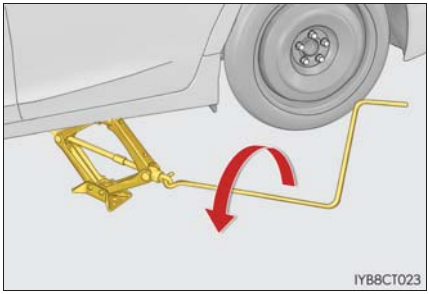



**2** 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

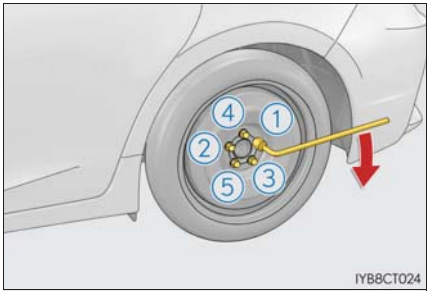


3 車体を下げる




4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

**締め付けトルク：**
103N・m（1050kgf・cm）




5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ **応急用タイヤについて**

- タイヤの側面にTEMPORARY USE ONLYと書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 437）

■ **応急用タイヤを装着しているとき**

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ **雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき**

1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

**警告**

■**応急用タイヤを使用するとき**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・レーダークルーズコントロール
・プリクラッシュセーフティ
・LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）
・EPS
・バックガイドモニター
・クリアランスソナー★
・ナビゲーションシステム

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

# ハイブリッドシステムが始動できないときは

**ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。**

## 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 164）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 419）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。（→ P. 69）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※（→ P. 73）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→ P. 167, 379）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 418）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

## 室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 421）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 323）

## 室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 421）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 323）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

## 緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. パワースイッチをアクセサリーモードにする
3. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

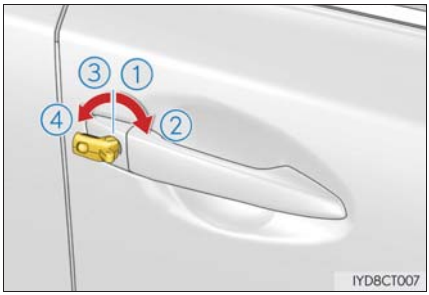
上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

# 電子キーが正常に働かないときは

**電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 124）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。**

## ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー（→ P. 109）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）




① 全ドア施錠

② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※

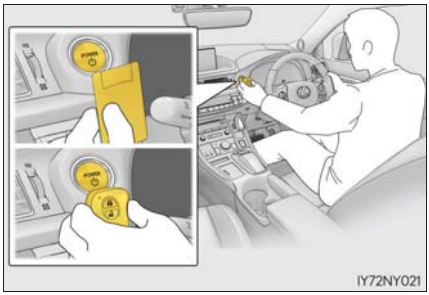
※ レクサス販売店での設定が必要です。

## ハイブリッドシステム始動の方法

**1** ブレーキペダルを踏む

**2** 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムがパワースイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。




**3** ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、パワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 336）

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 165）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

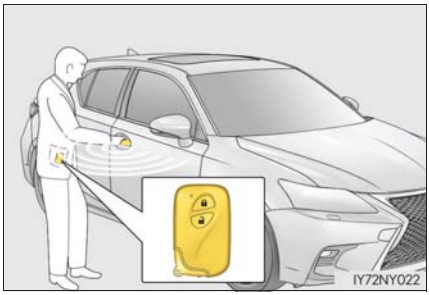
# 補機バッテリーがあがったときは

**補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。**

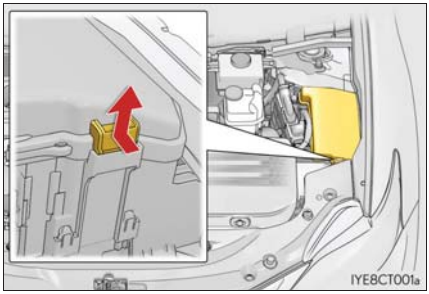
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

**1** 電子キーを携帯していることを確認する

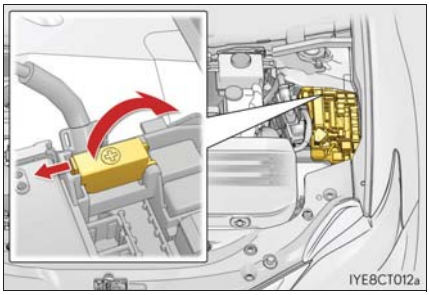
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→ P. 76)



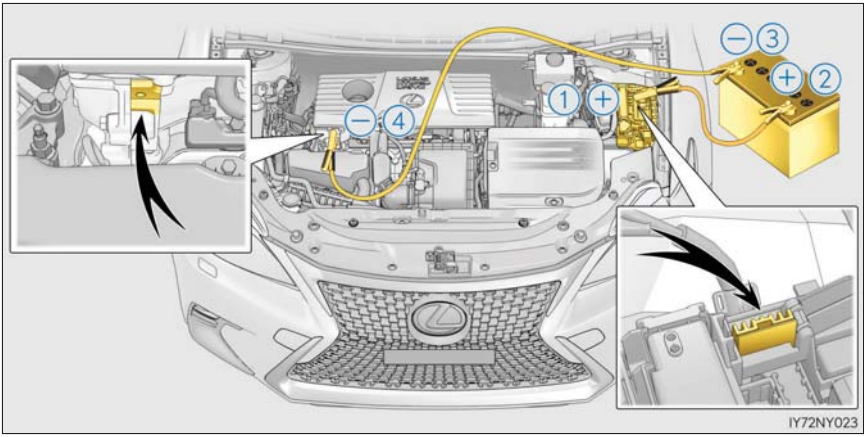

**2** ボンネットを開けて（→ P. 322）、ヒューズボックスのカバーをはずす




**3** ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



**4** ブースターケーブルを次の順につなぐ




① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

**5** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

**6** パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

**7** 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

**8** READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

**9** ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

**10** 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■データの保存について

パワースイッチを OFF にしてすぐに補機バッテリーのターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●シフトポジションが P の状態で補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させてから、すべてのシフトポジションへ切りかわることを、シフトポジション表示灯で確認してください。

■補機バッテリーについて

→ P. 323

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

**警告**

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

**警告**

■ **補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

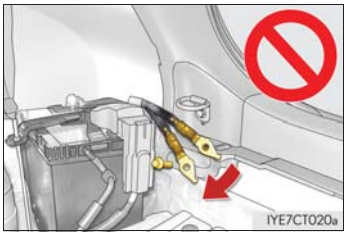
早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ **補機バッテリーの交換について**

→ P. 324

■ **補機バッテリーのマイナス端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。




**注意**

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ **救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

# オーバーヒートしたときは

**次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。**

- 高水温警告灯（→ P. 369）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイにオーバーヒートに関する警告メッセージが表示される（→ P. 383）
- エンジンルームから蒸気が出る

## 対処方法

### ■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

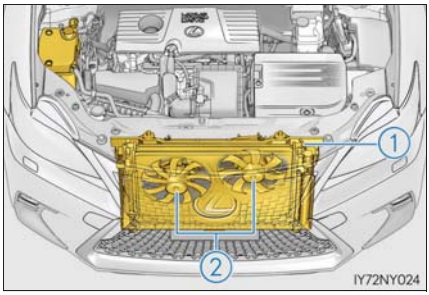
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

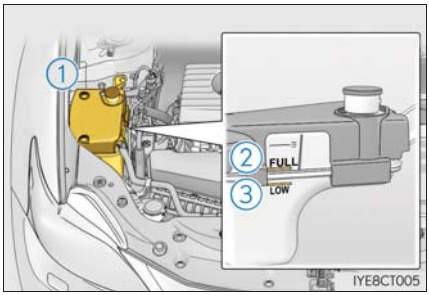


**4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

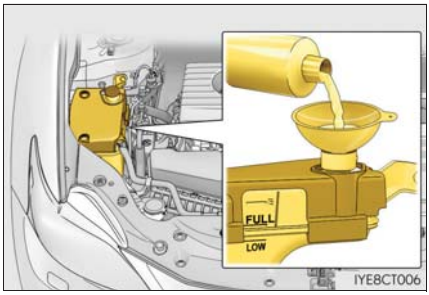
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）




**5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。




**6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

**7** ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■ オーバーヒートに関する警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき（→ P. 383）

1 安全な場所に停車する

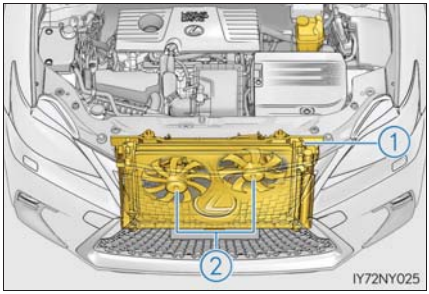
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

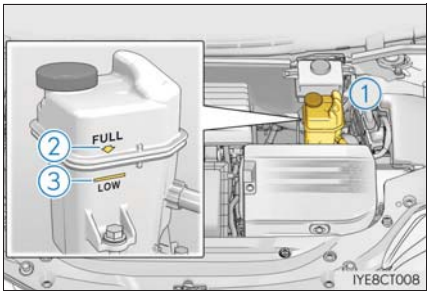



4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

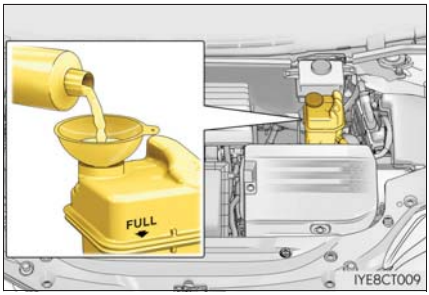
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）




5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

**警告**

**■エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●ハイブリッドシステムの停止後は、パワースイッチ上のインジケーターと READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

**注意**

**■冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

**■冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

# スタックしたときは

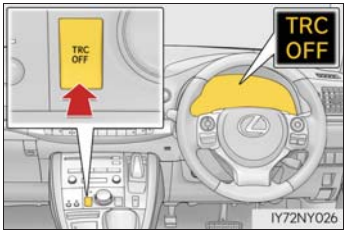
**ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。**

1. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する
2. タイヤ前後の土や雪を取り除く
3. タイヤの下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■ **脱出しにくいとき**

を押して TRC を OFF にしてください。




**警告**

■ **脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ **シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

# 車両情報 8


## 8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量など）....434

## 8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 .....439

## 8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....447

# メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

**使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。**

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

## 燃料

| 指定燃料 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| 無鉛レギュラーガソリン | 45 |

## エンジンオイル

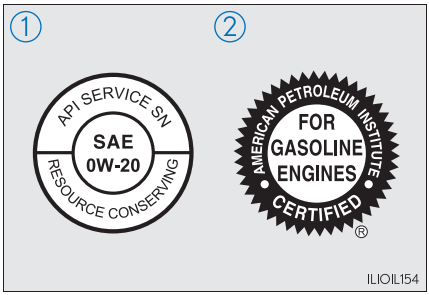
| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値※） | |
|---|---|---|
| | オイルのみ交換 | オイルとオイルフィルター交換 |
| 推奨：<br>弊社純正モーターオイル SN PLUS 0W-20<br>（API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20）<br>適合：<br>弊社純正モーターオイル SN 5W-30<br>（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） | 3.9 | 4.2 |

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

## ■ 指定エンジンオイル

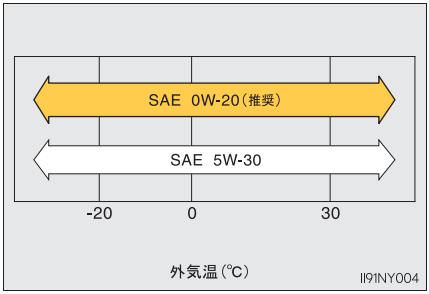
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク




## ■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



## ラジエーター

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） | |
|---|---|---|
| | ガソリンエンジン | パワーコントロールユニット |
| 弊社純正スーパーロングライフクーラント<br>凍結保証温度<br>濃度 30%　−12 ℃<br>濃度 50%　−35 ℃ | 6.9 | 2.1 |

## トランスミッション

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| 弊社純正オートフルード　WS※ | 3.4 |

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

**■ トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

## ブレーキ

### ■ ブレーキフルード

| 指定銘柄 |
|---|
| 弊社純正ブレーキフルード 2500H-A |

### ■ ブレーキペダル

| 項目 | | 基準値 [mm] |
|---|---|---|
| 遊び | | 1 ～ 6 |
| 踏み込んだときの床板とのすき間 ※ | アルミペダル非装着車 | 80 |
| | アルミペダル装着車 | 82 |

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、196N（20kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

### ■ パーキングブレーキ

| 項目 | 基準値（回数） |
|---|---|
| 踏みしろ<br>操作力 300N（31kgf）のときのノッチ※数 | 8 ～ 11 |

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

## ウォッシャータンク

| 容量 [L]（参考値） |
|---|
| 4.8 |

## タイヤ・ホイール

| タイヤサイズ | | ホイールサイズ | タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm$^2$） | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 前輪 | 後輪 |
| 標準タイヤ | 195/65R15 91S | 15×5 1/2J | 270（2.7） | 270（2.7） |
| | 205/55R16 91V | 16×6J | 220（2.2） | 220（2.2） |
| | 215/45R17 87W | 17×7J | 230（2.3） | 220（2.2） |
| 応急用タイヤ★ | T125/70D17 98M | 17×4T | 420（4.2） | |



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 電球（バルブ）※

| | 電球 | W（ワット）数 |
|---|---|---|
| 車外 | ハロゲンヘッドランプ★<br>ハイビーム（バルブタイプ：H9）<br>ロービーム（バルブタイプ：H11） | <br>65<br>55 |
| | フロント方向指示灯／非常点滅灯 | 21 |
| | ドアミラー照明 | 5 |
| 車内 | バニティランプ | 8 |
| | フロントインテリアランプ／パーソナルランプ | 5 |
| | リヤインテリアランプ | 8 |
| | ラゲージルームランプ | 5 |

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

## 車両仕様

| 名称 | 型式 | エンジン | 電動機型式 | 駆動方式 |
|---|---|---|---|---|
| CT200h | ZWA10 | 2ZR-FXE<br>（1.8L ガソリン） | 3JM | FF（前輪駆動） |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

# ユーザーカスタマイズ機能一覧

**お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。**

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

## 設定変更のしかた

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

### ■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」／「運転支援」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、スイッチを押す

2 ∧または∨を押して変更する項目を選択し、スイッチを押す

3 ∧または∨を押して設定したい項目を選択し、スイッチを押す

設定を終了する場合は、スイッチを押します。

## 車両カスタマイズ設定一覧

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

③ レクサス販売店で設定変更可能

■ ドアロック（→ P. 113, 118, 419）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキーによる解錠 | 1 回で全ドア解錠 | 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 | — | — | ○ |
| 車速感応式自動ドアロック | あり | なし | ○ | — | ○ |
| シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠 | なし | あり | ○ | — | ○ |
| シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠 | あり | なし | ○ | — | ○ |
| 運転席を開けたときの全ドア自動解錠 | なし | あり | ○ | — | ○ |

## ■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 108, 113, 123）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| 作動の合図（非常点滅灯） | あり | なし | ○ | ― | ○ |
| 半ドア警告ブザー | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 作動の合図音量（ブザー音量調整） | レベル 7 | OFF ～ レベル 6 | ○ | ― | ○ |
| 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 | 30 秒 | 60 秒 | ― | ― | ○ |
| | | 120 秒 | | | |

## ■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 113, 123）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| 解錠ドアの選択 | 全席 | 運転席 | ○ | ― | ○ |
| スマートエントリー＆スタートシステム | あり | なし | ○ | ― | ○ |
| 連続してできる施錠操作の回数 | 2 回 | 無制限 | ― | ― | ○ |

## ■ ワイヤレスドアロック（→ P. 108, 113）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| ワイヤレス機能 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 解錠時の操作 | 1 回で全ドア解錠 | 1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠 | ○ | ― | ○ |

## ■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 178）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| ライトセンサーの感度調整 | -2 | -2 ～ 2 | ○ | ― | ○ |
| LED デイライトの作動★ | あり | なし | ― | ― | ○ |
| ランプを点灯するまでの時間 | 標準 | 長め | ― | ― | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ イルミネーション（→ P. 291）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| 消灯までの時間 | 15 秒 | OFF | ○ | ― | ○ |
| | | 7.5 秒 | | | |
| | | 30 秒 | | | |
| パワースイッチ OFF 後の作動 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 解錠時の照明の点灯 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 接近時の照明の点灯 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| ドアミラー照明の点灯時間 | 15 秒 | OFF | ○ | ― | ○ |
| | | 7.5 秒 | | | |
| | | 30 秒 | | | |
| 足元照明の点灯 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 接近時のドアミラー照明の点灯 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 解錠時のドアミラー照明の点灯 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| カップホルダー照明の点灯 | あり | なし | ― | ― | ○ |
| 足元照明・カップホルダー照明の調光制御 | あり | なし | ― | ― | ○ |

## ■ メーター（→ P. 86, 92）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| 言語 | 日本語 | 英語 | ― | ○ | ○ |
| 単位 | km/L | L/100km | ― | ○ | ○ |
| EV インジケーターの点灯・消灯 | ON | OFF | ― | ○ | ○ |
| スイッチ設定 | ドライブインフォ 1 | お好みの項目 ※1 | ― | ○ | ○ |
| ドライブインフォ 1 | 瞬間燃費（バー表示） | ※2 | ― | ○ | ○ |
| | 平均燃費（リセット間） | | | | |
| ドライブインフォ 2 | 航続可能距離 | ※2 | ― | ○ | ○ |
| | 平均車速（リセット間） | | | | |

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| ドライブインフォ 3 | 平均燃費（給油後）<br>走行時間（始動後） | ※2 | ― | ○ | ○ |
| 割込み表示 | する | しない | ― | ○ | ○ |
| アクセントカラー | 青 | 茶 | ○ | ○ | ○ |
| タコメーターの切りかえ | 有（自動切りかえ） | 常時タコメーター<br>常時ハイブリッドシステムインジケーター | ― | ○ | ○ |
| ECO ランプの点灯・消灯 | ECO ドライブサポート | 常時 ON<br>OFF | ― | ○ | ○ |
| SPORT ランプの点灯・消灯 | AUTO | OFF | ― | ○ | ○ |
| ECO ランプ･SPORT ランプの明るさ（ランプ調光） | 標準 | 明るい | ― | ○ | ○ |
| 周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサー感度調節 | レベル 0 | レベル<br>－ 2 ～＋ 2 | ― | ― | ○ |
| 周囲の明るさにより、減光したメーターの照度をもとにもどすためのセンサー感度調節 | レベル 0 | レベル<br>－ 2 ～＋ 2 | ― | ― | ○ |

※1 登録できない項目もあります

※2 瞬間燃費・平均燃費（リセット間）・平均燃費（給油後）・平均燃費（始動後）・平均車速（リセット間）・平均車速（始動後）・距離（航続可能）・距離（始動後走行）・走行時間（リセット間）・走行時間（始動後）・ブランク（非表示）から 2 項目を選択

## ■ エアコン（→ P. 279）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる | する | しない | ○ | ― | ○ |
| AUTO スイッチを ON にしたとき、A／C（エアコン）スイッチが連動して ON になる | しない | する | ○ | ― | ○ |
| エコドライブモード時に暖房／冷房の作動を抑える | する | しない | ― | ― | ○ |

## ■ オートアラーム（→ P. 74）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除 | しない | する | ― | ― | ○ |

## ■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 206）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| プリクラッシュセーフティ機能 | あり | なし | ― | ○ | ― |
| 警報タイミングの調節 | （中間） | （遠い）<br> （近い） | ― | ○ | ― |

## ■ LDA（レーンディパーチャーアラート [ ステアリング制御機能付き ]）（→ P. 215）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| ステアリング制御機能（操舵支援） | あり | なし | ― | ○ | ― |
| 警報ブザーが吹鳴する感度（警報感度） | 普通 | 高 | ― | ○ | ― |
| ふらつき検知機能 | あり | なし | ― | ○ | ― |
| ふらつき検知機能の感度調節 | 普通 | 低<br>高 | ― | ○ | ― |

## ■ PKSA（パーキングサポートアラート）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| ブザー音量 | レベル 2 | レベル 1 | ― | ○ | ― |
| | | レベル 3 | | | |

## ■ クリアランスソナー（→ P. 239）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| クリアランスソナー機能 | あり | なし | ― | ○ | ― |

## ■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 | あり | なし | ― | ○ | ― |

## ■ パワーウインドウ（→ P. 146）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| ドアキー連動開閉機能（閉） | なし | あり | ― | ― | ○ |
| ドアキー連動開閉機能（開） | なし | あり | ― | ― | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動開閉機能（閉） | なし | あり | ― | ― | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動開閉機能（開） | なし | あり | ― | ― | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー） | あり | なし | ― | ― | ○ |

## ■ ドアミラー（→ P. 142）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | ① | ② | ③ |
|---|---|---|---|---|---|
| オート電動格納作動（オート電動格納式ミラー装着車） | ドアの施錠・解錠と連動 | なし | ― | ― | ○ |
| | | パワースイッチと連動 | | | |

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
・シフトポジションを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

■セッティング画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのセッティング画面は自動的に終了します。

●セッティング画面表示後に警告メッセージが表示された

●パワースイッチが OFF になった

●セッティング画面表示中に走行し始めた

警告

■カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

# 初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したときに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

## 初期設定が必要な項目

| 項目 | 初期設定が必要なとき | 参照先 |
|---|---|---|
| クリアランスソナー | ・バッテリーの充電・交換後の再接続時 | P. 239 |
| PKSB（パーキングサポートブレーキ） | ・バッテリーの充電・交換後の再接続時 | P. 248 |

# さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....450
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....453
アルファベット順さくいん .....455
五十音順さくいん.....456

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・GPS ボイスナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・G-Link

# こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

## 施錠／解錠／ドアの開閉ができない

### キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 110）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 112）

### 施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 336）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 165）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 124）

### リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
  （→ P. 115）

## 故障かな？と思ったら

### ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 164）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 123）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 419）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 421）

### パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 146）

### パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたは ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 166）

### 警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 453）をご確認ください。

### 警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 368、372 をご確認ください。

## トラブルが発生した

### タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 393）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 407）

### 立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 430）

# 車から音が鳴ったときは（音さくいん）

**次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。**

## 車に乗るとき／降りるとき

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 解錠したとき | 盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※ | P. 74 |
| ドアを開閉したとき | シフトポジションがP以外になっている | P. 374 |
| | ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ） | P. 150 |
| | 盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※ | P. 74 |
| ハイブリッドシステムを停止したとき | 電子キーの電池残量が少なくなっている | P. 336 |
| 施錠しようとしたとき（施錠できないとき） | いずれかのドアが確実に閉まっていない | P. 124 |
| | 電子キーを車内に置き忘れている | P. 391 |

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアを解錠する、またはパワースイッチをONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 走行しているとき

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 走り出したとき | いずれかのドア・ボンネットが確実に閉まっていない | P. 374 |
| | パーキングブレーキが解除されていない | P. 368, 377 |
| | 運転席・助手席のシートベルトを着用していない ※ | P. 370 |
| シフトダウンしたとき | シフトダウン制限をこえて操作した | P. 174 |
| ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音） | ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある | P. 159 |
| 先行車に接近したとき | レーダークルーズコントロールを使用している | P. 232 |
| 前方の障害物と衝突しそうになったとき | PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した | P. 206 |
| 車線から逸脱する可能性があるとき | LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の車線逸脱警報機能が作動した | P. 216 |
| ふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになったとき | LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）のふらつき報機能が作動した | P. 217 |

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

# アルファベット順さくいん

**A／C**
（エアコン）. . . . . 279
**ABS**
（アンチロックブレーキシステム）. . . . . 263, 369
**EDR**
（イベントデータレコーダー）. . . . . 8
**EPS**
（エレクトリックパワーステアリング）. . . . . 263, 369
**FF**
（フロントエンジンフロントドライブ）. . . . . 438
**ILSAC CERTIFICATION**
（イルサックサーティフィケーション）. . . . . 435
**ISOFIX**
（アイソフィックス／イソフィックス）. . . . . 43
**LDA**
（レーンディパーチャーアラート）. . . . . 215
**PCS**
（プリクラッシュセーフティ）. . . . . 206, 369, 373
**PKSA**
（パーキングサポートアラート）. . . . . 238
**PKSB**
（パーキングサポートブレーキ）. . . . . 248
**S-VSC**
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティ
コントロール）. . . . . 263, 369
**SRS**
（サプリメンタルレストレイントシステム）. . . . . 33, 368
**TRC**
（トラクションコントロール）. . . . . .263, 369
**VSC**
（ビークルスタビリティコントロール）. . . . . .263, 369

# 五十音順さくいん

## あ


アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 421
アウターミラー（ドアミラー）..... 142
操作 ..... 142
格納のしかた ..... 143
ミラーヒーター ..... 283
リバース連動機能..... 143
アクセサリーコンセント ..... 303
アクセサリーソケット ..... 302
アクセサリーモード ..... 165
足元照明..... 291
アラーム..... 74
オートアラーム ..... 74
音さくいん ..... 453
警告ブザー ..... 368, 372
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 263
アンテナ
スマートエントリー＆
スタートシステム ..... 123


## い


EV ドライブモード ..... 169
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）..... 164
自動電源 OFF 機能 ..... 166
車両を緊急停止するには..... 360
ハイブリッドシステム
始動のしかた ..... 164
モードの切りかえ..... 165
位置交換
（タイヤローテーション）..... 330
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム ..... 73
イルミネーテッドエントリー
システム ..... 292
インストルメントパネル照度調整
スイッチ ..... 88
インジケーター（表示灯）..... 84
ハイブリッドシステム
インジケーター ..... 89
表示灯 ..... 84
READY ..... 164
インテリアランプ ..... 291
インナーミラー ..... 140

## う


ウインカー（方向指示灯）..... 176
電球（バルブ）の交換..... 342
方向指示レバー ..... 176
ワット数 ..... 438
ウインドウ..... 146
ウォッシャー ..... 190, 194
パワーウインドウ..... 146
フロントワイパーデアイサー ... 284
リヤウインドウデフォッガー ... 283
ウインドウロックスイッチ ..... 146
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 83, 368
ウォッシャー..... 190, 194
液の補充 ..... 329
スイッチ ..... 190, 194
タンク容量 ..... 437
冬の前の準備・点検..... 270
動けなくなったときは
（スタック）..... 430
雨滴感知式ワイパー ..... 191
運転 ..... 154
雨の日の運転 ..... 155
運転を補助する装置..... 263
寒冷時の運転 ..... 270
正しい運転姿勢 ..... 26
手順 ..... 154
ハイブリッド車運転の
アドバイス ..... 268
運転席シートベルト
非着用警告灯..... 370
運転席シートポジション
メモリー ..... 132


## え


エアコン..... 279
オートエアコン..... 279
曇り取り（フロントガラス）..... 283
フィルターの交換..... 327
プラズマクラスター..... 286
エアコン・デフォッガー ..... 283
エアバッグ..... 33
SRS エアバッグ警告灯 ..... 368
お子さまのための注意 ..... 34
改造・廃棄 ..... 36
作動条件 ..... 37, 38
正しい姿勢 ..... 26
配置 ..... 33
ECO ランプ..... 87
エネルギーモニター ..... 96
LED デイライト ..... 181
LDA（レーンディパーチャー
アラート [ ステアリング制御
機能付き ]）..... 215
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 263
機能 ..... 263
パワーステアリング警告灯 ..... 369
エンジン
イモビライザーシステム ..... 73
エンジン警告灯..... 368
エンジンスイッチ..... 164
エンジンルームカバー ..... 326
オーバーヒート..... 426
ハイブリッドシステムが
始動できない ..... 417
ハイブリッドシステムの
始動方法 ..... 164
パワースイッチ
（イグニッションスイッチ）.... 164
ボンネット ..... 322

エンジンオイル..... 434
冬の前の準備・点検..... 270
メンテナンスデータ..... 434
油圧警告灯 ..... 368
容量 ..... 434
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 164
自動電源 OFF 機能 ..... 166
車両を緊急停止するには..... 360
ハイブリッドシステム始動の
しかた ..... 164
モードの切りかえ..... 165
エンジンフード（ボンネット）..... 322
開け方 ..... 322
警告メッセージ ..... 375
エンジンルーム..... 326
エンジンルームカバー..... 326
エンジンルームから
蒸気が出ている ..... 426

## お

オートアラーム..... 74
オートエアコン..... 279
オートドアロック・
アンロック機能..... 116
オートマチックハイビーム ..... 183
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 181
警告灯 ..... 369
作動について ..... 181
オープナー
給油扉 ..... 198
バックドア ..... 118
ボンネット ..... 322
オイル（エンジンオイル）..... 434
応急用タイヤ..... 407
空気圧 ..... 437
交換方法 ..... 407
お子さまを乗せるとき ..... 42
ウインドウロックスイッチ ..... 146
エアバッグ ..... 34
お子さまの安全のために ..... 42
キーの電池 ..... 337
子供専用シート..... 43
シートベルトの着用..... 30
ステアリングヒーター／
シートヒーターに関する
警告 ..... 289
チャイルドシートの取り付け ..... 43
チャイルドプロテクター ..... 115
発炎筒の取り扱いに関する
警告 ..... 359
バックドアに関する警告 ..... 120
バッテリーに関する警告 ..... 424
パワーウインドウに関する
警告 ..... 148
オドメーター..... 87
機能 ..... 87
表示の切りかえ・リセット
ボタン ..... 88

## か


カーテンシールドエアバッグ ..... 33
カードキー..... 108
カーペット..... 319
洗浄 ..... 319
フロアマットの取り付け方 ..... 24
外気温度表示..... 87
回生ブレーキ..... 65
外装の電球（バルブ）..... 342
交換要領 ..... 342
ワット数 ..... 438
ガス欠になったとき ..... 69
カスタマイズ機能..... 439
ガソリンスタンドでの情報 ..... 476
型式 ..... 438
カップホルダー..... 295
ガラスの曇り取り（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 283
ガレージジャッキ..... 325
冠水路走行..... 162
寒冷時の運転..... 270


## き


キー ..... 108
カードキー ..... 108
キーナンバープレート ..... 108
キーの構成 ..... 108
キーレスエントリー..... 108, 123
キーをなくした..... 110, 112
正常に働かない..... 419
施錠・解錠ができない..... 419
電子キー ..... 108
電池が切れた ..... 336, 419
ハイブリッドシステムが
始動できない ..... 417
メカニカルキー..... 109
ワイヤレスリモコン..... 108
キーレスエントリー ..... 113
スマートエントリー＆スタート
システム ..... 123
ワイヤレスドアロック ..... 108
きしみやひっかき音が聞こえる
（ブレーキパッドウェア
インジケーター）..... 159
給油 ..... 197
給油扉が開けられない ..... 199
給油のしかた ..... 197
メンテナンスデータ..... 434
給油後平均燃費 ..... 94
緊急時シートベルト固定機構..... 30
緊急始動機能
（ハイブリッドシステム）..... 418

緊急時の対処
オーバーヒートした..... 426
キーの電池が切れた..... 336, 419
キーをなくした ..... 110, 112
警告灯がついた ..... 368
警告メッセージが表示された ... 372
けん引 ..... 362
故障したときは ..... 356
車両を緊急停止する..... 360
水没したときは ..... 361
スタックした ..... 430
電子キーが正常に働かない..... 419
ハイブリッドシステムが
始動できない ..... 417
発炎筒 ..... 358
パンクした ..... 407, 393
補機バッテリーがあがった..... 421
緊急停止システム ..... 68
緊急ブレーキシグナル ..... 263

## く

空気圧（タイヤ）..... 437
クーラー..... 279
区間距離計（トリップメーター）..... 87
機能 ..... 87
切りかえ・リセットボタン..... 88
駆動用電池..... 67
充電について ..... 65
搭載位置 ..... 67
冷却用吸入口 ..... 68
曇り取り
フロントガラス..... 283
ミラーヒーター..... 283
リヤウインドウデフォッガー ... 283
クラクション（ホーン）..... 138
クリアランスソナー ..... 239
警告メッセージ..... 375
操作 ..... 240
クリアランスランプ（車幅灯）..... 178
スイッチ ..... 178
電球（バルブ）の交換..... 352
クリップ
エンジンルームカバー ..... 326
フロアマット ..... 24
クルーズコントロール
警告メッセージ..... 381
レーダークルーズ
コントロール ..... 225
グローブボックス ..... 294

## け

警音器（ホーン）..... 138
計器類（メーター）..... 86
照度調整 ..... 88
マルチインフォメーション
ディスプレイ ..... 92
メーター ..... 86

警告灯 ..... 83
ABS ＆ブレーキアシスト ..... 369
SRS エアバッグ ..... 368
LDA ..... 369
エンジン ..... 368
クリアランスソナー OFF
表示灯 ..... 240
シートベルト非着用 ..... 370
充電 ..... 373
水温 ..... 369
スリップ表示灯 ..... 369
燃料残量 ..... 370
パワーステアリング ..... 369
半ドア ..... 370
PKSB OFF 表示灯 ..... 249
PCS ..... 369
ブレーキ ..... 368
ヘッドランプレベリング ..... 369
油圧 ..... 368
マスターウォーニング ..... 370
警告ブザー
シートベルト非着用 ..... 370
シフトダウン制限 ..... 174
接近警報（レーダークルーズ
コントロール） ..... 232
パーキングブレーキ
未解除走行時 ..... 368
半ドア ..... 114, 124, 370
PKSB（パーキングサポート
ブレーキ） ..... 249
ブレーキ ..... 368
ムーンルーフ開 ..... 150
リバース ..... 174
警告メッセージ ..... 372
化粧ミラー（バニティミラー） ..... 301
けん引 ..... 362
けん引のしかた ..... 362
フック ..... 366

## こ

交換
キーの電池 ..... 336
タイヤ ..... 407
電球（バルブ） ..... 342
ヒューズ ..... 339
工具（ツール） ..... 395, 408
航続可能距離 ..... 94
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 ..... 352
ワット数 ..... 438
高電圧部位 ..... 67
コーションラベル ..... 67
子供専用シート ..... 43
選択方法 ..... 43
小物入れ ..... 296
コンソールボックス ..... 294
コンライト
（自動点灯・消灯装置） ..... 178

## さ

サービスプラグ ..... 67
サイドエアバッグ ..... 33
サイド方向指示灯 ..... 176
電球（バルブ）の交換 ..... 352
方向指示レバー ..... 176
サイドミラー（ドアミラー） ..... 142
操作 ..... 142
格納のしかた ..... 143
ミラーヒーター ..... 283
リバース連動機能 ..... 143
サンバイザー ..... 301

## し


シート ..... 128
正しい運転姿勢 ..... 26
チャイルドシート..... 43
調整 ..... 128
手入れ ..... 316
ドライビングポジション
メモリー ..... 132
ヘッドレスト ..... 136
メモリーコール機能..... 134
シートヒーター..... 289
シートベルト ..... 28
お子さまの着用 ..... 30
緊急時シートベルト固定機構 ..... 30
シートベルト非着用警告灯 ..... 370
高さ調節 ..... 28
正しく着用するには..... 28
着け方、はずし方..... 28
手入れ ..... 319
妊娠中の方の着用..... 31
シートベルト非着用警告灯 ..... 370
シートベルトプリテンショナー..... 29
機能 ..... 29
プリテンショナー警告灯 ..... 368
シートポジションメモリー ..... 132
事故が発生したとき（ハイブリッド
システムの注意）..... 70
室内灯（インテリアランプ）..... 291
始動のしかた ..... 164
シフトポジション ..... 172
シフトレバー ..... 171
シフトポジションの切りかえ ... 171
シフトレンジの切りかえ ..... 173
P ポジションスイッチ ..... 172
リバース警告ブザー..... 174
締め付けトルク（ホイール）..... 414
ジャッキ
ガレージジャッキ..... 325
車載ジャッキ ..... 395, 408
ジャッキハンドル ..... 395, 408
車幅灯..... 178
電球（バルブ）の交換 ..... 352
ランプスイッチ..... 178
車両型式..... 438
車両仕様（スペック）..... 434
車両接近通報装置 ..... 64
車両データの記録 ..... 7
車両を緊急停止するには ..... 360
収納装備..... 293
手動光軸調整ダイヤル ..... 180
瞬間燃費..... 94
仕様（車両仕様）..... 438
衝撃感知ドアロック
解除システム..... 116
助手席シートベルト
非着用警告灯..... 370
侵入センサー（オートアラーム）..... 77

## す

スイッチ
EV ドライブモード ..... 169
イグニッション ..... 164
ウインドウロック..... 146
ウォッシャー ..... 190, 194
LDA ..... 219
エンジンスイッチ..... 164
オートマチックハイビーム
スイッチ ..... 184
クリアランスソナー..... 239
クルーズコントロール..... 225
シート調整 ..... 128
シートヒーター ..... 290
シートポジションメモリー ..... 132
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 230
侵入センサー OFF..... 77
ステアリングヒーター..... 290
TRC OFF ..... 264
電話 ※
ドアミラー ..... 142
ドアロック ..... 114
トークスイッチ ※
ドライビングポジション
メモリー ..... 132
ドライブモードセレクト ..... 262
ハザードランプ ..... 357
パドルシフト ..... 173
パワーウインドウ..... 146
パワースイッチ..... 164
PKSB ..... 248
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 357
フォグランプ ..... 187
ヘッドランプクリーナー ..... 196
方向指示レバー..... 176
ホーン（警音器）..... 138
ムーンルーフ ..... 149
メーター操作スイッチ ..... 93
メーター表示切りかえ ..... 88
ランプ ..... 178
リヤウインドウデフォッガー ... 283
レーダークルーズ
コントロール ..... 225
ワイパー ..... 190, 194
スタック..... 430
ステアリングヒーター ..... 289
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 138
位置調整 ..... 138
ステアリングヒーター ..... 289
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル ..... 263
電球（バルブ）の交換 ..... 352
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 270
スピードメーター ..... 87
スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 407
空気圧 ..... 437
交換方法 ..... 407

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

スペック（車両仕様）..... 434
SPORT ランプ..... 87
スマートエントリー＆スタート
システム ..... 123
アンテナの位置 ..... 123
カスタマイズ設定..... 439
緊急始動機能 ..... 418
警告ブザー ..... 124
警告メッセージ ..... 389
作動範囲 ..... 123
節電機能 ..... 124
電波がおよぼす影響について ... 127
ドアの解錠・施錠..... 113, 118
ハイブリッドシステムの始動 ... 164
スモールランプ（車幅灯）..... 178
電球（バルブ）の交換..... 352
ランプスイッチ ..... 178

## せ

清掃 ..... 312, 316
アルミホイール ..... 313
外装 ..... 312
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルター ..... 317
シートベルト ..... 319
内装 ..... 316
レーダー ..... 203
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 263
電球（バルブ）の交換..... 352
積算距離計（オドメーター）..... 87
機能 ..... 87
表示の切りかえ・
リセットボタン ..... 88
セキュリティインジケーター.... 73, 74
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 232
センサー
インナーミラー..... 141
雨滴感知センサー..... 192
LDA ..... 215
オートマチックハイビーム ..... 202
前方カメラ ..... 202
湿度センサー ..... 285
侵入センサー ..... 77
ライトセンサー..... 181
レーダー ..... 202
Lexus Safety System+..... 202
洗車 ..... 312
前照灯（ヘッドランプ）..... 178
手動光軸調整ダイヤル..... 180
電球（バルブ）の
交換..... 343, 345, 352
ライトセンサー..... 181
ランプ消し忘れ防止機能..... 181
ランプスイッチ..... 178
ワット数 ..... 438

## そ

走行モード（ドライブモード）..... 262
速度計（スピードメーター）..... 87

## た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 176
電球（バルブ）の
交換..... 346, 347, 352
方向指示レバー ..... 176
ワット数 ..... 438
タイヤ ..... 330
応急用タイヤ ..... 407
空気圧 ..... 334, 437
交換 ..... 407
締め付けトルク ..... 414
チェーン ..... 270
低偏平タイヤ ..... 331
点検 ..... 330
パンク応急修理キット..... 393
パンクしたときは..... 407, 393
冬用タイヤ ..... 270
ホイールサイズ ..... 437
ローテーション（位置交換）..... 330
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 430
タイヤチェーン..... 270
タコメーター（エンジン回転計）..... 87

## ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 270
チャイルドシート ..... 43
ISOFIX ロアアンカレッジでの
取り付け ..... 59
シートベルトでの固定..... 57
選択方法 ..... 43
チャイルドプロテクター ..... 115
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 177
警告メッセージ..... 377
操作 ..... 177
未解除走行時警告
ブザー ..... 368
メンテナンスデータ..... 436

## つ

ツール（工具）..... 395, 408

## て

低偏平タイヤ..... 331
手入れ..... 312, 316
アルミホイール..... 313
外装 ..... 312
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルター ..... 317
シートベルト ..... 319
内装 ..... 316
レーダー ..... 203
テールランプ（尾灯）..... 178
電球（バルブ）の交換..... 352
ランプスイッチ..... 178
デッキフック
（荷物固定用フック）..... 297
デフォッガー（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 283
電気モーター..... 63, 67
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 342
ワット数 ..... 438
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 434

電子キー..... 108
作動範囲 ..... 123
正常に働かないとき..... 419
節電機能 ..... 124
電池が切れた ..... 336, 419
電池交換（キー）..... 336
電話スイッチ ※

## と

ドア ..... 113
オートドアロック・
アンロック機能 ..... 116
警告メッセージ ..... 374
衝撃感知ドアロック
解除システム ..... 116
スマートエントリー＆
スタートシステム ..... 123
チャイルドプロテクター..... 115
ドアガラス ..... 146
ドアロックスイッチ..... 114
バックドア ..... 118
半ドア警告灯 ..... 370
ロックレバー ..... 115
ワイヤレスリモコン..... 108
ドアミラー..... 142
操作 ..... 142
格納のしかた ..... 143
ミラーヒーター ..... 283
リバース連動機能..... 143
ドアミラー照明..... 291
電球（バルブ）の交換..... 342
ワット数 ..... 438
盗難防止装置
イモビライザーシステム..... 73
オートアラーム ..... 74
トークスイッチ ※
時計 ※
トップテザーアンカレッジ ..... 61
トノカバー..... 299
ドライビング
ポジションメモリー ..... 132
ポジションメモリー..... 132
メモリーコール機能..... 134
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）..... 94
メーター操作スイッチ ..... 93
トラクションコントロール
（TRC）..... 263
トランスミッション ..... 171
シフトダウン制限警告ブザー ... 174
操作 ..... 171
パドルシフトスイッチ ..... 173
メンテナンスデータ..... 436
トリップメーター ..... 87
機能 ..... 87
切りかえ・リセットボタン ..... 88

## な

内装
収納装備 ..... 293
手入れ ..... 316
ナビゲーションシステム ※

## に

ニーエアバッグ ..... 33
荷物
積むときの注意..... 163
荷物固定用フック..... 297
荷室内装備 ..... 297

## ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）... 430

## ね

燃費
エネルギーモニター ..... 96
燃費情報（ドライブインフォメーション）..... 94
燃料 ..... 434
ガソリンスタンドでの情報 ..... 476
給油 ..... 197
種類 ..... 434
燃料残量警告灯 ..... 370
容量 ..... 434
燃料計 ..... 87

## は

パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 254
パーキングブレーキ ..... 177
警告メッセージ ..... 377
操作 ..... 177
ブレーキ警告灯 ..... 368
未解除走行時警告ブザー ..... 368
メンテナンスデータ ..... 436
パーソナルランプ ..... 292
Harmonious Driving Navi. 画面..... 96
排気ガス..... 41
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 178
電球（バルブ）の交換..... 345, 352
ランプスイッチ ..... 178
ワット数 ..... 438
ハイブリッドシステム ..... 63
EV ドライブモード ..... 169
運転のアドバイス..... 268
オーバーヒート..... 426
回生ブレーキ ..... 65
ガス欠になったとき ..... 69
緊急始動機能 ..... 418
緊急時の停止方法..... 360
緊急停止システム..... 68
駆動用電池冷却用吸入口 ..... 68
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの手入れ..... 317
高電圧部位 ..... 67
サービスプラグ..... 67
事故が発生したとき ..... 70
始動できないときは..... 417
始動方法 ..... 164
車両接近通報装置..... 64
充電 ..... 65
注意 ..... 67
特徴 ..... 63
特有の音と振動..... 66
パワー（イグニッション）スイッチ ..... 164
補機バッテリーがあがった ..... 421
メンテナンス・修理・廃車するとき ..... 66
ハイブリッドシステムインジケーター..... 89
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 ..... 352

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ハザードランプ（非常点滅灯）..... 357
スイッチ ..... 357
電球（バルブ）の
交換..... 346, 347, 352
ワット数 ..... 438
挟み込み防止機能
パワーウインドウ..... 146
ムーンルーフ ..... 150
発炎筒 ..... 358
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 352
ワット数 ..... 438
バックドア..... 118
警告メッセージ ..... 375
バックドアハンドル..... 118
バッテリーあがりを
防ぐために ..... 119
半ドア警告灯 ..... 370
バッテリー（駆動用電池）..... 67
充電について ..... 65
搭載位置 ..... 67
冷却用吸入口 ..... 68
冷却用吸入口／
フィルターの手入れ ..... 317
バッテリー（補機バッテリー）..... 323
搭載位置 ..... 323
バッテリーがあがった..... 421
パドルシフトスイッチ ..... 173
バニティ（化粧用）ミラー ..... 301
バニティミラーランプ ..... 301
装備について ..... 301
ワット数 ..... 438
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 342
ワット数 ..... 438
パワーウインドウ ..... 146
ウインドウロックスイッチ ..... 146
閉めることができないときは ... 147
操作 ..... 146
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 ..... 147
挟み込み防止機能..... 146
パワーコントロールユニット..... 67
パワースイッチ ..... 164
自動電源 OFF 機能 ..... 166
車両を緊急停止するには ..... 360
ハイブリッドシステム
始動のしかた ..... 164
モードの切りかえ..... 165
パワーステアリング ..... 263
パワーステアリング警告灯 ..... 369
パンクした
応急用タイヤ装着車..... 407
タイヤパンク応急修理キット
装着車 ..... 393
番号灯
（ライセンスプレートランプ）..... 178
電球（バルブ）の交換..... 352
ランプスイッチ..... 178
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 138
位置調整 ..... 138
ステアリングヒーター ..... 289

## ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 263
PKSB ..... 248
静止物 ..... 254
ヒーター
オートエアコン ..... 279
シートヒーター ..... 289
ステアリングヒーター..... 289
ミラーヒーター ..... 283
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 357
スイッチ ..... 357
電球（バルブ）の
交換..... 346, 347, 352
ワット数 ..... 438
尾灯（テールランプ）..... 178
電球（バルブ）の交換..... 352
ランプスイッチ ..... 178
ヒューズ..... 339
表示灯 ..... 84
日よけ（サンバイザー）..... 301
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 263

## ふ

ブースターケーブルのつなぎ方..... 421
フォグランプ..... 187
スイッチ ..... 187
電球（バルブ）の交換..... 352
ブザー
LDA ..... 216
シートベルト非着用警告..... 370
シフトダウン制限警告..... 174
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 232
パーキングブレーキ
未解除走行時警告 ..... 368
ブレーキ警告 ..... 368
ムーンルーフ開警告..... 150
リバース警告 ..... 174
フック
けん引フック ..... 366
荷物固定用フック..... 297
フロアマット固定フック..... 24
フューエルメーター（燃料計）..... 87
フューエルリッド（給油口）..... 197
給油扉が開かない..... 199
給油のしかた ..... 197
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 270
冬用タイヤ..... 270
プラズマクラスター ..... 286
プリクラッシュ
セーフティ（PCS）..... 206
機能 ..... 206
設定を変更する..... 209
PCS 警告灯..... 369

ブレーキ
回生ブレーキ ..... 65
緊急ブレーキシグナル..... 263
警告ブザー ..... 368
パーキングブレーキ..... 177
ブレーキ警告灯 ..... 368
メンテナンスデータ..... 436
ブレーキアシスト ..... 263
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 ..... 369
機能 ..... 263
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる ..... 159
ブレーキフルード ..... 436
フロアマット ..... 24
フロントシート ..... 128
シートヒーター ..... 289
シートポジションメモリー ..... 132
正しい運転姿勢 ..... 26
調整 ..... 128
手入れ ..... 316
ドライビングポジション
メモリー ..... 132
ヘッドレスト ..... 136
フロントフォグランプ ..... 187
スイッチ ..... 187
電球（バルブ）の交換..... 352
フロント方向指示灯 ..... 176
電球（バルブ）の交換.... 346, 347
方向指示レバー ..... 176
ワット数 ..... 438

## へ

平均車速..... 94
平均燃費..... 94
ヘッドランプ ..... 178
クリーナー ..... 196
手動光軸調整ダイヤル ..... 180
電球（バルブ）の
交換..... 343, 345, 352
ライトセンサー..... 181
ランプ消し忘れ防止機能 ..... 181
ランプスイッチ..... 178
ヘッドランプオートレベリング
システム ..... 181
ヘッドレスト ..... 136
ヘルプネットスイッチパネル ※

## ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 407
メンテナンスデータ..... 437
ホイールナットレンチ ..... 395, 408
方向指示灯..... 176
電球（バルブ）の
交換..... 346, 347, 352
方向指示レバー..... 176
ワット数 ..... 438
ホーン（警音器）..... 138

補機バッテリー
搭載位置 ..... 323
バッテリーがあがった..... 421
保証 ..... 9
ボトルホルダー..... 295
ボンネット..... 322
開け方 ..... 322
警告メッセージ ..... 375

## ま

マスターウォーニング ..... 370
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 92
警告メッセージ ..... 372
ドライブ
インフォメーション ..... 94
メーター操作スイッチ..... 93

## み

ミラー
インナーミラー ..... 140
ドアミラー ..... 142
バニティミラー ..... 301
ミラーヒーター ..... 283

## む

ムーンルーフ..... 149
操作 ..... 149
挟み込み防止機能..... 150

## め

メーター（計器類）..... 86
警告灯 ..... 368
照度調整 ..... 88
表示切りかえボタン..... 88
表示灯 ..... 84
マルチインフォメーション
ディスプレイ ..... 92
メーター ..... 86
メカニカルキー ..... 109
メモリーコール機能 ..... 134
メンテナンスデータ ..... 434

## も

モーター（電気モーター）..... 67
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 169

## ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 ..... 439
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 430
油脂類..... 434

## ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 178
電球（バルブ）の交換..... 352
ランプスイッチ..... 178
ラゲージフック ..... 297
ラジエーター
オーバーヒート..... 426
メンテナンスデータ..... 436

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ランプ
室内灯 ..... 291
電球（バルブ）の交換..... 342
パーソナルランプ..... 292
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 357
フロントフォグランプ..... 187
ヘッドランプ（前照灯）..... 178
方向指示灯
（ターンシグナルランプ／
ウインカー）..... 176
ライトセンサー ..... 181
ランプ消し忘れ防止機能..... 181
リヤフォグランプ..... 187
ルームランプ ..... 291
ワット数 ..... 438
ランプ消し忘れ防止機能 ..... 181, 292

## り

リモートタッチ..... 96, 279
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ ..... 283
リヤシート..... 130
リヤフォグランプ..... 187
スイッチ ..... 187
電球（バルブ）の交換..... 352
リヤ方向指示灯..... 176
電球（バルブ）の交換..... 352
方向指示レバー ..... 176

## る

ルームミラー（インナーミラー）... 140
ルームランプ..... 291

## れ

レーダークルーズコントロール..... 225
警告メッセージ..... 381
接近警報 ..... 232
レーダー ..... 202
レーンディパーチャーアラート
（ステアリング制御機能付き）..... 215
操作 ..... 219
冷却水..... 436
冬の前の準備 ..... 270
メンテナンスデータ..... 436
冷却装置（ラジエーター）..... 436
オーバーヒート..... 426
メンテナンスデータ..... 436
レバー
シフト ..... 171
方向指示 ..... 176
ボンネット解除..... 322
ロック（ドア）..... 115

## ろ

ロック
ウインドウロック..... 146
スマートエントリー＆
スタートシステム ..... 123
チャイルドプロテクター..... 115
ドア ..... 113
バックドア ..... 118
ワイヤレスリモコン..... 108

## わ

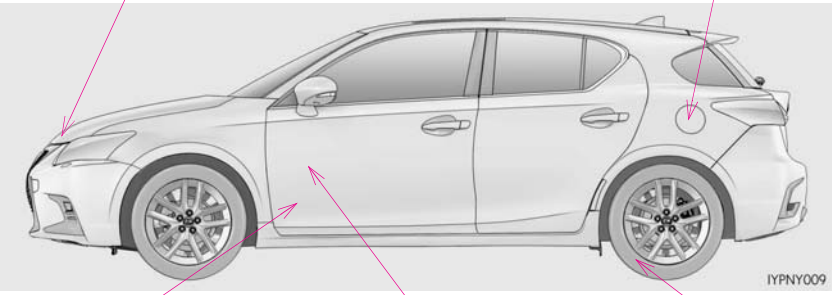
ワイパー＆ウォッシャー
ウォッシャー液の補充..... 329
フロント ..... 190
フロントワイパーデアイサー ... 284
リヤ ..... 194
ワイヤレスリモコン ..... 108
作動の合図 ..... 113
操作 ..... 108
電池の交換 ..... 336
半ドア警告ブザー..... 114
ワックス..... 312
ワット数..... 438

## ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック
P. 322

給油口
P. 198




ボンネット解除レバー
P. 322

給油口オープナー
P. 198

タイヤ空気圧
P. 437

| | |
|---|---|
| 燃料の容量（参考値） | 45L |
| 燃料の種類 | 無鉛レギュラーガソリン　P. 434 |
| タイヤが冷えているときの空気圧 | P. 437 |
| エンジンオイル容量（参考値） | オイルのみ交換時：　3.9L<br>オイルとフィルター交換時：4.2L |
| エンジンオイルの種類 | 弊社純正モーターオイル<br>・ SN 0W-20（API SN／RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20）<br>・ SN 5W-30（API SN／RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30）<br>P. 434 |

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

●イ-76

M76426
01999-76426
NAI-2020年10月 14日
2020年 8 月20日 初版
2020年10月 21日 2 版
CT200h